



Cisco Unified Presence コンフィギュレーションメンテナ ンス ガイド

**Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified
Presence**

リリース 7.0

2009 年 1 月 27 日

**【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。**

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップ
デートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合があ
りますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サ
イトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊
社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任は一切負わないものとします。

CCVP, the Cisco logo, and Welcome to the Human Network are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networkers, Networking Academy, Network Registrar, PIX, ProConnect, ScriptShare, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0711R)

Cisco Unified Presence コンフィギュレーション メンテナンス ガイド
Copyright © 2009 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2009–2010, シスコシステムズ合同会社.
All rights reserved.



CONTENTS

CHAPTER 1

Cisco Unified Presence の管理ページを使用する前に	1-1
Cisco Unified Presence の概要	1-1
Cisco Unified Presence のインストール後の設定	1-2
Cisco Unified Presence の管理ページへのアクセス方法	1-4
Cisco Unified Presence の管理ページへのログイン	1-4
Cisco Unified Presence の管理ページからのログオフ	1-5
Cisco Unified Presence の管理ページのインターフェイスについて	1-5
Cisco Unified Presence の管理ページのメニュー オプション	1-5
Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ リンク	1-6
Cisco Unified Presence の管理ページでのアクセシビリティの設定方法	1-6
ウィンドウ内のアイコンへのアクセス	1-6
ウィンドウ内のボタンへのアクセス	1-7
ブラウザと Cisco Unified Presence 間のセキュアな通信を確保する方法	1-7
Web ブラウザ セッション	1-7
Hypertext Transfer Protocol Over Secure Sockets Layer (HTTPS)	1-8
セキュリティの警告	1-8
[セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログボックスの無効化	1-8
Cisco Unified Presence の管理ページでの Internet Explorer と HTTPS の使用	1-9
参考情報	1-10

CHAPTER 2

Cisco Unified Presence の管理ページでのシステム トポロジの設定	2-1
システム トポロジ インターフェイス	2-1
Cisco Unified Presence サブクラスタの操作方法	2-3
サブクラスタの設定	2-3
サブクラスタの削除	2-5
Cisco Unified Presence ノードの操作方法	2-5
ノードの設定	2-5
ノードの割り当て	2-9
ノードの移動	2-10
ノードの削除	2-10
Cisco Unified Presence ユーザの操作方法	2-10
ユーザ割り当ての設定	2-11
マルチノード展開でのユーザの分散	2-13
デフォルト ユーザ割り当てのアクティブ化と非アクティブ化	2-15

ユーザの割り当て解除	2-16
ユーザの再割り当て	2-17
システム トポロジのトラブルシューティング	2-19

CHAPTER 3

Cisco Unified Presence の管理ページでの Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの変更 3-1

Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ情報の変更	3-1
Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのステータス	3-3

CHAPTER 4

Cisco Unified Presence の管理ページでのアプリケーション リスナーの設定 4-1

アプリケーション リスナーの設定	4-1
アプリケーション リスナーの検索	4-3
アプリケーション リスナーの削除	4-4

CHAPTER 5

Cisco Unified Presence の管理ページでのライセンス管理 5-1

Cisco Unified Presence のライセンスについて	5-1
ライセンス ファイルの要件	5-1
ライセンス ファイルの内容	5-2
新規インストール用のサーバライセンスの取得	5-3
必要なエンドユーザライセンス数の計算方法	5-4
エンドユーザライセンス数の計算	5-4
ライセンス ユニット レポートの生成	5-5
ライセンスの割り当て方法とライセンス済みユーザの検索方法	5-5
ライセンスの割り当て	5-5
ライセンス済みユーザの検索	5-6
重複したライセンス済みユーザの表示	5-7
ライセンス ファイルのアップロード方法	5-7
Cisco Unified Presence へのライセンス ファイルのアップロード	5-7
Cisco Unified Communications Manager へのエンドユーザライセンスのアップロード	5-8

CHAPTER 6

Cisco Unified Presence の管理ページでの着信 ACL の設定 6-1

許可されている ACL フォーマット	6-1
着信 ACL の設定	6-2
着信 ACL エントリの検索	6-3
着信 ACL エントリの削除	6-4

CHAPTER 7	Cisco Unified Presence の管理ページでの発信 ACL の設定	7-1
	許可されている ACL フォーマット	7-1
	発信 ACL の設定	7-2
	発信 ACL エントリの検索	7-3
	発信 ACL エントリの削除	7-4
CHAPTER 8	Cisco Unified Presence の管理ページでの TLS コンテキストの設定	8-1
	TLS コンテキストの設定	8-1
	TLS コンテキストの検索	8-3
	TLS コンテキストの削除	8-4
CHAPTER 9	Cisco Unified Presence の管理ページでの TLS ピア サブジェクトの設定	9-1
	TLS ピア サブジェクトの設定	9-1
	TLS ピア サブジェクトの検索	9-2
	TLS ピア サブジェクトの削除	9-3
CHAPTER 10	Cisco Unified Presence の管理ページでのサービス パラメータの設定	10-1
	サービス パラメータを設定するための前提条件	10-1
	サーバに対するサービス パラメータの設定	10-1
	サービス パラメータの表示	10-2
CHAPTER 11	Cisco Unified Presence の管理ページでの設定値の設定	11-1
	Cisco Unified Presence の設定値の設定	11-1
CHAPTER 12	Cisco Unified Presence の管理ページでのプレゼンス ゲートウェイの設定	12-1
	プレゼンス ゲートウェイの設定	12-1
	プレゼンス ゲートウェイの検索	12-7
	プレゼンス ゲートウェイの削除	12-8
CHAPTER 13	Cisco Unified Presence の管理ページでのクラスタ間ピアの設定	13-1
	クラスタ間ピアの設定	13-1
	クラスタ間ピアのステータス	13-3
	クラスタ間ピアの検索	13-4
	クラスタ間ピアの削除	13-5
CHAPTER 14	Cisco Unified Presence の管理ページでのフェデレーション ドメインの設定	14-1
	フェデレーション ドメインの設定	14-1

フェデレーション ドメインの検索	14-2
フェデレーション ドメインの削除	14-3

CHAPTER 15

Cisco Unified Presence の管理ページでのユーザ エージェントの設定 15-1

ユーザ エージェントの設定	15-1
ユーザ エージェントの検索	15-2
ユーザ エージェントの削除	15-3
ユーザ エージェントのコピー	15-4

CHAPTER 16

Cisco Unified Presence の管理ページでの SIP プロキシ サーバの設定 16-1

プロキシ サーバの設定	16-1
プロキシ サーバの設定値の設定	16-1
プロキシ サービスの再起動	16-2

CHAPTER 17

Cisco Unified Presence の管理ページでのスタティック ルートの設定 17-1

スタティック ルートの設定	17-1
スタティック ルートの検索	17-4
スタティック ルートの削除	17-5

CHAPTER 18

Cisco Unified Presence の管理ページでのコンテンツベースの SIP メッセージ ルーティングの設定 18-1

メソッドベースまたはイベントベースのルートの設定	18-1
メソッド/イベント ルートの検索	18-2
メソッド/イベント ルートの削除	18-3

CHAPTER 19

Cisco Unified Presence の管理ページでの番号拡張の設定 19-1

番号拡張の設定	19-1
番号拡張パターンの検索	19-2
番号拡張パターンの削除	19-3

CHAPTER 20

Cisco Unified Presence の管理ページでの Cisco Unified Personal Communicator サーバおよびユーザの設定値の設定 20-1

Cisco Unified Presence での Cisco Unified Personal Communicator サーバの設定値の設定	20-1
Cisco Unified Presence での Cisco Unified Personal Communicator ユーザの設定値の設定方法	20-3
Cisco Unified Personal Communicator ユーザの設定	20-3
Cisco Unified Personal Communicator ユーザの検索	20-5

ユーザの削除 20-6

CHAPTER 21

Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール サーバ、ボイスメール プロファイル、およびメールストアの設定 21-1

Cisco Unified Personal Communicator と Cisco Unified Presence 間のセキュア ボイスメッセージングについて 21-1

Cisco Unified Personal Communicator でのセキュア ボイスメッセージング設定 21-1

Cisco Unified Presence でのセキュア ボイスメッセージング設定 21-2

Cisco Unified Presence でのボイスメール サーバの設定方法 21-2

ボイスメール サーバの設定 21-3

ボイスメール サーバの検索 21-4

ボイスメール サーバの削除 21-4

Cisco Unified Presence でのメールストアの設定方法 21-5

メールストアの設定 21-5

メールストアの検索 21-7

メールストアの削除 21-7

Cisco Unified Presence でのボイスメール プロファイルの設定方法 21-8

ボイスメール プロファイルの設定 21-8

ボイスメール プロファイルの検索 21-11

ボイスメール プロファイルの削除 21-12

CHAPTER 22

Cisco Unified Presence の管理ページでの会議サーバおよびプロファイルの設定 22-1

Cisco Unified Presence での会議サーバの設定方法 22-1

会議サーバの設定 22-1

会議サーバの検索 22-4

会議サーバの削除 22-5

Cisco Unified Presence での会議プロファイルの設定方法 22-5

会議プロファイルの設定 22-5

会議プロファイルの検索 22-7

会議プロファイルの削除 22-8

CHAPTER 23

Cisco Unified Presence の管理ページでの Cisco Unified Personal Communicator CTI ゲートウェイの設定値の設定 23-1

CTI ゲートウェイの設定方法 23-1

CTI ゲートウェイ サーバの設定 23-1

CTI ゲートウェイ サーバの検索 23-2

CTI ゲートウェイ サーバの削除 23-3

CTI ゲートウェイ プロファイルの設定方法 23-4

CTI ゲートウェイ プロファイルの設定	23-4
CTI ゲートウェイ プロファイルの検索	23-6
CTI ゲートウェイ プロファイルの削除	23-7

CHAPTER 24

Cisco Unified Presence の管理ページでの LDAP サーバおよびプロファイルの設定 24-1

Cisco Unified Presence での LDAP サーバの設定方法	24-1
LDAP サーバの設定	24-1
LDAP サーバの検索	24-2
LDAP サーバの削除	24-3
Cisco Unified Presence での LDAP プロファイルの設定方法	24-4
LDAP プロファイルの設定	24-4
LDAP プロファイルの検索	24-6
LDAP プロファイルの削除	24-7

CHAPTER 25

Cisco Unified Presence の管理ページでの IP Phone Messenger のステータス、設定値、および応答メッセージの設定 25-1

Cisco Unified Presence での IPPM の管理方法	25-1
IPPM エンドユーザ ステータスの検索	25-1
IPPM エンドユーザのログアウト	25-2
ブロードキャスト メッセージの送信	25-3
Cisco Unified Presence での IPPM の設定値の設定	25-3
Cisco Unified Presence での IP Phone 応答メッセージの設定方法	25-5
応答メッセージの設定	25-5
応答メッセージの検索	25-6
応答メッセージの削除	25-6
Cisco Unified Presence での会議通知の設定値の設定	25-7

CHAPTER 26

Cisco Unified Presence の管理ページでのプラグインの設定 26-1

Cisco Unified Presence のプラグイン	26-1
Cisco Unified Presence へのプラグインのインストール	26-2
Cisco Unified Presence でのプラグイン URL の更新	26-2

CHAPTER 27

Cisco Unified Presence の管理ページでのアプリケーション ユーザおよびエンドユーザの管理 27-1

アプリケーション ユーザの管理方法	27-1
アプリケーション ユーザの設定	27-1
アプリケーション ユーザの検索	27-4
ユーザ クレデンシャル	27-4
アプリケーション ユーザ パスワードの変更	27-5

	ユーザ クレデンシャルの変更	27-5	
	エンドユーザ情報のクエリーを実行する方法	27-7	
	ライセンス済みエンドユーザとログイン済みエンドユーザに対する詳細クエリー		27-7
	ライセンス済みエンドユーザまたはログイン済みエンドユーザの検索	27-8	
CHAPTER 28	Cisco Unified Presence の管理ページでのユーザ権限の設定		28-1
	Cisco Unified Presence でのユーザ権限の管理方法	28-1	
	権限の設定	28-2	
	権限の検索	28-3	
	権限の削除	28-4	
CHAPTER 29	Cisco Unified Presence での一括管理の使用		29-1
	一括管理を使用してファイルをアップロード / ダウンロードする方法		29-1
	ファイルの検索	29-2	
	ファイルのダウンロード	29-3	
	ファイルのアップロード	29-3	
	ファイルの削除	29-4	
	一括管理を使用してエンドユーザ情報を更新する方法	29-4	
	エンドユーザ情報を更新するための前提条件	29-4	
	Cisco Unified Presence での CUPC と固定電話のユーザ情報の更新		29-5
	Cisco Unified Presence のサブクラスタ内のユーザの更新	29-5	
	一括管理を使用してエンドユーザ情報をエクスポートする方法	29-6	
	Cisco Unified Presence からの CUPC/ 固定電話のユーザ情報のエクスポート		29-6
	Cisco Unified Presence からのサブクラスタ ユーザ情報のエクスポート方法		29-7
	ユーザの検索	29-8	
	ユーザ レコードのエクスポート	29-9	
CHAPTER 30	Cisco Unified Presence の管理ページでのユーザ グループの設定		30-1
	Cisco Unified Presence でのユーザ グループの管理方法	30-1	
	ユーザ グループの設定	30-1	
	ユーザ グループの検索	30-3	
	ユーザ グループへのアプリケーション ユーザの追加	30-3	
	ユーザ グループへの権限の割り当て	30-4	
	ユーザ グループの削除	30-5	
	ユーザ グループからのユーザの削除	30-6	
	ユーザの権限、ユーザ グループ、およびアクセス権の表示	30-6	
CHAPTER 31	Cisco Unified Presence でのジョブをスケジューリングするための一括管理の使用		31-1
	Bulk Provisioning Service の管理方法	31-1	

Bulk Provisioning Service のアクティブ化	31-1
BPS の起動、停止、または再起動	31-2
BPS の非アクティブ化	31-2
Cisco Unified Presence でのジョブのスケジューリング方法	31-3
ジョブのスケジューリング	31-3
ジョブの検索	31-5

CHAPTER 32

Cisco Unified Presence の管理ページでのシステム情報の表示 32-1

システム ダッシュボード	32-1
今回のリリースでの最新情報	32-1
システム ステータスの表示	32-1

CHAPTER 33

Cisco Unified Presence の管理ページでのプレゼンス ビューアの使用 33-1

プレゼンス ビューア	33-1
プレゼンス ビューアの使用法	33-3
Cisco Unified Presence エンドユーザの検索	33-4
プレゼンス ビューアのトラブルシュータと解決策	33-5

CHAPTER 34

Cisco Unified Presence の管理ページでのシステム設定トラブルシュータの使用 34-1

システム設定トラブルシュータの使用法	34-1
システム設定のテストと解決策	34-2

CHAPTER 35

Cisco Unified Presence の管理ページでの固定電話制御の設定とトラブルシューティング 35-1

固定電話制御の設定	35-1
ユーザへの固定電話制御機能の割り当て方法	35-2
ユーザへの固定電話制御機能の割り当て	35-2
ユーザからの固定電話制御機能の割り当て解除	35-3
固定電話制御機能のトラブルシューティング	35-4
固定電話制御トラブルシュータ	35-4
固定電話制御トラブルシュータのテストと解決策	35-5
固定電話制御トラブルシュータの使用法	35-6
Cisco Unified Presence ユーザの検索	35-7

INDEX



CHAPTER 1

Cisco Unified Presence の管理ページを使用する前に

- 「Cisco Unified Presence の概要」 (P.1-1)
- 「Cisco Unified Presence のインストール後の設定」 (P.1-2)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページへのアクセス方法」 (P.1-4)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページのインターフェイスについて」 (P.1-5)
- 「ブラウザと Cisco Unified Presence 間のセキュアな通信を確保する方法」 (P.1-7)
- 「参考情報」 (P.1-10)

Cisco Unified Presence の概要

Cisco Unified Presence は、Session Initiation Protocol (SIP; セッション開始プロトコル) テクノロジーを展開して新たな音声サービスを企業環境でサポートする場合に役立ちます。SIP により、さまざまな機能やサービスに適用できる、セッションの確立および管理に関する一連の主要な動作を提供することで、音声ネットワークが強化されます。Cisco Unified Presence では、SIP コアをサポートするだけでなく、SIP for Instant Messaging and Presence Leveraging Extensions (SIMPLE) テクノロジーを採用することで、Instant Messaging (IM; インスタント メッセージ) とプレゼンスの両方をサポートします。

Cisco Unified Presence には、SIP プレゼンス エンジンと SIP プロキシ機能があります。プレゼンス エンジンでは、ユーザのプレゼンス情報 (話中、アイドル、不在、または応対可能のステータス) だけでなく、ユーザの機能 (音声、画像、IM、Web コラボレーションなどに対応した機能) に関する情報も収集し、ユーザ単位でリポジトリにデータを蓄積します。ユーザが採用するアプリケーションや機能からリポジトリへ個別にアクセスできます。各ユーザが独自のユーザ ルールおよびプライバシーを適用することで、許可されたアプリケーションおよびユーザだけがプレゼンス情報へアクセスできるようになっています。SIP プロキシ機能により、プレゼンス情報と一般的な SIP メッセージの両方を、企業全体で効率的かつ正確にルーティングできます。

さまざまなデスクトップクライアントやアプリケーションと強力に統合された Cisco Unified Presence を使用すると、Cisco のエンタープライズデスクトップクライアントである Cisco Unified Personal Communicator で、クリック ツー ダイアログや電話機制御、音声、ビデオ、Web コラボレーションなど、さまざまな機能を実行できます。さらに、Cisco Unified Presence では、Cisco Unified Communications Manager に接続されている Cisco Unified IP Phone のコアとなる IM サービスも提供します。また、Cisco Unified Presence では、IBM Sametime や Microsoft Office Communicator などのエンタープライズデスクトップアプリケーションとの相互運用性もサポートしています。この相互運用性により、Cisco Unified Communications Manager でサポートされている Cisco Unified IP Phone とともに、これらのデスクトップアプリケーションを運用できます。

Cisco Unified Presence のインストール後の設定

Cisco Unified Presence の初回インストール後に Cisco Unified Presence の管理ページに初めてログインすると、インストール後の設定用の GUI が起動します。

初回インストール後に限り、Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードで Cisco Unified Communications Manager (CUCM) パブリッシャ情報と AXL 情報を設定するように要求されます。Cisco Unified Presence サブスクリバ ノードでは、最初のノード設定チェックの後でパブリッシャ ノードから CUCM パブリッシャ情報が取得されます。



(注)

次に Cisco Unified Presence の管理ページにログインすると、インストール後の設定が完了していることがアプリケーションで自動的に検出された後で、[Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] ウィンドウが表示されます。「[Cisco Unified Presence の管理ページへのログイン](#)」(P.1-4) を参照してください。

始める前に

必ず Cisco Unified Presence の初回インストールの直後にインストール後の展開ウィザードを実行してから、Disaster Recovery System でデータのバックアップや復元を行ってください。



注意

Cisco Unified Presence をインストールした後で、インストール後の展開ウィザードを実行する前に Disaster Recovery System でデータのバックアップや復元を行うと、処理が正常に実行されません。詳細については、『*Disaster Recovery System Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Presence の管理ページにログインします。

ステップ 2 次の説明に従って、インストール後の展開ウィザードを実行します。

ウィンドウ	設定手順
[インストール後の設定 (Post Install Setup)] ウィンドウ Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ情報 ページ 1/5	<ol style="list-style-type: none"> a. [ホスト名 (Hostname)] フィールドに Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのホスト名を 128 文字以内で入力します。 b. (オプション) [IP アドレス (IP address)] フィールドに Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードの IP アドレスを入力します。IP アドレスを指定しない場合、このフィールドはシステムで自動的に解決されます。 c. Cisco Unified Presence の初回インストール時に指定したセキュリティ パスワードを変更して確認します。 d. [次へ (Next)] をクリックします。
[インストール後の設定 (Post Install Setup)] ウィンドウ AXL 情報 ページ 2/5	<ol style="list-style-type: none"> a. 関連付けられた Cisco Unified Communications Manager の最初のノードで Standard AXL API Access の役割が割り当てられているアプリケーション ユーザのユーザ名とパスワードを入力する必要があります。50 文字以内で入力します。 b. Cisco Unified Communications Manager の設定に従って、AXL ユーザのパスワードを入力して確認します。許容最大文字数は 128 文字です。 c. [次へ (Next)] をクリックします。
[インストール後の設定 (Post Install Setup)] ウィンドウ セキュリティ (IPSec) 情報 ページ 3/5	<ol style="list-style-type: none"> a. Cisco Unified Communications Manager の設定に従って、IPSec セキュリティ パスワードを入力します。許容最大文字数は 128 文字です。 b. Cisco Unified Communications Manager の設定に従って、IPSec セキュリティ パスワードを確認します。
[インストール後の設定 (Post Install Setup)] ウィンドウ 要約情報 ページ 4/5	設定を確認した後、次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • エラーを修正する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。 • 処理を続ける場合は、[確認 (Confirm)] をクリックします。
[インストール後の設定 (Post Install Setup)] ウィンドウ 次のステップ ページ 5/5	次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] ウィンドウを表示する場合は、[ホーム (Home)] をクリックします。 • Cisco Unified Presence の [システム ダッシュボード (System Dashboard)] ウィンドウを表示する場合は、[システム ダッシュボード (System Dashboard)] をクリックします。 • [システム トポロジ (System Topology)] ウィンドウを表示する場合は、[トポロジ (Topology)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- エラーメッセージが表示された場合は、AXL が Cisco Unified Communications Manager で実行中であるかどうかと、自分のユーザ ID とパスワードの正否をチェックできます。ブラウザを使用して、`http://<<CUCM ホスト名>>/axl` と入力します。ユーザ ID とパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。入力した詳細が正確な場合は、AXL が実行中であり、要求を受信できる状態にあることを示す確認メッセージが Web ページに表示されます。
- インストール後の設定用の GUI を 2 回実行することはできません。初期設定後に Cisco Unified Communications Manager のパブリッシャ アドレスまたは AXL 情報を変更する必要がある場合は、Cisco Unified Presence の管理ページの [Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ (Cisco Unified Communications Manager Publisher)] ページを使用します。第 3 章「Cisco Unified Presence の管理ページでの Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの変更」を参照してください。
- ネットワークに DNS が存在しないために、入力したホスト名で IP アドレスが解決されない場合は、IP アドレス フィールド (ページ 1/4) が必須フィールドになります。ホスト名で IP アドレスが解決される場合は、IP アドレスを空白のままにすることができます。これで、アプリケーションによって IP アドレスが自動的に検出されます。
- デフォルトでは、CCAdministrator というユーザ ID に Standard AXL API Access の役割が割り当てられています。

関連項目

『Disaster Recovery System Guide for Cisco Unified Presence』

Cisco Unified Presence の管理ページへのアクセス方法

- 「Cisco Unified Presence の管理ページへのログイン」 (P.1-4)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページからのログオフ」 (P.1-5)

Cisco Unified Presence の管理ページへのログイン

始める前に

- Cisco Unified Presence をインストールした後で Cisco Unified Presence の管理ページに初めてログインした場合は、必ずインストール後の設定を実行してください。詳細については、「Cisco Unified Presence のインストール後の設定」 (P.1-2) を参照してください。
- 必要に応じて、[セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログを無効にします。「[セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログボックスの無効化」 (P.1-8) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** オペレーティング システム ブラウザ (Internet Explorer (IE) 6.x) を起動します。
- ステップ 2** Web ブラウザのアドレス バーに次の URL を入力します (大文字と小文字が区別されます)。
`https://< サーバ名 >`
 < サーバ名 > は、サーバの名前または IP アドレスです。
- ステップ 3** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] をクリックします。
- ステップ 4** [セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログボックスが表示されたら、適切なオプションをクリックします。

ステップ 5 [ログイン (Logon)] ウィンドウで次の操作を実行します。

- a. Cisco Unified Presence のインストール時に指定したアプリケーション ユーザ パスワードを入力します。
- b. [送信 (Submit)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- セキュリティ上の目的で、30 分後に Cisco Unified Presence の管理ページから自動的にログアウトされるため、引き続き使用する場合は再度ログインする必要があります。
- 多数のユーザが Cisco Unified Presence の管理ページに同時にログインすると、パフォーマンスが低下する場合があります。Cisco Unified Presence の管理ページに同時にログインするユーザおよび管理者の数を制限してください。

Cisco Unified Presence の管理ページからのログオフ

Cisco Unified Presence の管理ページのメイン ウィンドウの右上隅にある [ログオフ (Log Off)] をクリックします。

Cisco Unified Presence の管理ページのインターフェイスについて

- 「[Cisco Unified Presence の管理ページのメニュー オプション](#)」 (P.1-5)
- 「[Cisco Unified Communications Manager パブリッシュ リンク](#)」 (P.1-6)

Cisco Unified Presence の管理ページのメニュー オプション

ログインすると、Cisco Unified Presence の管理ページのメイン ウィンドウが表示されます。このウィンドウの右上隅に [ナビゲーション (Navigation)] というリスト ボックスがあります。このリスト ボックス内のアプリケーションにアクセスするには、目的のプログラムを選択して [移動 (Go)] をクリックします。このリスト ボックスには、次の Cisco Unified Presence アプリケーションが含まれています。

- Cisco Unified Presence の管理ページ : Cisco Unified Presence にアクセスした場合のデフォルト オプションとして表示されます。Cisco Unified Presence の管理ページを使用して、システム パラメータ、アプリケーションなどを設定します。
- Cisco Unified Serviceability : Cisco Unified Presence のサービスアビリティ ページのメイン ウィンドウに移動します。このウィンドウでは、トレース ファイルとアラームの設定やサービスのアクティブ化/非アクティブ化を実行します。
- Cisco Unified OS の管理ページ : [ログイン (Logon)] ウィンドウに移動します。このウィンドウでは、Cisco Unified Presence プラットフォームを設定して管理できます。
- Disaster Recovery System : Cisco Disaster Recovery System に移動します。このプログラムには、Cisco Unified Presence クラスタ内のすべてのサーバに対する完全なデータ バックアップ機能とデータ復元機能があります。

これらのアプリケーションは、追加のセキュリティで保護されているため、これらのプログラムへアクセスするには、ユーザ ID とパスワードを入力する必要があります。

Cisco Unified Presence の管理ページと Cisco Unified のサービスアビリティ ページは同じセキュリティ レベルを共有しているため、これらの 2 つのアプリケーション間を移動する場合は認証は必要ありません。ただし、Cisco Unified Presence の管理ページから Cisco Unified Communications のオペレーティング システム プラットフォームまたは Cisco Unified Presence の Disaster Recovery System に移動する場合やその逆の方向に移動する場合には、認証が必要となります。

Cisco Unified Communications Manager パブリッシュ リンク

Cisco Unified Presence の管理ページのメイン ウィンドウには、関連付けられている Cisco Unified Communications Manager パブリッシュ サーバに直接移動するためのリンクがあります。Cisco Unified CM の管理 にアクセスするには、このウィンドウの下部にある **Cisco Unified Communications Manager** パブリッシュの IP アドレスをクリックします。

Cisco Unified Presence の管理ページでのアクセシビリティの設定方法

Cisco Unified Presence の管理ページと Cisco Unified Presence ユーザ オプション ページには、ユーザがマウスを使用せずにウィンドウのボタンにアクセスするための機能が用意されています。ウィンドウの任意の場所から次の手順を実行できるため、ユーザはさまざまなフィールドでのスクロールやタブなどの操作が不要になります。

- 「ウィンドウ内のアイコンへのアクセス」(P.1-6)
- 「ウィンドウ内のボタンへのアクセス」(P.1-7)

ウィンドウ内のアイコンへのアクセス

Cisco Unified Presence の多くのウィンドウでは、保存を表すディスクのアイコンや追加を表すプラス (+) 記号のアイコンなどが上部に表示されています。

手順

-
- ステップ 1** Alt キー、1 キー、Tab キーの順に押します。
 - ステップ 2** カーソルにより一番左側のアイコンが強調表示されます。もう一度 Tab キーを押して、次のアイコンに移動します。
 - ステップ 3** 次に Enter キーを押して、該当するアイコンの機能を実行します。
-

ウィンドウ内のボタンへのアクセス

Cisco Unified Presence の多くのウィンドウでは、[保存 (Save)] ボタンや [追加 (Add)] ボタンなどが下部に表示されています。

手順

-
- ステップ 1 Alt キー、2 キー、Tab キーの順に押します。
 - ステップ 2 カーソルにより一番左側のボタンが強調表示されます。もう一度 Tab キーを押して、次のボタンに移動します。
 - ステップ 3 次に Enter キーを押して、該当するボタンの機能を実行します。
-

ブラウザと Cisco Unified Presence 間のセキュアな通信を確保する方法

- 「[Web ブラウザ セッション](#)」 (P.1-7)
- 「[Hypertext Transfer Protocol Over Secure Sockets Layer \(HTTPS\)](#)」 (P.1-8)
- 「[セキュリティの警告](#)」 (P.1-8)
- 「[\[セキュリティの警告 \(Security Alert\)\] ダイアログボックスの無効化](#)」 (P.1-8)
- 「[Cisco Unified Presence の管理ページでの Internet Explorer と HTTPS の使用](#)」 (P.1-9)

Web ブラウザ セッション

Cisco Unified Presence の管理プログラムには、Web サーバでない PC および Cisco Unified Presence がインストールされていない PC からアクセスします。サーバにブラウザ ソフトウェアはありません。Cisco Unified Presence の管理ページでは、Microsoft Internet Explorer (IE) 6.x がサポートされています。

ブラウザ セッションで作業する場合は、次の点を考慮してください。

- クライアント マシンの cookie により、検索/一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻った場合や、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開いた場合は、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定が維持されます。
- ある機能の [検索と一覧表示 (Find and List)] ウィンドウを表示すると、アクティブ (優先) クエリーのレコードもこのウィンドウに表示される場合があります。
- レコードをフィルタリングする場合に検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加した検索条件を削除します。または、[フィルタのクリア (Clear Filter)] をクリックして、追加した検索条件をすべて削除します。
- 一致するレコードが表示されたら、[ページあたりの行数 (Rows per Page)] リスト ボックスから別の値を選択して、各ウィンドウに表示される項目の数を変更できます。

Hypertext Transfer Protocol Over Secure Sockets Layer (HTTPS)

ブラウザ クライアントと Web ブラウザ (Microsoft Windows ユーザ用) 間のセキュアな通信を確保する HTTP over Secure Sockets Layer (SSL) では、証明書と公開キーを使用して、インターネット上を流れるデータが暗号化されます。また、HTTPS では、Web 上でユーザのログイン パスワードがセキュリティで保護された状態で送信されます。次の Cisco Unified Presence アプリケーションは HTTPS に対応しているため、サーバの識別が保証されます。

- Cisco Unified Presence の管理ページ
- Cisco Unified のサービスアビリティ ページ
- Cisco Unified Presence のユーザ オプション ページ
- Real-Time Monitoring Tool (RTMT)
- XML (AXL) アプリケーション プログラミング インターフェイス

自己署名証明書は、インストール時に Web サーバ上で生成されます (アップグレード時にはこの証明書が移行されます)。

セキュリティの警告

管理者またはユーザがブラウザ クライアントから Cisco Unified Presence の管理ページにアクセスすると、サーバを信頼するかどうかを確認するための [セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスが表示された場合、次のいずれかのタスクを実行する必要があります。

- [はい (Yes)] をクリックすると、現在の Web セッションの間だけ証明書を信頼することになります。現在のセッションの間だけ証明書を信頼する場合は、アプリケーションにアクセスするごとに [セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログボックスが表示されます。つまり、信頼できるフォルダに証明書をインストールするまでこのダイアログボックスが表示されることになります。
- [証明書の表示 (View Certificate)] > [証明書のインストール (Install Certificate)] の順にクリックして、証明書のインストールのタスクを実行し、証明書を常に信頼することを示します。証明書を信頼できるフォルダにインストールすると、Web アプリケーションにアクセスするごとに [セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログボックスが表示されなくなります。
- [いいえ (No)] をクリックすると、操作がキャンセルされます。認証が行われられないため、Web アプリケーションにアクセスできません。Web アプリケーションにアクセスするには、[はい (Yes)] をクリックするか、または [証明書の表示 (View Certificate)] > [証明書のインストール (Install Certificate)] の順にクリックして証明書をインストールする必要があります。

[セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログボックスの無効化

Web アプリケーションにアクセスするごとに [セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログボックスが表示されないように、信頼できるフォルダにルート CA 証明書を保存できます。

手順

- ステップ 1** Web サーバのアプリケーションを参照します。
- ステップ 2** [セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログボックスが表示されたら、[証明書の表示 (View Certificate)] をクリックします。
- ステップ 3** [証明書 (Certificate)] ペインで [証明書のインストール (Install Certificate)] をクリックします。

- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** [証明書すべてを次のストアに配置する (Place all certificates in the following store)] をクリックします。
- ステップ 6** [参照 (Browse)] をクリックし、[信頼されたルート証明機関 (Trusted Root Certification Authorities)] を参照します。
- ステップ 7** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 8** [完了 (Finish)] をクリックします。
- ステップ 9** [はい (Yes)] をクリックして証明書をインストールします。
- ステップ 10** [OK] をクリックします。インポートが正常に実行されたことを示すメッセージが表示されます。
- ステップ 11** ダイアログボックスの右下隅にある [OK] をクリックします。
- ステップ 12** 証明書を信頼して、ダイアログボックスが今後表示されないようにするには、[はい (Yes)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

ローカルホスト、IP アドレス、またはホスト名を URL で使用して HTTPS 対応アプリケーションにアクセスする場合、URL の種類 (ローカルホスト、IP アドレスなど) ごとに信頼できるフォルダに証明書を保存する必要があります。このようにしないと、それぞれの種類で [セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログボックスが表示されます。

Cisco Unified Presence の管理ページでの Internet Explorer と HTTPS の使用

手順

- ステップ 1** 使用している IE ブラウザを開きます。
- ステップ 2** [ツール (Tools)] > [インターネット オプション (Internet Options)] の順に選択します。
- ステップ 3** [セキュリティ (Security)] タブを選択します。
- ステップ 4** [信頼済みサイト (Trusted sites)] をクリックします。
- ステップ 5** [サイト (Sites)] をクリックします。
- ステップ 6** Cisco Unified Presence の管理 GUI の Web アドレスを入力します (例: https://<ホスト名>)。
- ステップ 7** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- 初回ログインの後で、Internet Explorer バージョン 6.1 を使用して Cisco Unified Presence の管理 GUI にログインすると、この GUI のリストボックスが無効になっている場合があります。この状況が発生するのは、Cisco Unified Presence サーバが信頼できるサイトとして認識されていない場合です。信頼済みサイトのリストに Cisco Unified Presence サーバのホスト名を追加します。

- ホスト名を使用して Web アプリケーションにアクセスし、信頼できるフォルダに証明書をインストールした後、ローカルホストまたは IP アドレスを使用してそのアプリケーションにアクセスしようとする、セキュリティ証明書の名前とサイトの名前が一致しないことを示す [セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログボックスが表示されます。
- ローカルホスト、IP アドレス、またはホスト名を URL で使用して HTTPS 対応アプリケーションにアクセスする場合、URL の種類 (ローカルホスト、IP アドレスなど) ごとに信頼できるフォルダに証明書を保存する必要があります。このようにしないと、それぞれの種類で [セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログボックスが表示されます。

参考情報

- 『*Installation and Upgrade Guide for Cisco Unified Presence*』
このマニュアルには、Cisco Unified Presence をインストールまたはアップグレードする場合に実行する手順が記載されています。
- 『*Cisco Unified Communications Operating System Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』
このマニュアルには、ソフトウェアのアップグレードに関する情報が記載されているだけでなく、オペレーティング システム GUI やコマンドライン インターフェイスを介して利用できるユーティリティのアクセス方法と使用方法も示されています。
- 『*Serviceability Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』
このマニュアルには、アラームとトレースの設定手順、保守手順、および管理手順がステップごとに記載されているだけでなく、Cisco Unified Presence のコンポーネントをリアルタイムで監視する方法も示されています。
- 『*Cisco Unified Presence Deployment Guide*』
このマニュアルには、Cisco Unified Presence と Cisco Unified Communications Manager の設定プロセスの概要が示されているだけでなく、Cisco Unified Presence と Microsoft Live Communications Server、Microsoft Active Directory、および Microsoft Office Communicator の統合に関する情報も記載されています。
- 『*Disaster Recovery System Guide for Cisco Unified Presence*』
このマニュアルには、バックアップの設定値を設定する方法、Cisco Unified Presence データのバックアップを取る方法、およびこのデータを復元する方法が記載されています。
- Cisco Unified Presence リリースに関連した製品互換性情報については、次の URL にある『*Hardware and Software Compatibility Information for Cisco Unified Presence*』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/products_device_support_tables_list.html
- Cisco Unified Presence リリースに関連したポート情報については、次の URL にある『*Port Usage Information for Cisco Unified Presence*』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/products_device_support_tables_list.html



CHAPTER 2

Cisco Unified Presence の管理ページでのシステム トポロジの設定

- 「システム トポロジ インターフェイス」 (P.2-1)
- 「Cisco Unified Presence サブクラスタの操作方法」 (P.2-3)
- 「Cisco Unified Presence ノードの操作方法」 (P.2-5)
- 「Cisco Unified Presence ユーザの操作方法」 (P.2-10)
- 「システム トポロジのトラブルシューティング」 (P.2-19)

システム トポロジ インターフェイス

システム トポロジ インターフェイスを使用すると、Cisco Unified Presence システムで複数のサブクラスタを設定できます (各サブクラスタは 1 つまたは 2 つのノードで構成されます)。Cisco Unified Presence の各ユーザをプレゼンス サービス用の 1 つのサブクラスタに割り当てることができます。

Cisco Unified Presence のシステム トポロジ (図 2-1 を参照) は、次のフレームを含むグラフィカル フレームセットで表示されます。

- 左フレーム
このフレームはナビゲーション フレームであり、サブクラスタ、ノード、およびユーザで構成された階層ツリーとしてシステム トポロジが表示されます。
- 右フレーム
このフレームはコンテンツ フレームであり、トポロジの詳細が図で示されます。

図 2-1 Cisco Unified Presence システム トポロジのナビゲーション



左フレームでツリー階層を展開し、ナビゲーション コントロールを選択できます。

- システム トポロジ
 - サブクラスタ。  をクリックします。
 - ノード。  をクリックします。
 - ユーザ。  をクリックします。



(注)

デフォルトでは、右フレームにシステム トポロジ全体が表示されます。ノードに星型のアイコンが表示されている場合は、そのノードが Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードであることを示します。

左フレームでナビゲーション コントロールを選択すると、右フレームにその詳細が表示されます。これにより、選択した要素の設定を表示して操作できます。このページでは、ノードをサブクラスタまでドラッグアンドドロップできます。

メイン ウィンドウの右上隅に [関連リンク (Related Links)] というリスト ボックスがあります。このリスト ボックス内の設定オプションにアクセスするには、必要なオプションを選択して [移動 (Go)] をクリックします。このリスト ボックス内の選択肢として、次の設定可能な項目があります。

- システム トポロジ：デフォルトの Cisco Unified Presence トポロジが表示されます。[システム トポロジ (System Topology)] ウィンドウを使用して、Cisco Unified Presence のサブクラスタ、ノード、およびユーザを設定します。
- ユーザの割り当て：[すべての未割り当てユーザ (All Unassigned Users)] ウィンドウに移動します。このウィンドウでは、Cisco Unified Presence ノードにまだ割り当てられていないユーザを特定して設定します。
- 新規サブクラスタの追加：[新規サブクラスタの追加 (Add New Subcluster)] ページに移動します。このウィンドウでは、Cisco Unified Presence のシステム トポロジに新規のサブクラスタを設定できます。
- 新規ノードの追加：[新規ノードの追加 (Add New Node)] ウィンドウに移動します。このウィンドウでは、Cisco Unified Presence のシステム トポロジに新規のノードを設定して管理できます。

関連項目

「ユーザ割り当ての設定」(P.2-11)

「サブクラスタの設定」(P.2-3)

「ノードの設定」(P.2-5)

Cisco Unified Presence サブクラスタの操作方法

サブクラスタとは、1つのクラスタ内のノードをグループ分けするための論理コンテナのことです。サブクラスタは、次の状態にすることができます。

- 空：今後の割り当てのためのプレースホルダ
- 1つのノードを含む：シングル ノード サブクラスタでは、ユーザに High Availability (HA; 高可用性) / 冗長性が提供されません。
- 2つのノードを含む：デュアル ノード サブクラスタでは、サブクラスタのペアによってユーザに HA/ 冗長性が提供されます。

HA でない展開の場合は、シングル ノード サブクラスタを 6 つまで構成できます。デュアル ノード サブクラスタを 3 つまで構成できる HA 展開を推奨します。具体的なマルチノード展開戦略、および高可用性を実現するためのシスコの推奨事項については、『*Cisco Unified Presence Deployment Guide*』を参照してください。

- 「サブクラスタの設定」(P.2-3)
- 「サブクラスタの削除」(P.2-5)

サブクラスタの設定

サブクラスタの追加や更新は、Cisco Unified Presence データベースで実行できます。

手順

ステップ 1 次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
サブクラスタを追加する	<p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウの [新規サブクラスタの追加 (Add New Subcluster)] をクリックします。 • [関連リンク (Related Links)] リスト ボックスから [新規サブクラスタの追加 (Add New Subcluster)] を選択します。 • [移動 (Go)] をクリックします。 <p>[新規サブクラスタの追加 (Add New Subcluster)] ウィンドウが作成モードで表示されます。</p>
サブクラスタを更新する	<p>更新するサブクラスタに対して [トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウの [編集 (Edit)] をクリックします。</p> <p>[サブクラスタの詳細 (Subcluster Detail)] ウィンドウが編集モードで表示されます。</p>

ステップ 2 表 2-1 の説明に従って適切なサブクラスタの設定値を入力します。

表 2-1 Cisco Unified Presence サブクラスタの設定値

フィールド	説明
名前 (Name)	(作成または編集) サブクラスタに一意の名前を入力します。
説明 (Description)	(作成または編集) サブクラスタの説明を入力します。
割り当て済みユーザ (Assigned Users)	(編集のみ) このハイパーリンクをクリックすると、サブクラスタ ユーザ割り当て (存在する場合) に移動します。
ノード スロット 1 (Node Slot 1)	(編集のみ) このハイパーリンクをクリックすると、プライマリ ノードの詳細 (存在する場合) に移動します。
ノード スロット 2 (Node Slot 2)	(編集のみ) このハイパーリンクをクリックすると、バックアップ ノードの詳細 (存在する場合) に移動します。
サブクラスタの SRV を使用する (Use SRV for subcluster)	(編集のみ - オプション) SRV レコードを使用して、サーバアドレスがそのドメインの他のどのサーバアドレスとも異なるようにします。 (注) このフィールドを設定すると、DNS でプロビジョニングされた重み付けとプライオリティに従ってプロキシから着信先サブクラスタ内のノードに SUBSCRIBE 要求と MESSAGE 要求が送信されます。これにより、高度な負荷分散オプションの指定が可能になります。たとえば、1 つのノードがメッセージのうちの 75% を受信し、それ以外のノードが残りの 25% を受信するようにプロビジョニングできます。このフィールドを未設定のままにすると、サブクラスタ内の 2 つのノードのうちのいずれか一方を任意に選択してメッセージごとに負荷分散が適用されます (ノードごとに 50%)。具体的なマルチノード展開戦略については、『Cisco Unified Presence Deployment Guide』を参照してください。高可用性を使用することを推奨します。
サブクラスタ SRV アドレス (Subcluster SRV Address)	(編集のみ - オプション) 該当するホストに対して DNS 内の SRV レコードの値を指定します。DNS は必要ありません。このフィールドを空白のままにすると、Cisco Unified Presence により、サブクラスタ内の両方のノードにクラスタ間トラフィックが均等に負荷分散されます。 (注) DNS が必要な場合は、このパラメータを有効にして DNS アドレスを指定します。

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- 設定したサブクラスタは、[トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウにシステム トポロジの一部として組み込まれます。
- システム ダッシュボードを使用して、システム トポロジのサブクラスタ、ノード、およびユーザを表示することもできます。[診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] の順に選択します。

サブクラスタの削除

[トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウでサブクラスタを削除できます。削除するサブクラスタの隣にある [削除 (Delete)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

削除できるのは、空のサブクラスタだけです。サブクラスタにノードが含まれている場合は、必ずノードの割り当て解除または再割り当てを行ってからサブクラスタを削除してください。

関連項目

「ノードの割り当て」 (P.2-9)

Cisco Unified Presence ノードの操作方法

Cisco Unified Presence では、60 秒おきにシステム トポロジのステータスが監視され、[システム トポロジ (System Topology)] ウィンドウにポーリングの結果が返されます。クラスタ内のすべてのノードの情報を取得するために AJAX 要求が Cisco Unified Presence サーバに送信されます。

このウィンドウを閉じると、ノード ステータスのポーリングが終了します。

[システム トポロジ (System Topology)] ウィンドウの下部にあるリスト ボックスからポーラーを有効または無効にすることができます。[ステータス ポーリング有効 (Status Polling Enabled)] または [ステータス ポーリング無効 (Status Polling Disabled)] を選択します。

- 「ノードの設定」 (P.2-5)
- 「ノードの割り当て」 (P.2-9)
- 「ノードの移動」 (P.2-10)
- 「ノードの削除」 (P.2-10)

ノードの設定

ノードの追加や更新は、Cisco Unified Presence データベースで実行できます。

始める前に

- [システム トポロジ (System Topology)] ウィンドウに新規のノードを追加すると、そのノードが Cisco Unified Communications Manager アプリケーション サーバリストに自動的に追加されます。逆に、[システム トポロジ (System Topology)] ウィンドウで Cisco Unified Presence から既存のノードを削除すると、そのノードが Cisco Unified Communications Manager アプリケーション サーバリストから自動的に削除されます。
- シングル ノード構成のサブクラスタの場合、そのノードに割り当てられたユーザには、フェールオーバーの対象となるもう一方のノードが存在しないことに注意してください。フェールオーバーを実現するには、サブクラスタをデュアル ノード構成にします。ノード構成に関するシスコの推奨事項を確認してください。
- 大規模な展開の場合は、すべてのノードの設定が完了した後で、システム サービスを開始してください。詳細については、『Cisco Unified Presence Deployment Guide』を参照してください。
- クラスタ内のすべてのノードは同じハードウェア タイプである必要があります。

手順

ステップ 1 次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
ノードを追加する	次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> [トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウの [新規ノードの追加 (Add New Node)] をクリックします。 [関連リンク (Related Links)] リスト ボックスから [新規ノードの追加 (Add New Node)] を選択します。 [移動 (Go)] をクリックします。 [新規ノードの追加 (Add New Node)] ウィンドウが作成モードで表示されます。
ノードを更新する	更新するノードに対して [トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウの [編集 (Edit)] をクリックします。 [ノードの詳細 (Node Detail)] ウィンドウが編集モードで表示されます。

ステップ 2 表 2-2 の説明に従って適切なノードの設定値を入力します。

表 2-2 Cisco Unified Presence ノードの設定値

フィールド	説明
名前 (Name)	(作成または編集) 該当するノードに一意的な名前 (ホスト名、FQDN、ドット付き IP アドレス、または DNS-srv) を 255 文字以内で入力します。 (注) デフォルトのノード名は、インストール時に入力したホスト名になります (例: cup1)。目的に応じて、ノード名をドット付き IP アドレスまたは FQDN (例: 192.168.0.1 または cup1.acme.com) に変更できます。ただし、ホスト名または FQDN を使用する場合は、Cisco Unified Presence サーバおよび Cisco Unified Personal Communicator クライアント コンピュータから解決可能であることを確認してください。Cisco Unified Presence サーバでも Cisco Unified Personal Communicator クライアント コンピュータでもホスト名と FQDN を解決できない場合は、IP アドレスをノード名として使用する必要があります。
説明 (Description)	(作成または編集) 該当するノードの説明を 50 文字以内で入力します。
割り当て済みサブクラスター (Assigned Subcluster)	(編集のみ) ノードが動的に割り当てられる親サブクラスターを更新します。更新しないと、ノードが未割り当てのままになります。

表 2-2 Cisco Unified Presence ノードの設定値 (続き)

フィールド	説明
パブリッシャ ノード (Publisher Node)	<p>(編集のみ) このパラメータは設定不可オプションであり、該当するノードがパブリッシャ ノードの場合は、[はい (Yes)] と表示されます。該当するノードがサブスクライバ ノードの場合は、[いいえ (No)] と表示されます。</p> <p> (注) Cisco Unified Presence クラスタごとにパブリッシャ ノードは 1 つしか存在しません。このノードには、星マークが付いています。</p>
割り当て済みユーザ (Assigned Users)	<p>(編集のみ) このハイパーリンクをクリックすると、[ユーザ割り当て (User Assignment)] ウィンドウに移動します。このウィンドウには、該当するノードに現在割り当てられているユーザの数が表示され、必要に応じてユーザをさらに割り当てることができます。</p>

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 [表 2-3](#) に記載されているノード サービス ステータスの要約を確認してください。

表 2-3 ノードステータスの要約

フィールド	説明
CUP インストールの確認 (Verify CUP Installed)	成功した場合は、そのノードに Cisco Unified Presence がインストールされていることを示します。失敗した場合、そのノードはインストールされていません。
ノードの到達可能性 (ping 可能) の確認 (Verify Node Reachable (pingable))	成功した場合は、そのノードは到達可能 (ping 可能) です。失敗した場合、そのノードは到達不可です。
SIP プロキシ (SIP Proxy)	成功した場合は、そのノード上で SIP プロキシ サービスが稼動しています。サービスの開始時刻と進捗時間が表示されます。失敗した場合は、SIP プロキシ サービスが起動していないか、アクティブ化されていません。
プレゼンス エンジン (Presence Engine)	成功した場合は、そのノード上でプレゼンス エンジン サービスが稼動しています。サービスの開始時刻と進捗時間が表示されます。失敗した場合は、プレゼンス エンジン サービスが起動していないか、アクティブ化されていません。
プレゼンス エンジン データベース (Presence Engine Database)	成功した場合は、そのノード上でプレゼンス エンジン データベース サービスが稼動しています。サービスの開始時刻と進捗時間が表示されます。失敗した場合は、プレゼンス エンジン データベース サービスが起動していないか、アクティブ化されていません。
CUP データベース (CUP Database)	成功した場合は、そのノード上で Cisco Unified Presence データベース サービスが稼動しています。サービスの開始時刻と進捗時間が表示されます。失敗した場合は、Cisco Unified Presence データベース サービスが起動していないか、アクティブ化されていません。
Sync Agent	成功した場合は、そのノード上で Cisco Unified Presence Sync Agent サービスが稼動しています。サービスの開始時刻と進捗時間が表示されます。失敗した場合は、Cisco Unified Presence Sync Agent サービスが起動していないか、アクティブ化されていません。 (注) これは、Cisco Unified Presence パブリック シャ ノードに関してだけ表示されます。
Inter-Cluster Sync Agent	成功した場合は、Cisco Unified Presence Intercluster Sync Agent サービスはこのノードで稼動しています。サービスの開始時刻と進捗時間が表示されます。失敗した場合は、Cisco Unified Presence Intercluster Sync Agent サービスが起動していないか、アクティブ化されていません。 (注) これは、Cisco Unified Presence パブリック シャ ノードに関してだけ表示されます。

トラブルシューティングのヒント

- Cisco Unified Presence サーバからノード名解決テストを実施するには、CLI コマンド `utils network ping <node_name>` を使用します。
- 設定したノードは、[トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウにシステム トポロジの一部として組み込まれます。マウスを使用して該当するノードにカーソルを合わせると、そのノードの到達可能性とサービス ステータスに関するツールチップ情報を表示できます。
- システム ダッシュボードを使用して、システム トポロジのサブクラスタ、ノード、およびユーザを表示することもできます。[診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] の順に選択します。

関連項目

『[Deployment Guide for Cisco Unified Presence](#)』

ノードの割り当て

[トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウでは、ドラッグ アンド ドロップ機能を使用して、必要に応じてノードの割り当てと割り当て解除を行うことができます。

始める前に

サブクラスタからノードを割り当て解除する前に、そのノードからすべてのユーザを削除しておく必要があります。

手順

- ステップ 1** 右側のフレームに [トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** ノード割り当て条件を設定します。

操作の目的	操作
Cisco Unified Presence サブクラスタにノードを割り当てる	[使用可能なノード (Available Nodes)] から必要なサブクラスタの空きスロットまでノードをドラッグ アンド ドロップします。
Cisco Unified Presence サブクラスタからノードの割り当て解除	サブクラスタから [使用可能なノード (Available Nodes)] の空きスロットまでノードをドラッグ アンド ドロップします。

関連項目

「[システム トポロジ インターフェイス](#)」(P.2-1)

ノードの移動

始める前に

ノードを移動できるのは、そのノードにユーザが割り当てられていない場合だけです。あるサブクラスタから別のサブクラスタまでノードを移動する前に、そのノードからすべてのユーザを削除しておきます。

手順

-
- ステップ 1** 右側のフレームに [トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** サブクラスタから必要なピア サブクラスタの空きスロットまでノードをドラッグ アンド ドロップします。
-

関連項目

[「システム トポロジ インターフェイス」 \(P.2-1\)](#)

ノードの削除

ノードの削除は、[トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウで実行できます。削除するノードの隣にある [削除 (Delete)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

削除できるのは、未割り当てノードだけです。削除対象のノードがサブクラスタに割り当てられている場合は、そのノードを割り当て解除してから削除する必要があります。

関連項目

[「ノードの割り当て」 \(P.2-9\)](#)

Cisco Unified Presence ユーザの操作方法

- [「ユーザ割り当ての設定」 \(P.2-11\)](#)
- [「マルチノード展開でのユーザの分散」 \(P.2-13\)](#)
- [「デフォルト ユーザ割り当てのアクティブ化と非アクティブ化」 \(P.2-15\)](#)
- [「ユーザの割り当て解除」 \(P.2-16\)](#)
- [「ユーザの再割り当て」 \(P.2-17\)](#)



(注)

Cisco Unified Presence の一括管理ツールを使用すると、ノード間でユーザの割り当てと移動を一括して実行したり、Cisco Unified Presence サブクラスタでユーザ割り当てに関する情報をエクスポートしたりすることができます。

ユーザ割り当ての設定

特定のサブクラスまたは Cisco Unified Presence データベース内の特定のノードに対して、クラスタ全体での未割り当てユーザのユーザ割り当てを設定できます。

手順

-
- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行します。
- [トポロジナビゲーション (Topology Navigation)] 左フレーム内の [すべての未割り当てユーザ (All Unassigned Users)] をクリックします。
 - [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザの割り当て (Assign Users)] の順に選択します。
 - [関連リンク (Related Links)] リスト ボックスから [ユーザの割り当て (Assign Users)] を選択します。
 - [移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#)に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。
- リスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 表示されるレコードのリストから、ユーザ割り当て条件を決定します。

操作の目的	操作
リストにあるユーザを選択して Cisco Unified Presence ノードに割り当てる	<p>a. 割り当てるレコードのチェックボックスをオンにします。</p> <p>b. [選択したユーザの割り当て (Assign Selected Users)] をクリックします。</p> <p>c. [割り当ての変更 (Change Assignment)] フレーム内のリスト ボックスを使用して、ユーザの割り当て先を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 特定のノード - 特定のサブクラスタ (自動割り当て) - すべてのサブクラスタ (自動割り当て) <p>d. [保存 (Save)] をクリックします。</p>
リストにあるすべてのユーザを Cisco Unified Presence ノードに割り当てる	<p>a. すべてのレコードのチェックボックスをオンにするか、[すべてのを選択 (Select All)] をクリックします。</p> <p>b. [すべてのユーザの割り当て (Assign All Users)] をクリックします。</p> <p>c. [割り当ての変更 (Change Assignment)] フレーム内のリスト ボックスを使用して、ユーザの割り当て先を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 特定のノード - 特定のサブクラスタ (自動割り当て) - すべてのサブクラスタ (自動割り当て) <p>d. [保存 (Save)] をクリックします。</p>

ステップ 6 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a.** ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
- b.** ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

次の操作

[「デフォルト ユーザ割り当てのアクティブ化と非アクティブ化」 \(P.2-15\)](#)

トラブルシューティングのヒント

- レコードをフィルタリングする場合に検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加した検索条件を削除します。または、[フィルタのクリア (Clear Filter)] をクリックして、追加した検索条件をすべて削除します。
- 一致するレコードが表示されたら、[ページあたりの行数 (Rows per Page)] リスト ボックスから別の値を選択して、各ウィンドウに表示される項目の数を変更できます。
- 設定したユーザは、[トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウにシステム トポロジの一部として組み込まれます。

- システム ダッシュボードを使用して、システム トポロジのサブクラスタ、ノード、およびユーザを表示することもできます。[診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] の順に選択します。

マルチノード展開でのユーザの分散

Cisco Unified Presence のシステム トポロジでノード間のユーザの再分散または再割り当てを実行できます。次の 3 つの方法のいずれかに従って、Cisco Unified Presence の管理ページにあるユーザ割り当てモード サービス パラメータを設定してユーザを分散できます。

- アクティブ/スタンバイ：各サブクラスタの最初のノードにだけユーザを割り当てるか、またはサブクラスタに 1 つのノードしか存在しない場合は、そのノードにユーザを割り当てます。
- 平衡化：サブクラスタまたはクラスタ内のすべてのノードに均等にユーザを割り当てます。
- 割り当てなし：サブクラスタにもノードにもユーザを割り当てません。

次の表の説明に従って、要件に合ったタスクを実行します。

操作の目的	タスク	結果
<p>サブクラスタ内の最初のノードにだけすべてのユーザを割り当て直す</p> <p>例：</p> <p>2 つのノードを含む 1 つのサブクラスタで構成された 1 つのクラスタがあるとします。それぞれのノードには 2500 のユーザが含まれています。</p>	<p>[Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] ウィンドウで次の操作を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> [システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。 [サーバ (Server)] リスト ボックスから該当するサーバを選択します。 [サービス (Service)] リスト ボックスから Cisco UP Sync Agent サービスを選択します。 ユーザ割り当てモードパラメータで [アクティブスタンバイ (Active/Standby)] を選択します。 ユーザ割り当てモードを [アクティブスタンバイ (Active/Standby)] に切り替えたら、次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> - [システム (System)] > [トポロジ (Topology)] の順に選択します。 - [トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウの [ユーザの再平衡化 (Rebalance Users)] をクリックします。 	<p>分散モードを [アクティブスタンバイ (Active/Standby)] に設定して [ユーザの再平衡化 (Rebalance Users)] をクリックすると、システム トポロジに定義された各サブクラスタの最初のノードにすべてのユーザが移動します。この例では、サブクラスタの最初のノードに 5000 のユーザが含まれます。</p>

操作の目的	タスク	結果
<p>サブクラスタかノードを追加または削除し、システム トポロジに割り当てられた各ノードにユーザを均等に分散し直す</p> <p>例：</p> <p>2 つのノードを含む 1 つのサブクラスタで構成された 1 つのクラスタがあるとします。最初のノードに 5000 のユーザが含まれており、2 番目のノードにユーザが含まれていません。ユーザ割り当てモードは [アクティブスタンバイ (Active/Standby)] に設定されています。ここで、2 つのノードを含むもう 1 つのサブクラスタを追加し、ユーザ割り当てモードを [平衡化 (Balanced)] に切り替えます。</p>	<p>トポロジにサブクラスタまたはノードを追加したら、[Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] ウィンドウで次の操作を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。 [サーバ (Server)] リスト ボックスから該当するサーバを選択します。 [サービス (Service)] リスト ボックスから Cisco UP Sync Agent サービスを選択します。 ユーザ割り当てモード パラメータで [平衡化 (Balanced)] を選択します。 次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> [システム (System)] > [トポロジ (Topology)] の順に選択します。 [トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウの [ユーザの再平衡化 (Rebalance Users)] をクリックします。 	<p>分散モードを [平衡化 (Balanced)] に設定して [ユーザの再平衡化 (Rebalance Users)] をクリックすると、最初のノードに含まれているユーザがシステム トポロジに定義されている 4 つのノードに均等に分散されます。この例では、各ノードにユーザが 2500 ずつ分散されます。</p>
<p>現在のユーザ割り当てモードの切り替えなしでサブクラスタまたはノードを追加または削除する</p> <p>例：</p> <p>2 つのノードを含む 1 つのサブクラスタで構成された 1 つのクラスタがあるとします。ユーザ割り当てモードは [平衡化 (Balanced)] に設定されています。それぞれのノードには 5000 のユーザが含まれています。ここで、2 つのノードを含むもう 1 つのサブクラスタを追加します。</p>	<p>トポロジにサブクラスタまたはノードを追加したら、[Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] ウィンドウで次の操作を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> [システム (System)] > [トポロジ (Topology)] の順に選択します。 [トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウの [ユーザの再平衡化 (Rebalance Users)] をクリックします。 	<p>4 つのノードにそれぞれ、ユーザが 2500 ずつ分散されます。</p>

トラブルシューティングのヒント

ノードを単に追加または削除するときに、ユーザ割り当てモード サービス パラメータがすでに [アクティブスタンバイ (Active/Standby)] または [平衡化 (Balanced)] に設定されている場合、このサービス パラメータをリセットする必要はありません。

関連項目

- 「ユーザ割り当ての設定」 (P.2-11)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページでのサービス パラメータの設定」 (P.10-1)
- 『Deployment Guide for Cisco Unified Presence』
- 『Serviceability Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence』

次の操作

「デフォルト ユーザ割り当てのアクティブ化と非アクティブ化」 (P.2-15)

デフォルト ユーザ割り当てのアクティブ化と非アクティブ化

始める前に

Cisco Unified Presence の管理ページで希望のユーザ割り当て分散モードを設定します。

次の表の説明に従って、要件に合ったタスクを実行します。

操作の目的	タスク
Cisco Unified Presence の管理ページにあるユーザ割り当てモード パラメータで設定した動作に応じて、自動的にユーザが負荷分散されます。	<p>希望のユーザ割り当て分散モードを設定したら、Cisco Unified Presence の Sync Agent をアクティブにします。</p> <p>(注) ユーザ割り当てモードを [平衡化 (Balanced)] に設定すると、Cisco Unified Presence によって、自動的にシステム トポロジ内の各ノードにユーザが均等に割り当てられます。ユーザ割り当てモードを [アクティブスタンバイ (Active/Standby)] に設定すると、各サブクラスタ内の最初のノードにだけユーザが割り当てられます。</p>
ユーザ割り当てモード サービス パラメータを無効にします。この場合は、ユーザ割り当てを手動で管理します。	<p>ユーザ割り当てを手動で管理する場合は、次の手順に従って、Sync Agent によって自動的にユーザがノードに割り当てられないようにします。</p> <p>[Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] ウィンドウで次の操作を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> [システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。 [サーバ (Server)] リスト ボックスから該当するサーバを選択します。 [サービス (Service)] リスト ボックスから Cisco UP Sync Agent サービスを選択します。 ユーザ割り当てモード パラメータで [なし (None)] を選択します。

関連項目

- 「ユーザの割り当て解除」 (P.2-16)
- 『Deployment Guide for Cisco Unified Presence』
- 『Serviceability Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence』

ユーザの割り当て解除

Cisco Unified Presence データベース内の特定のサブクラスタまたは特定のノードから（現在割り当てられている）ユーザを割り当て解除できます。

手順

- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行します。
- [トポロジ ナビゲーション (Topology Navigation)] 左フレーム内の [すべての割り当て済みユーザ (All Assigned Users)] をクリックします。
 - 更新するノードの隣にある [ユーザ (Users)] をクリックします。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#)に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- リスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、ユーザ割り当て条件を決定します。

操作の目的	操作
リストにあるユーザを選択して Cisco Unified Presence ノードから割り当て解除する	<p>a. 割り当て解除するレコードのチェックボックスをオンにします。</p> <p>b. [選択したユーザの割り当て (Assign Selected Users)] をクリックします。</p> <p>c. [割り当ての変更 (Change Assignment)] フレーム内のリスト ボックスを使用して、ユーザを次のユーザとして指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> – 未割り当てユーザ <p>d. [保存 (Save)] をクリックします。</p>
リストにあるすべてのユーザを Cisco Unified Presence ノードから割り当て解除する	<p>a. すべてのレコードのチェックボックスをオンにするか、[すべてのを選択 (Select All)] をクリックします。</p> <p>b. [すべてのユーザの割り当て (Assign All Users)] をクリックします。</p> <p>c. [割り当ての変更 (Change Assignment)] フレーム内のリスト ボックスを使用して、ユーザを次のユーザとして指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> – 未割り当てユーザ <p>d. [保存 (Save)] をクリックします。</p>

- ステップ 6** データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。
- a.** ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
 - b.** ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- レコードをフィルタリングする場合に検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。
- 一致するレコードが表示されたら、[ページあたりの行数 (Rows per Page)] リスト ボックスから別の値を選択して、各ウィンドウに表示される項目の数を変更できます。
- 割り当て解除したユーザが [トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウ内のシステム トポロジから除外されます。

ユーザの再割り当て

(現在割り当てられている) ユーザを Cisco Unified Presence データベース内の特定のサブクラスタから別のサブクラスタに割り当て直したり、特定のノードから別のノードに割り当て直したりすることができます。

手順

-
- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行します。
- [トポロジナビゲーション (Topology Navigation)] 左フレーム内の [すべての割り当て済みユーザ (All Assigned Users)] をクリックします。
 - 更新するノードの隣にある [ユーザ (Users)] をクリックします。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#)に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。
- リスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 表示されるレコードのリストから、ユーザ割り当て条件を決定します。

操作の目的	操作
リストにあるユーザを選択して Cisco Unified Presence ノードから別のノードに移動させる	<p>a. 割り当て解除するレコードのチェックボックスをオンにします。</p> <p>b. [選択したユーザの割り当て (Assign Selected Users)] をクリックします。</p> <p>c. [割り当ての変更 (Change Assignment)] フレーム内のリスト ボックスを使用して、ユーザの移動先を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 特定のノード - 特定のサブクラスタ <p>d. [保存 (Save)] をクリックします。</p>
リストにあるすべてのユーザを Cisco Unified Presence ノードから移動させる	<p>a. すべてのレコードのチェックボックスをオンにするか、[すべてのを選択 (Select All)] をクリックします。</p> <p>b. [すべてのユーザの割り当て (Assign All Users)] をクリックします。</p> <p>c. [割り当ての変更 (Change Assignment)] フレーム内のリスト ボックスを使用して、ユーザの移動先を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 特定のノード - 特定のサブクラスタ <p>d. [保存 (Save)] をクリックします。</p>

ステップ 6 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a.** ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
- b.** ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- レコードをフィルタリングする場合に検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。
- 一致するレコードが表示されたら、[ページあたりの行数 (Rows per Page)] リスト ボックスから別の値を選択して、各ウィンドウに表示される項目の数を変更できます。
- 割り当て直したユーザが [トポロジの詳細 (Topology Detail)] ウィンドウ内のシステム トポロジに反映されます。

システム トポロジのトラブルシューティング

システム設定トラブルシュータを使用すると、初期設定が完了した後で、Cisco Unified Presence のシステム トポロジでの設定上の問題を診断できます。このトラブルシュータでは、システム トポロジに対する一連のテストを実施して、Cisco Unified Presence の設定を検証します。

関連項目

[第 34 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのシステム設定トラブルシュータの使用」](#)



CHAPTER 3

Cisco Unified Presence の管理ページでの Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの変更

- 「[Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ情報の変更](#)」 (P.3-1)
- 「[Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのステータス](#)」 (P.3-3)

Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ 情報の変更

Cisco Unified Presence は、ユーザ、デバイス、およびライセンスの設定を Cisco Unified Communications Manager に依存しています。Cisco Unified Presence パブリッシャと Cisco Unified Communications Manager (CUCM) パブリッシャとの通信には、AVVID XML Layer Application Programming Interface (AXL API; AVVID XML レイヤ アプリケーション プログラミング インターフェイス) が使用されます。

最初に設定した Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのアドレスと IP セキュリティ パスワードを変更できます。また、関連付けられた Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードへの AXL API アクセス用にユーザ名とパスワードを設定し直すこともできます。

ただし、Sync Agent が正常に動作するには、その AXL ユーザ名とパスワードが、関連付けられた Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードで設定されている AXL ユーザ名とパスワードに一致している必要があります。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) パブリッシャ ノードを設定します。[CUCM パブリッシャ (CUCM Publisher)] ウィンドウのステータス ポーラーにより、60 秒おきに (AJAX-AXL 経由で) Cisco Unified Communications Manager のステータスがチェックされます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [CUCM パブリッシャ (CUCM Publisher)] の順に選択します。
- ステップ 2** 次のデータを入力します。
 - 有効な Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのホスト名。
 - 有効な IP アドレス。

- Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのセキュリティ パスワード。このパスワードを確認してください。
- AXL のユーザ名とパスワードを入力します。このパスワードを確認してください。

ステップ 3 パブリッシャのステータスを確認し、必要に応じて **ステップ 2** を繰り返します。

ステップ 4 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- 関連付けられた最初の CUCM ノードで Standard AXL API Access の役割が割り当てられているアプリケーション ユーザのユーザ名とパスワードを入力する必要があります。デフォルトでは、CCMAdministrator というユーザ ID に Standard AXL API Access の役割が割り当てられています。
- エラー メッセージが表示された場合は、AXL が Cisco Unified Communications Manager で実行中であるかどうかと、自分のユーザ ID とパスワードの正否をチェックできます。ブラウザを使用して、`http://<<CUCM ホスト名>>/axl` と入力します。ユーザ ID とパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。入力した詳細が正確な場合は、AXL が実行中であり、要求を受信できる状態にあることを示す確認メッセージが Web ページに表示されます。
- データを保存すると、システムを再起動してデータを同期化するように指示するメッセージがポップアップ表示されます。

関連項目

「Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのステータス」(P.3-3)

Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのステータス

表 3-1 の設定は、パブリッシャ ノード設定の成否を示します。

表 3-1 パブリッシャ ノードのステータス

フィールド	説明
パブリッシャの到達可能性 (ping 可能) (Publisher Reachability (pingable))	成功した場合、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャは到達可能 (ping 可能) です。失敗した場合、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャはネットワーク経由で到達不可です。
ピアの接続性 (AXL 経由) (Peer Connectivity (via AXL))	成功した場合は、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャへの AXL 接続が正しく確立されています。失敗した場合は、システムから CUCM パブリッシャに AXL 経由で接続できません。
パブリッシャのセキュリティ ログイン (IPSec) (Publisher Security Login (IPSec))	成功した場合は、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャへの接続に使用されるセキュリティ パスワードが正しく設定されています。失敗した場合は、入力したセキュリティ パスワードを使用してシステムが接続できません。
パブリッシャのバージョン (Publisher Version)	成功した場合は、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのバージョンが表示されます。



CHAPTER 4

Cisco Unified Presence の管理ページでの アプリケーション リスナーの設定

- 「アプリケーション リスナーの設定」 (P.4-1)
- 「アプリケーション リスナーの検索」 (P.4-3)
- 「アプリケーション リスナーの削除」 (P.4-4)

アプリケーション リスナーの設定

SIP プロキシ サーバ、プレゼンス エンジン、およびプロファイル エージェント用にアプリケーション リスナーを設定できます。各アプリケーション リスナーは、特定のアドレスとポートの組み合わせにバインドされます。TLS プロトコルを選択する場合、TLS コンテキストも選択する必要があります。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
アプリケーション リスナーを追加する	<ol style="list-style-type: none">[システム (System)] > [アプリケーション リスナー (Application Listeners)] の順に選択します。[新規追加 (Add New)] をクリックします。
アプリケーション リスナーを更新する	<ol style="list-style-type: none">「アプリケーション リスナーの検索」 (P.4-3) の説明に従ってレコードを検索します。必要に応じてレコードを編集します。

ステップ 2 表 4-1 の説明に従ってアプリケーション リスナーの設定値を入力します。

表 4-1 アプリケーション リスナーの設定値

フィールド	説明
リスナー タイプ (Listener Type)	アプリケーション リスナーのタイプを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • SIP • HTTP • HTTPS
名前 (Name)	該当するリスナーに一意の名前を指定します。 最大文字数：128
ポート (Port)	該当するリスナー用に設定されたポートの番号を指定します。 デフォルト ポート：5060
サービス タイプ (Service Type)	該当するアプリケーション リスナーの [サービス タイプ (Service Type)] を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Proxy Server • Cisco Presence Engine • Cisco Unified Client Profile Agent デフォルト設定：Cisco Proxy Server
転送タイプ (Transport Type)	該当するリスナーが使用するプロトコルのタイプ (TCP、UDP、または TLS) を指定します。 デフォルト設定：UDP
TLS コンテキスト (TLS Context)	該当するリスナーに関連付けられた TLS コンテキストを指定します。 このフィールドが適用されるのは、プロトコルタイプとして TLS を選択した場合だけです。 (注) 使用可能な TLS コンテキストは、[TLS コンテキスト設定 (TLS Context Configuration)] ウィンドウで設定します。

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
- ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- アプリケーション リスナーに加えた変更を有効にするには、SIP プロキシ サーバを再起動する必要があります。このプロキシ サーバを再起動するには、[プレゼンス (Presence)] > [ルーティング (Routing)] > [設定 (Settings)] の順に選択します。
- Cisco Proxy Server では、リスナーの数は 20 に制限されています。

関連項目

- 「[Cisco Unified Presence の管理ページでの SIP プロキシ サーバの設定](#)」 (P.16-1)
- 『[Port Usage Information for Cisco Unified Presence](#)』

アプリケーション リスナーの検索

ネットワークにアプリケーション リスナーが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のアプリケーション リスナーを検索できます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)]> [アプリケーション リスナー (Application Listeners)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#)に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコード リストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

アプリケーション リスナーの削除

手順

- ステップ 1** アプリケーション リスナーを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するアプリケーション リスナーを選択します。
- ステップ 3** アプリケーション リスナーを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<p>a. 該当するレコードをオンにします。</p> <p>b. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<p>a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。</p> <p>b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。</p>

トラブルシューティングのヒント

- アプリケーション リスナーが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。
- アプリケーション リスナーに加えた変更を有効にするには、SIP プロキシ サーバを再起動する必要があります。このプロキシ サーバを再起動するには、[プレゼンス (Presence)] > [ルーティング (Routing)] > [設定 (Settings)] の順に選択します。

関連項目

- 「[アプリケーション リスナーの検索](#)」(P.4-3)
- 「[Cisco Unified Presence の管理ページでの SIP プロキシ サーバの設定](#)」(P.16-1)



CHAPTER 5

Cisco Unified Presence の管理ページでの ライセンス管理

- 「Cisco Unified Presence のライセンスについて」 (P.5-1)
- 「新規インストール用のサーバライセンスの取得」 (P.5-3)
- 「必要なエンドユーザライセンス数の計算方法」 (P.5-4)
- 「ライセンスの割り当て方法とライセンス済みユーザの検索方法」 (P.5-5)
- 「ライセンスファイルのアップロード方法」 (P.5-7)

Cisco Unified Presence のライセンスについて

- 「ライセンスファイルの要件」 (P.5-1)
- 「ライセンスファイルの内容」 (P.5-2)

ライセンスファイルの要件

Cisco Unified Presence では、次の 2 種類のライセンスファイルを取得し、アップロードする必要があります。

- サーバライセンス：サーバライセンスは、Cisco Unified Presence のノードに適用され、プレゼンスエンジンとプロキシのサービスをアクティブにします。サーバライセンスは Cisco Unified Presence サーバにロードされます。
- エンドユーザライセンス：エンドユーザライセンスは、Cisco Unified Presence ユーザと Cisco Unified Personal Communicator ユーザに適用されます。エンドユーザライセンスは Cisco Unified Communications Manager パブリッシャサーバにロードされます。

関連項目

- 「新規インストール用のサーバライセンスの取得」 (P.5-3)
- 「必要なエンドユーザライセンス数の計算方法」 (P.5-4)

ライセンス ファイルの内容

ライセンス ファイルには、Cisco Unified Presence アプリケーションのライセンスを有効にするために必要な情報が含まれています。

ライセンス ファイルには、次の情報が含まれています。

- ライセンスが供与される Cisco Unified Presence のノード数。お客様にライセンスを付与するクラス内の Cisco Unified Presence サーバの数を示します。
- サポートされる Cisco Unified Presence のバージョン。
- ライセンスが付与される電話機の台数。電話機の種類ごとに個別のライセンスを生成するのではなく、ユニットライセンスの概念が使用されます。個々の電話機の種類は、一定のライセンスユニット数に対応します。
- ライセンス ファイルのインストール先となるサーバの MAC アドレス。

関連項目

- 「[ライセンス済みユーザの検索](#)」(P.5-6)
- [第 2 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのシステム トポロジの設定」](#)

ライセンス ファイルのサンプル

次の例は、恒久 IP Phone ライセンスと、恒久 Cisco Unified Presence ノード ライセンスのライセンス ファイルを示したものです。

例 5-1 恒久 IP Phone のライセンス

```
INCREMENT PHONE_UNIT cisco 5.0 permanent uncounted \

VENDOR_STRING=<Count>1000</Count><OrigMacId>000BCD4EE59D</OrigMacId><LicFileVersion>1.0</LicFileVersion> \
HOSTID=000bcd4ee59d OVERDRAFT=50 \
NOTICE="<LicFileID>20050826140539162</LicFileID><LicLineID>2</LicLineID> \
<PAK></PAK>" SIGN="112D 17E4 A755 5EDC F616 0F2B B820 AA9C \
0313 A36F B317 F359 1E08 5E15 E524 1915 66EA BC9F A82B CBC8 \
4CAF 2930 017F D594 3E44 EBA3 04CD 01BF 38BA BF1B"
```

このライセンス ファイルには、次の情報が含まれています。

- キーワード **permanent** が示すとおり、このライセンスには有効期限がありません。
- このライセンス ファイルは、**1000 PHONE_UNIT** のライセンスを付与します。
- **OVERDRAFT=50** は、**1000** の 5% のライセンス超過が許可されていることを示します。ライセンス超過の値は、シスコが決定します。
- シスコ固有のフィールド **LicFileID** により、このライセンス ファイルが識別されます。
- 1 つのライセンス ファイルの同じ機能（電話機のユニット ライセンスまたはノード ライセンス）に対して複数の **INCREMENT** 行を追加することにより、ライセンス数を増やすことができます。**INCREMENT** 行は重複できません。署名も個別に行ってください。

例 5-2 恒久 ENT_PROXY NODE ライセンス

```
INCREMENT ENT_PROXY_NODE cisco 1.0 permanent uncounted \

VENDOR_STRING=<Count>2</Count><OrigMacId>001438bdeddd</OrigMacId><LicFileVersion>1.0</LicFileVersion> \
```

```
HOSTID=001438bdeddd \  
NOTICE="<LicFileID>epas-yicding.lic</LicFileID><LicLineID>0</LicLineID> \  
<PAK>dummyPak</PAK>" SIGN="0B2A 49C3 54C9 5ECA CCDC 9005 E18D \  
8811 DB83 2CFC 69F1 9942 5D03 0F7F 3F05 0A57 D67B 5527 F8A7 \  
24C2 2705 CC91 54F8 5D04 FD43 2B77 6201 A28D EB55 C756"  
INCREMENT ENT_PE_NODE cisco 1.0 permanent uncounted \  
  
VENDOR_STRING=<Count>2</Count><OrigMacId>001438bdeddd</OrigMacId><LicFileVersion>1.0</LicF  
ileVersion> \  
HOSTID=001438bdeddd \  
NOTICE="<LicFileID>epas-yicding.lic</LicFileID><LicLineID>1</LicLineID> \  
<PAK>dummyPak</PAK>" SIGN="099A 81AD EA5E 1F29 75A5 85C5 6C99 \  
B021 9B24 968C DD71 A723 D887 48BA B90B 1788 F652 DCC3 0788 \  
38D8 0FAA 349E F1BB F14B 083A 08BB B21F 3CD4 4023 302E"
```

このライセンス ファイルには、次の情報が含まれています。

- キーワード **permanent** が示すとおり、このライセンスには有効期限がありません。
- シスコ固有のフィールド **LicFileID** により、このライセンス ファイルが識別されます。
- 1 つのライセンス ファイルの同じ機能に対して複数の **INCREMENT** 行を追加することにより、ライセンス数を増やすことができます。INCREMENT 行は重複できません。署名も個別に行ってください。

新規インストール用のサーバライセンスの取得

Cisco Unified Presence の新規インストール用のライセンス ファイルを取得できます。CCO により、要求した数だけユニットライセンスが含まれているライセンス ファイルが生成され、指定したメールアドレスに電子メールで送信されます。

始める前に

シスコ デバイスの注文時に、シスコから Product Authorization Key (PAK) が提供されます。受け取った PAK を忘れないようにしてください。

手順

-
- ステップ 1** CCO で提供される License Registration Web ツールを使用して、Cisco Unified Presence で受け取った PAK を登録します。
 - ステップ 2** 次の詳細を入力します。
 - ライセンスが必要な Cisco Unified Presence サーバの MAC アドレス
 - 有効なメールアドレス
 - ライセンスが必要なノードと電話機の台数
 - ステップ 3** [ステップ 2](#) で入力した MAC アドレスに一致したサーバにライセンス ファイルをアップロードします。
-

トラブルシューティングのヒント

- 電話機を新しく購入した場合にライセンスを更新するには、CCO で提供される License Registration Web ツールに移動し、[2](#) ~ [3](#) の手順に従います。

- ライセンス ファイルをデータベースにアップロードするのは、ライセンス ファイルで指定されたバージョンがクラスタ内で実行されている Cisco Unified Presence のバージョン以上である場合に限りです。バージョン チェックに失敗した場合はアラームが生成されます。正しいバージョンのライセンス ファイルを新たに取得する必要があります。システムでは、主要なリリースだけに基づいてバージョン チェックを行います。
- Cisco Unified Presence サーバにアップロードするライセンスは、プレゼンス エンジンおよびプロキシ サービスのサービスを有効にするライセンスです。また、関連付けられている Cisco Unified Communications Manager サーバにエンドユーザ ライセンスをアップロードして、Cisco Unified Presence ユーザと Cisco Unified Personal Communicator ユーザが使用できるようにする必要があります。
- ライセンス ファイルで指定されたライセンスを使用できるのは、ライセンス ファイルがアップロードされたクラスタ内に限りです。

関連項目

『Cisco Unified Communications Manager へのエンドユーザ ライセンスのアップロード』(P.5-8)

必要なエンドユーザ ライセンス数の計算方法

- 「エンドユーザ ライセンス数の計算」(P.5-4)
- 「ライセンス ユニット レポートの生成」(P.5-5)

エンドユーザ ライセンス数の計算

Cisco Unified Presence サーバのライセンスの取得およびアップロードに加えて、すべての Cisco Unified Presence ユーザおよび Cisco Unified Personal Communicator ユーザのライセンスも取得する必要があります。

ライセンスの目的上、Cisco Unified Presence ユーザはそれぞれ 1 つの電話デバイス ユニットを使用し、Cisco Unified Personal Communicator ユーザ（Cisco Unified Presence ライセンスも必要）は、1 人あたり 2 つの電話デバイス ユニットを使用します。

Cisco Unified CM の管理 のライセンス ユニット計算では、使用されたデバイス ライセンス ユニットのレポートを表示できます（[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス ユニット計算 (License Unit Calculator)] の順に選択）。

Cisco Unified Presence ユーザおよび Cisco Unified Personal Communicator ユーザに必要なライセンス ユニットの合計数を計算したら、次に Cisco Unified Communications Manager のデバイス ライセンス ユニットの合計数にこれらのライセンス数を追加する必要があります。

関連項目

『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』

ライセンス ユニット レポートの生成

ライセンス ユニット レポート ツールを使用すると、ライセンスの許容総数と使用中のライセンス数を表示できます。このツールにより、使用可能なライセンスの合計数のリストを含むレポートが生成されます。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Presence の管理ページで [システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス ユニット レポート (License Unit Report)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ライセンス ユニット レポート (License Unit Report)] ウィンドウには、使用可能なノードライセンスの数が次の基準で表示されます。
- [使用可能なユニット数 (Units Available)] : 現在使用可能なユニットの合計数
 - [使用済みユニット数 (Units Used)] : 現在使用されているユニットの合計数
 - [残りユニット数 (Units Remaining)] : 現在残っているユニットの合計数
 - [無期限 (Permanent)] : このライセンスが一時ライセンスかどうか
 - [有効日数 (Days to Expiry)] : 一時ライセンスの有効期限が切れるまでの日数
-

ライセンスの割り当て方法とライセンス済みユーザの検索方法

- 「ライセンスの割り当て」 (P.5-5)
- 「ライセンス済みユーザの検索」 (P.5-6)
- 「重複したライセンス済みユーザの表示」 (P.5-7)

ライセンスの割り当て

Cisco Unified CM の管理では、Cisco Unified Presence ユーザおよび Cisco Unified Personal Communicator ユーザに対し、[機能割り当て (Capabilities Assignment)] ウィンドウを使用して一人ずつまたは複数のユーザごとにライセンスを割り当てることができます。Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [機能割り当て (Capabilities Assignment)] の順に選択します。

一括管理ツールを使用してライセンスを割り当てることもできます。Cisco Unified CM の管理で、[一括管理 (Bulk Administration)] > [CUP] > [CUP/CUPC ユーザの更新 (Update CUP/CUPC Users)] の順に選択します。

関連項目

- 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Guide』

ライセンス済みユーザの検索

手順

ステップ 1 Cisco Unified Presence の [システム ステータス (System Status)] ウィンドウにあるリスト ボックスから次のいずれかの条件を選択します。

- が次の文字列で始まる (begins with)
- が次の文字列を含む (contains)
- が次の文字列と等しい (is exactly)
- が次の文字列で終わる (ends with)
- が空である (is empty)
- が空ではない (is not empty)

ステップ 2 ライセンス済みユーザを検索するには、次のいずれかの操作を実行します。

検索対象	操作
特定のライセンス済みユーザ (1 人または複数)	<p>a. 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。</p> <p>b. [検索 (Find)] をクリックします。</p>
データベースに登録されているすべてのライセンス済みユーザ	検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 3 検索したライセンス済みユーザを一覧表示するには、次の操作を実行します。

表 5-1 に記載されている検索結果パラメータを確認してください。

表 5-1 システムステータスの検索結果パラメータ

パラメータ	説明
ユーザ ID (User ID)	<p>ユーザ ID が表示されます。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager ではユーザを作成できますが、Cisco Unified Presence では作成できません。</p>
プライマリ内線 (Primary Extension)	このユーザに関連付けられているプライマリ内線が表示されます。
デバイス (Devices)	このユーザにリンクとして関連付けられているデバイスの合計数が表示されます。デバイスのリストを含むポップアップ ウィンドウを表示するには、リンクをクリックします。
連絡先 (Contacts)	このユーザにリンクとして関連付けられている連絡先の合計数が表示されます。連絡先のリストを含むポップアップ ウィンドウを表示するには、リンクをクリックします。ユーザは、Cisco Unified Presence エンドユーザの連絡先ウィンドウで連絡先を追加できます。

表 5-1 システムステータスの検索結果パラメータ (続き)

パラメータ	説明
ウォッチャ (Watchers)	このユーザにリンクとして関連付けられているウォッチャの合計数が表示されます。ウォッチャのリストを含むポップアップ ウィンドウを表示するには、リンクをクリックします。 (注) ウォッチャは、連絡先リストに特定のユーザを含むユーザを表し、事実上、このユーザを監視します。
ライセンス済み UPC (Licensed UPC)	このユーザが Cisco Unified Personal Communicator の使用ライセンスを持っている場合、黒いチェック マークが表示されます。
固定電話制御を使う (Desk Phone Control Enabled)	このユーザに固定電話制御機能の使用が許可されている場合は、黒いチェック マークが表示されます。

- a. [デバイス (Devices)] をクリックして、ユーザに関連付けられているデバイスを表示します。

重複したライセンス済みユーザの表示

複数の Cisco Unified Presence クラスタのライセンスを所有しているユーザを判別できます。Cisco Unified Presence により、重複しているユーザの数が表示され、ユーザ ID 別にステータス情報がレポートされます。

次のいずれかの操作を実行します。

- [ユーザ管理 (User Management)] > [エンド ユーザ (End User)] の順に選択します。
- [診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] の順に選択します。

ライセンス ファイルのアップロード方法

- 「[Cisco Unified Presence へのライセンス ファイルのアップロード](#)」 (P.5-7)
- 「[Cisco Unified Communications Manager へのエンドユーザ ライセンスのアップロード](#)」 (P.5-8)

Cisco Unified Presence へのライセンス ファイルのアップロード

ライセンス ファイルのロード先となる Cisco Unified Presence ノードがライセンス マネージャの役割を果たします。



(注)

ライセンス ファイルは、Cisco Unified Presence クラスタの最初のノードにだけアップロードします。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス ファイルのアップロード (License File Upload)] の順に選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの操作を実行します。
- a. 既存のファイルの内容を表示するには、[ファイルの表示 (View File)] をクリックします。
 - b. アップロードする新規のライセンス ファイルを選択するには、[ライセンス ファイルのアップロード (Upload License File)] をクリックします。
- ステップ 3** サーバにアップロードするライセンス ファイルを参照して選択します。
- ステップ 4** [アップロード (Upload)] をクリックします。
- ステップ 5** アップロード処理が終了したら、[閉じる (Close)] をクリックします。
-

関連項目

[「新規インストール用のサーバライセンスの取得」\(P.5-3\)](#)

Cisco Unified Communications Manager へのエンドユーザライセンスのアップロード

Cisco Unified Presence ユーザおよび Cisco Unified Personal Communicator ユーザに必要なライセンスを取得したら、次に、関連付けられている Cisco Unified Communications Manager サーバにこれらのライセンスをアップロードする必要があります。

Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス ファイルのアップロード (License File Upload)] の順に選択します。

関連項目

『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』



CHAPTER 6

Cisco Unified Presence の管理ページでの着信 ACL の設定

- 「許可されている ACL フォーマット」 (P.6-1)
- 「着信 ACL の設定」 (P.6-2)
- 「着信 ACL エントリの検索」 (P.6-3)
- 「着信 ACL エントリの削除」 (P.6-4)

許可されている ACL フォーマット

着信 Access Control List (ACL; アクセスコントロールリスト) を使用すると、認証なしで Cisco Unified Presence にアクセスできる着信ホストとドメインを制御するパターンを設定できます。Cisco Unified Presence では、着信ホストやドメインの完全修飾名だけでなく、一連の IP アドレス パターンも受け入れられます。Allow ディレクティブとその後に続く「from」によって、サーバにアクセスできるホストが判別されます。

着信 ACL を設定する場合は、表 6-1 に示されている形式の中から選択できます。

表 6-1 ACL アドレス パターン

ホスト アドレスの説明	設定例
すべてのホスト	• Allow from all
部分的なドメイン名	• Allow from company.com
完全な IP アドレス	• Allow from 10.1.2.3
部分的な IP アドレス	• Allow from 10.1
ネットワークとネットマスクのペア	• Allow from 10.1.0.0/255.255.0.0
ネットワーク /nnn CIDR 指定	• Allow from 10.1.0.0/16
	(注) ネットマスクは nnn 上位 1 ビットで構成されます。

着信 ACL の設定

始める前に

- 許可された着信アドレスの SIP プロキシ リストに追加されるアドレスを設定します。このリストに追加されたアドレスはダイジェスト認証をバイパスします。
- フェデレーション ドメイン エントリをデータベースに追加すると、そのフェデレーション ドメインの着信 ACL エントリが自動的に追加されます。これらの設定手順を手動で実行する必要はありません。
- デフォルトのシステム動作は、すべての着信要求の拒否です。[プレゼンス (Presence)] > [設定 (Settings)] の順に選択して [CUP CVP サポート (CUP CVP Support)] チェックボックスをオンにした場合は、システムで生成されたデフォルトのエントリを変更できます。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
着信 ACL を追加する	a. [システム (System)] > [セキュリティ (Security)] > [着信 ACL (Incoming ACL)] の順に選択します。 b. [新規追加 (Add New)] をクリックします。
着信 ACL エントリを更新する	a. 「 着信 ACL エントリの検索 」(P.6-3) の説明に従ってレコードを検索します。 b. 必要に応じてレコードを編集します。

ステップ 2 [表 6-2](#) の説明に従って着信 ACL の設定値を入力します。

表 6-2 着信 ACL の設定値

フィールド	説明
説明 (Description)	ACL エントリの一般的な説明を指定します。 最大文字数：128
アドレス パターン (Address Pattern)	着信ホストやドメインのアドレス パターンを IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名のいずれかで指定します。

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
- ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

関連項目

- 「[許可されている ACL フォーマット](#)」(P.6-1)
- 第 11 章「[Cisco Unified Presence の管理ページでの設定値の設定](#)」

着信 ACL エントリの検索

ネットワークに ACL エントリが複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の ACL エントリを検索できます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [セキュリティ (Security)] > [着信 ACL (Incoming ACL)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

着信 ACL エントリの削除



(注)

フェデレーション ドメイン エントリに関連付けられている着信 ACL リストは、編集することも削除することもできません。フェデレーション ドメイン エントリをデータベースに追加すると、これらの ACL リストが自動的に追加されます。

手順

- ステップ 1** ACL エントリを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する ACL エントリを選択します。
- ステップ 3** ACL エントリを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<p>a. 該当するレコードをオンにします。</p> <p>b. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<p>a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。</p> <p>b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。</p>

トラブルシューティングのヒント

ACL エントリが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

関連項目

[「着信 ACL エントリの検索」\(P.6-3\)](#)



CHAPTER 7

Cisco Unified Presence の管理ページでの発信 ACL の設定

- 「許可されている ACL フォーマット」 (P.7-1)
- 「発信 ACL の設定」 (P.7-2)
- 「発信 ACL エントリの検索」 (P.7-3)
- 「発信 ACL エントリの削除」 (P.7-4)

許可されている ACL フォーマット

発信 Access Control List (ACL; アクセスコントロールリスト) を使用すると、Cisco Unified Presence からネットワークにアクセスできる発信ホストとドメインを制御するパターンを設定できます。Cisco Unified Presence では、着信ホストやドメインの完全修飾名だけでなく、一連の IP アドレスパターンも受け入れられます。Allow ディレクティブとその後に続く「from」によって、サーバにアクセスできるホストが判別されます。

発信 ACL を設定する場合は、表 7-2 に示されている形式の中から選択できます。

表 7-1 ACL アドレス パターン

ホスト アドレスの説明	設定例
すべてのホスト	• Allow from all
部分的なドメイン名	• Allow from company.com
完全な IP アドレス	• Allow from 10.1.2.3
部分的な IP アドレス	• Allow from 10.1
ネットワークとネットマスクのペア	• Allow from 10.1.0.0/255.255.0.0
ネットワーク /nnn CIDR 指定	• Allow from 10.1.0.0/16
	(注) ネットマスクは nnn 上位 1 ビットで構成されます。

発信 ACL の設定

始める前に

- 許可された発信アドレスの SIP プロキシ リストに追加するアドレスを設定します。このリストに追加されたアドレスはダイジェスト認証をバイパスします。
- デフォルトのシステム動作は、すべての発信要求の拒否です。[プレゼンス (Presence)] > [設定 (Settings)] の順に選択して [CUP CVP サポート (CUP CVP Support)] チェックボックスをオンにした場合は、システムで生成されたデフォルトのエントリを変更できます。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
発信 ACL エントリを追加する	<p>a. [システム (System)] > [セキュリティ (Security)] > [発信 ACL (Outgoing ACL)] の順に選択します。</p> <p>b. [新規追加 (Add New)] をクリックします。</p>
発信 ACL エントリを更新する	<p>a. レコードを検索します。</p> <p>b. 必要に応じてレコードを編集します。</p>

ステップ 2 表 7-2 の説明に従って発信 ACL の設定値を入力します。

表 7-2 発信 ACL の設定値

フィールド	説明
説明 (Description)	発信 ACL エントリの一般的な説明を指定します。 最大文字数：128
アドレス パターン (Address Pattern)	発信ホストまたはドメインのアドレス パターンを指定します。許可されたアドレス パターンの詳細については、「許可されている ACL フォーマット」(P.7-1) を参照してください。

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
- ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

関連項目

- 「発信 ACL エントリの検索」(P.7-3)
- 第 11 章「Cisco Unified Presence の管理ページでの設定値の設定」

発信 ACL エントリの検索

ネットワークに ACL エントリが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の発信 ACL エントリを検索できます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [セキュリティ (Security)] > [発信 ACL (Outgoing ACL)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#)に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

発信 ACL エントリの削除

手順

- ステップ 1** ACL エントリを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する ACL エントリを選択します。
- ステップ 3** ACL エントリを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<p>a. 該当するレコードをオンにします。</p> <p>b. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<p>a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。</p> <p>b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。</p>

トラブルシューティングのヒント

ACL エントリが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

関連項目

[「発信 ACL エントリの検索」 \(P.7-3\)](#)



CHAPTER 8

Cisco Unified Presence の管理ページでの TLS コンテキストの設定

- 「TLS コンテキストの設定」 (P.8-1)
- 「TLS コンテキストの検索」 (P.8-3)
- 「TLS コンテキストの削除」 (P.8-4)

TLS コンテキストの設定

設定したアプリケーション リスナーごとに 1 つの Transport Layer Security (TLS; トランスポート レイヤ セキュリティ) コンテキストを関連付けることができます。プロトコル タイプが TLS のアプリケーション リスナーに TLS コンテキストを関連付ける必要があります。

それぞれの TLS コンテキストには、暗号とピア サブジェクトを複数含めることができます。TLS コンテキスト設定により、暗号とピア サブジェクトをアプリケーション リスナーにマッピングできます。

始める前に

使用しているネットワークに合わせてアプリケーション リスナーを設定します。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
TLS コンテキストを追加する	<ol style="list-style-type: none">[システム (System)] > [セキュリティ (Security)] > [TLS コンテキスト設定 (TLS Context Configuration)] の順に選択します。[新規追加 (Add New)] をクリックします。
TLS コンテキストを更新する	<ol style="list-style-type: none">レコードを検索します。必要に応じてレコードを編集します。

ステップ 2 表 8-1 の説明に従って TLS コンテキストの設定値を入力します。

表 8-1 TLS コンテキストの設定値

フィールド	説明
名前 (Name)	TLS コンテキストに一意の名前を指定します。
説明 (Description)	TLS コンテキストの説明を指定します。
承認ポリシー (Authorization Policy)	特定の TLS コンテキストに対する承認の種類を指定します。リストボックスから [サーバ (Server)] または [ピア (Peer)] (デフォルト) のいずれかを選択します。
空の TLS フラグメントの無効化 (Disable Empty TLS Fragments)	空の TLS フラグメントを有効にするか無効にするかを指定します。
TLS 暗号のマッピング (TLS Cipher Mapping)	使用可能な選択済み TLS 暗号が表示されます。次の暗号を追加/削除できます。 <ul style="list-style-type: none"> • TLS_WITH_RSA_AES_128_CBC_SHA • TLS_WITH_RSA_AES_256_CBC_SHA • TLS_WITH_RSA_NULL_SHA • TLS_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA
TLS ピア サブジェクトのマッピング (TLS Peer Subject Mapping)	使用可能な選択済み TLS ピア サブジェクトが表示されます。 (注) TLS ピア サブジェクトは、TLS ピア サブジェクトのウィンドウで定義できます。

ステップ 3 適切な TLS 暗号を選択するには、上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

ステップ 4 適切な TLS ピア サブジェクトを選択するには、上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

ステップ 5 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

TLS コンテキストに対する変更を有効にするには、SIP プロキシサーバを再起動する必要があります。このプロキシサーバを再起動するには、[プレゼンス (Presence)] > [ルーティング (Routing)] > [設定 (Settings)] の順に選択します。

関連項目

- 「[TLS コンテキストの検索](#)」 (P.8-3)
- 「[Cisco Unified Presence の管理ページでの SIP プロキシサーバの設定](#)」 (P.16-1)
- 第 4 章「[Cisco Unified Presence の管理ページでのアプリケーション リスナーの設定](#)」

TLS コンテキストの検索

ネットワークに複数の TLS コンテキストが存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の TLS コンテキストを検索できます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [セキュリティ (Security)] > [TLS コンテキスト設定 (TLS Context Configuration)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

TLS コンテキストの削除

手順

- ステップ 1** TLS コンテキストを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する TLS コンテキストを選択します。
- ステップ 3** TLS コンテキストを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<p>a. 該当するレコードをオンにします。</p> <p>b. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<p>a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。</p> <p>b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。</p>

トラブルシューティングのヒント

- TLS コンテキストが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。
- TLS コンテキストに対する変更を有効にするには、SIP プロキシ サーバを再起動する必要があります。このプロキシ サーバを再起動するには、[プレゼンス (Presence)] > [ルーティング (Routing)] > [設定 (Settings)] の順に選択します。

関連項目

- 「[TLS コンテキストの検索](#)」(P.8-3)
- 「[Cisco Unified Presence の管理ページでの SIP プロキシ サーバの設定](#)」(P.16-1)



CHAPTER 9

Cisco Unified Presence の管理ページでの TLS ピア サブジェクトの設定

- 「[TLS ピア サブジェクトの設定](#)」 (P.9-1)
- 「[TLS ピア サブジェクトの検索](#)」 (P.9-2)
- 「[TLS ピア サブジェクトの削除](#)」 (P.9-3)

TLS ピア サブジェクトの設定

TLS ピア サブジェクト設定では、単一の TLS コンテキストに関連付けることができるピア サブジェクトを作成および変更できます。Cisco Unified Presence で使用される TLS ピア サブジェクト名を設定できます。

始める前に

使用しているネットワークに合わせて TLS コンテキストを設定します。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
TLS ピア サブジェクトを追加する	<ol style="list-style-type: none">[システム (System)] > [セキュリティ (Security)] > [TLS ピア サブジェクト (TLS Peer Subjects)] の順に選択します。[新規追加 (Add New)] をクリックします。
TLS ピア サブジェクトの更新	<ol style="list-style-type: none">「TLS ピア サブジェクトの検索」 (P.9-2) の説明に従ってレコードを検索します。必要に応じてレコードを編集します。

ステップ 2 表 9-1 の説明に従って TLS ピア サブジェクトの設定値を入力します。

表 9-1 TLS ピア サブジェクトの設定値

フィールド	説明
ピア サブジェクト名 (Peer Subject Name)	TLS ピア サブジェクトに一意の名前を指定します。 最大文字数：128
説明 (Description)	TLS ピア サブジェクトの説明を指定します。 最大文字数：128

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- TLS ピア サブジェクトに対する変更を有効にするには、SIP プロキシ サーバを再起動する必要があります。このプロキシ サーバを再起動するには、[プレゼンス (Presence)] > [ルーティング (Routing)] > [設定 (Settings)] の順に選択します。
- また、システム ダッシュボードを使用すると、Cisco Unified Presence でクラスタ間ピアのステータスを表示することもできます。[診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] の順に選択します。

関連項目

- 「Cisco Unified Presence の管理ページでの SIP プロキシ サーバの設定」(P.16-1)
- 第 8 章「Cisco Unified Presence の管理ページでの TLS コンテキストの設定」

TLS ピア サブジェクトの検索

1 つまたは複数の TLS ピア サブジェクトを 1 つの TLS コンテキストにマッピングできます。ネットワークに複数の TLS ピア サブジェクトが存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の TLS ピア サブジェクトを検索できます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [セキュリティ (Security)] > [TLS ピア サブジェクト (TLS Peer Subjects)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#)に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

TLS ピア サブジェクトの削除

手順

ステップ 1 TLS ピア サブジェクトを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除する TLS ピア サブジェクトを選択します。

ステップ 3 TLS ピア サブジェクトを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<ol style="list-style-type: none"> a. 該当するレコードをオンにします。 b. 次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<ol style="list-style-type: none"> a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。 b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- TLS ピア サブジェクトが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。
- TLS ピア サブジェクトに対する変更を有効にするには、SIP プロキシ サーバを再起動する必要があります。このプロキシ サーバを再起動するには、[プレゼンス (Presence)] > [ルーティング (Routing)] > [設定 (Settings)] の順に選択します。

関連項目

[「TLS ピア サブジェクトの検索」 \(P.9-2\)](#)



CHAPTER 10

Cisco Unified Presence の管理ページでのサービスパラメータの設定

- 「サービスパラメータを設定するための前提条件」(P.10-1)
- 「サーバに対するサービスパラメータの設定」(P.10-1)
- 「サービスパラメータの表示」(P.10-2)

サービスパラメータを設定するための前提条件

サービスパラメータを設定する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- サーバが設定されている。
- サーバでサービスが使用可能である。[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウに、使用可能なサービス (アクティブおよび非アクティブ) がすべて表示されます。



注意

サービスパラメータに加える変更の内容によっては、システムに障害が発生する場合があります。変更しようとしている機能を完全に理解している場合と、Cisco Technical Assistance Center (TAC) から変更の指定があった場合を除いて、サービスパラメータに変更を加えないようにしてください。

サーバに対するサービスパラメータの設定

Cisco Unified Presence のサービスパラメータを使用すると、選択したサーバでさまざまなサービスを設定できます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] リストボックスからサーバを選択します。
- ステップ 3** 更新するパラメータを含むサービスを [サービス (Service)] リストボックスから選択します。
- ステップ 4** 次のいずれかの操作を実行します。
 - a. 適切なパラメータ値を更新します。

- b. このサービス インスタンスのサービス パラメータをすべてデフォルト値に設定するには、[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンをクリックします。
- ステップ 5** 各パラメータとその説明を一覧表示するには、[サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで次のいずれかの操作を実行します。
- a. 疑問符アイコンをクリックします
- b. 特定のパラメータをクリックします。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- [サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウに、使用可能なサービス (アクティブおよび非アクティブ) がすべて表示されます。
- Cisco UP SIP プロキシ サービス用に [プロキシ ドメイン (Proxy Domain)] パラメータを設定する必要がある場合は、IP アドレスではなくドメイン名を入力します。IP アドレスを入力すると、Cisco Unified Presence と統合されているクライアント アプリケーションでホスト名が解決されない場合があります。
- 一部のサービスには、ほとんど変更されることのないサービス パラメータが含まれています。Cisco Unified Presence の管理ページには、[サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウにアクセスした場合にこれらのパラメータが自動的に表示されません。すべてのパラメータを表示するには、[詳細設定 (Advanced)] をクリックします。すべてのパラメータが表示されてから [簡易設定 (Condensed)] をクリックすると、基本パラメータを再表示できます。[詳細設定 (Advanced)] ボタンが無効な場合、デフォルトでそのサービスのパラメータがすべて表示されます。
- Cisco Unified Serviceability を使用してサービスを無効にすると、Cisco Unified Presence で更新後のサービス パラメータ値が維持されます。サービスを再開すると、Cisco Unified Presence によってサービス パラメータが変更後の値に設定されます。
- Cisco IP Phone Messenger (IPPM) が正しく動作するには、Cisco UP SIP プロキシ サービス用の HTTP ポート パラメータの値が、関連付けられた Cisco Unified Communications Manager の電話サービス パラメータの値と一致している必要があります。

関連項目

[「Cisco Unified Presence の管理ページでのシステム トポロジの設定」 \(P.2-1\)](#)

サービス パラメータの表示

クラスタ内のすべてのサーバで特定のサービスに属するサービス パラメータをすべて比較する必要がある場合があります。また、同期外れパラメータ (サーバ間で値が異なるサービス パラメータ) または提示された値から変更されているパラメータだけを表示する必要がある場合もあります。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] リスト ボックスからサーバを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] リスト ボックスから、クラスタ内のすべてのサーバに対するサービス パラメータを表示するサービスを選択します。

ステップ 4 次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
すべてのサーバに対するパラメータを表示する	<p>[サービス パラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで次の操作を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. [関連リンク (Related Links)] リスト ボックスから [すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] を選択します。 b. [移動 (Go)] をクリックします。
現在のサービスに対するパラメータを (アルファベット順に) 表示する	<p>[すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] ウィンドウで次の操作を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. 特定のパラメータに関して、サーバ名をクリックするか、対応する [サービス パラメータ (Service Parameter)] ウィンドウに表示する現在のパラメータ値をクリックします。 b. [前へ (Previous)] と [次へ (Next)] をクリックすると、[すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] ウィンドウ間を移動できます。
同期外れサービス パラメータを表示する	<p>[サービス パラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで次の操作を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. [関連リンク (Related Links)] リスト ボックスから [すべてのサーバに対する同期外れパラメータ (Out of Sync Parameters for All Servers)] を選択します。 b. [移動 (Go)] をクリックします。
サーバごとに値の異なるサービス パラメータを (アルファベット順に) 表示する	<p>[すべてのサーバに対する同期外れパラメータ (Out of Sync Parameters for All Servers)] ウィンドウで次の操作を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. 特定のパラメータに関して、サーバ名をクリックするか、対応する [サービス パラメータ (Service Parameter)] ウィンドウに表示する現在のパラメータ値をクリックします。 b. [前へ (Previous)] と [次へ (Next)] をクリックすると、[すべてのサーバに対する同期外れパラメータ (Out of Sync Parameters for All Servers)] ウィンドウ間を移動できます。

操作の目的	操作
提示された値から変更されているサービスパラメータを表示する	<p>[サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで次の操作を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. [関連リンク (Related Links)] リストボックスから [すべてのサーバに対する変更済みパラメータ (Modified Parameters for All Servers)] を選択します。 b. [移動 (Go)] をクリックします。
提示された値と異なる値が設定されたサービスパラメータを (アルファベット順に) 表示する	<p>[すべてのサーバに対する変更済みパラメータ (Modified Parameters for All Servers)] ウィンドウで次の操作を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. 特定のパラメータに関して、サーバ名をクリックするか、対応する [サービスパラメータ (Service Parameter)] ウィンドウに表示する現在のパラメータ値をクリックします。 b. [前へ (Previous)] と [次へ (Next)] をクリックすると、[すべてのサーバに対する変更済みパラメータ (Modified Parameters for All Servers)] ウィンドウ間を移動できます。

トラブルシューティングのヒント

- [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウに、使用可能なサービス (アクティブおよび非アクティブ) がすべて表示されます。
- パラメータ ウィンドウに一覧表示されているパラメータごとに、提示された値がそのパラメータの名前の横に表示されます。各パラメータ名の下に、そのパラメータを含むサーバのリストが表示されます。各サーバ名の横に、このサーバのパラメータの現在値が表示されます。



CHAPTER 11

Cisco Unified Presence の管理ページでの設定値の設定

- 「Cisco Unified Presence の設定値の設定」 (P.11-1)

Cisco Unified Presence の設定値の設定

Cisco Unified Presence の設定のウィンドウを使用して、Cisco Unified Presence のすべてのサービスとアプリケーションに関するグローバルパラメータの設定値を設定します。

手順

ステップ 1 [プレゼンス (Presence)] > [設定 (Settings)] の順に選択します。

ステップ 2 表 11-1 の説明に従ってサーバの設定値を設定します。

表 11-1 Cisco Unified Presence の設定値

フィールド	説明
CVP 対応 ACL 設定 (CVP Enable ACL Configuration)	システムで生成されたデフォルトのセキュリティ Access Control List (ACL; アクセスコントロールリスト) (着信と発信の両方) を制御し、ACL の変更を許可する必要がある場合にオンにします。デフォルトでは、ACL は変更できません。

表 11-1 Cisco Unified Presence の設定値 (続き)

フィールド	説明
[インスタントメッセージを有効にする (Enable Instant Messaging)] チェックボックス (クラスター全体)	<p>オンにすると、該当する Cisco Unified Presence クラスタでインスタントメッセージが有効になります。この設定は、Cisco IP Phone Messenger (IPPM) サービス、SIP プロキシ、およびプレゼンス エンジンに反映されます。</p> <p>デフォルト設定 : オン</p> <p> (注) このチェックボックスをオフにしてインスタントメッセージを無効にすると、「この CUP クラスタでインスタントメッセージをグローバルに無効にする場合、その前にすべての接続されている IPPM クライアントに (IPPM ステータス ページ経由で) 通知してログアウトさせる必要があります。続行しますか」という意味の警告メッセージが表示されます。</p>
ブロックされたユーザのプレゼンスを表示するユーザの機能を有効/無効にする (Enable/Disable ability for users to view presence on blocked users)	<p>オン/オフにすると、ブロックされたユーザのプレゼンス ステータスの表示がエンドユーザに許可/禁止されます。</p>

表 11-1 Cisco Unified Presence の設定値 (続き)

フィールド	説明
フェデレーションの電子メール ID を有効にする (Enable Email ID for Federation)	<p>オンにすると、ドメイン間フェデレーションに電子メールアドレスを使用できるようになります。このチェックボックスをオンにした場合は、外部エンタープライズとのフェデレーションの際に各ユーザの SIP URI を <code>userid@domain</code> からメールアドレスに (またはその逆に) 変更します。</p> <p>留意事項：</p> <ul style="list-style-type: none"> このチェックボックスをオンにしてフェデレーションに電子メール ID を使用できるようにする場合、外部ドメインのユーザは、正しい SIP URI を使用するように連絡先リストを変更し、メールアドレスを使用してこのドメインから各連絡先を追加する必要があります。このフィールドを変更する前に、まず外部エンタープライズのクライアントに対してこの処理を実行しておく必要があります。 このチェックボックスをオフにしてフェデレーションに電子メール ID を使用できないようにする場合、外部ドメインのユーザは、<code>userid@domain</code> を使用して連絡先を追加する必要があります。このフィールドを変更する前に、まず外部エンタープライズのクライアントに対してこの処理を実行しておく必要があります。 <p> (注) 留意事項を考慮したうえで必要に応じて処理を続行するように指示する警告メッセージが表示されます。値を変更する場合は [OK] をクリックし、元の値に戻す場合は [キャンセル (Cancel)] をクリックします。</p>
最大連絡先リスト サイズ (ユーザごと) (Max Contact List Size (per user))	<p>連絡先リストの最大サイズを 0 ~ 200 の範囲で入力します。</p> <p>デフォルト設定：200 件の連絡先</p> <p>(注) この設定では、Cisco Unified Personal Communicator と IP Phone Messenger の両方におけるユーザ当たりの連絡先の最大サイズを制御します。</p>
[CUCM で SIP パブリッシュを有効にする (Enable SIP Publish on CUCM)] チェックボックス	<p>オンにすると、関連付けられた Cisco Unified Communications Manager に対してパブリッシュが有効になります。この設定は、Cisco IP Phone Messenger (IPPM) サービス、SIP プロキシ、およびプレゼンス エンジンに反映されます。</p> <p>デフォルト設定：オフ</p> <p>(注) このフィールドは、Cisco Unified Communications Manager Release 6.0 以上に接続した場合にだけ表示されます。</p>

表 11-1 Cisco Unified Presence の設定値 (続き)

フィールド	説明
<p>CUCM SIP パブリッシュ トランク (CUCM SIP Publish Trunk)</p> <p>(注) このフィールドは、Cisco Unified Communications Manager Release 6.0 以上に接続した場合にだけ表示されます。</p>	<p>リスト ボックスから適切な SIP パブリッシュ トランクを選択すると、Cisco Unified Presence が Cisco Unified Communications Manager から電話機ステータスを監視できるようになります。</p> <p>(注) このパラメータを有効にするには、[Cisco Unified Communications Manager に対して SIP パブリッシュを有効にする (Enable Publish to Cisco Unified Communications Manager)] をオンにする必要があります。</p> <p>(注) このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager の SIP パブリッシュ トランクを変更します。これに加えて、Cisco Unified Communications Manager で SIP パブリッシュ トランクのパラメータを変更すると、両者は接続しているため、この設定も変更されます。</p> <p>デフォルト設定 : AXL から読み込んだ現在の Cisco Unified Communications Manager SIP パブリッシュ トランクの設定</p> <p> (注) このパラメータを [なし (None)] に変更すると、次のような意味の警告メッセージが表示されます。「Cisco Unified Communications Manager に対してパブリッシュを有効にしようとしていますが、SIP パブリッシュ トランクを選択していません。この設定では、Cisco Unified Presence は Cisco Unified Communications Manager 経由で電話機のステータスを監視できません。」</p>

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。



CHAPTER 12

Cisco Unified Presence の管理ページでの プレゼンス ゲートウェイの設定

プレゼンス ゲートウェイの目的は、設定済みのゲートウェイから Cisco Unified Presence のプレゼンス エンジンにプレゼンス ステータス情報を転送できるようにすることです。次のゲートウェイがサポートされています。

- Cisco Unified Communications Manager ゲートウェイ : Cisco Unified Communications Manager サーバをプレゼンス ゲートウェイとして設定できます。Cisco Unified Presence サーバから Cisco Unified Communications Manager に SIP トランク (Cisco Unified Communications Manager 上に設定されている) を経由して SIP 登録メッセージが送信されます。これにより、Cisco Unified Presence サーバは、電話のオンフック/オフフック ステータスなどのプレゼンス情報を受信できます。
- Microsoft Exchange (予定表連携用) ゲートウェイ : Microsoft Exchange サーバ (Microsoft Outlook 用) をプレゼンス ゲートウェイとして設定できます。これにより、Cisco Unified Presence サーバは、ユーザ単位のプレゼンス情報 (予定表/会議ステータス) を収集し、そのユーザのプレゼンス ステータスに取り込むことができます。
- 「[プレゼンス ゲートウェイの設定](#)」 (P.12-1)
- 「[プレゼンス ゲートウェイの検索](#)」 (P.12-7)
- 「[プレゼンス ゲートウェイの削除](#)」 (P.12-8)

プレゼンス ゲートウェイの設定

[[プレゼンス ゲートウェイ \(Presence Gateways\)](#)] ウィンドウを使用して、Cisco Unified Presence クラスタに関連付けられたゲートウェイを設定します。

始める前に

フェデレーション ドメイン エントリをデータベースに追加すると、そのフェデレーション ドメインのプレゼンス ゲートウェイ エントリが自動的に追加されます。これらの設定手順を手動で実行する必要はありません。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
プレゼンス ゲートウェイを追加する	<p>a. [プレゼンス (Presence)] > [ゲートウェイ (Gateways)] の順に選択します。</p> <p>b. [新規追加 (Add New)] をクリックします。</p>
プレゼンス ゲートウェイを更新する	<p>a. 「プレゼンス ゲートウェイの検索」 (P.12-7) の説明に従ってレコードを検索します。</p> <p>b. 必要に応じてレコードを編集します。</p>

ステップ 2 表 12-1 の説明に従ってプレゼンス ゲートウェイの設定値を入力します。

表 12-1 プレゼンス ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
プレゼンス ゲートウェイ タイプ (Presence Gateway Type)	<p>リスト ボックスから次のゲートウェイ タイプを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> CUCM : Cisco Unified Communications Manager ゲートウェイ Outlook:Outlook 予定表連携用の Microsoft Exchange ゲートウェイ <p>(注) Cisco Unified Presence の管理ページに、選択したゲートウェイ タイプに該当するフィールドが表示されます。</p>
説明 (Description)	<p>このプレゼンス ゲートウェイの説明</p> <p>最大文字数 : 255</p>
プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)	<p>関連付けられたゲートウェイの Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名) または IP アドレス</p> <p>(注) Outlook ゲートウェイ タイプを設定する場合は、有効な証明書チェーンを Cisco Unified Presence にアップロードする必要があります。[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドの値は、この証明書チェーンのリーフ証明書の件名 CN 値と一致している必要があります。この件名 CN 値は、常に Exchange サーバの FQDN または IP アドレスのいずれかになることが予想されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Cisco Unified Presence で DNS を設定した場合は、リーフ証明書の件名 CN 値は FQDN または IP アドレスのいずれかになると考えられます。[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドの値は、リーフ証明書の件名 CN 値と一致している必要があります。 Cisco Unified Presence で DNS を設定していない場合は、リーフ証明書の件名 CN 値は IP アドレスになります。件名 CN 値が IP アドレスでない場合は、件名 CN 値が Exchange サーバの IP アドレスになるようにこの Exchange 証明書を生成し直す必要があります。[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドの値は、リーフ証明書の件名 CN 値と一致している必要があります。

表 12-1 プレゼンス ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
アカウント名 (Account Name) (Outlook のみ)	Microsoft Exchange サーバに接続する場合に Cisco Unified Presence で使用されるグローバルなアカウント名。
アカウントパスワード (Account Password) (Outlook のみ)	Microsoft Exchange サーバのアカウント パスワード
パスワードの確認 (Confirm Password) (Outlook のみ)	Microsoft Exchange サーバのアカウント パスワードを確認します。このパスワードは、[アカウント パスワード (Account Password)] エントリと一致している必要があります。
プレゼンス ゲートウェイ ポート (Presence Gateway Port) (Outlook のみ)	Microsoft Exchange サーバの接続先のポート デフォルト値 : 443 (注) Cisco Unified Presence と Microsoft Exchange との統合は、セキュアな HTTP 接続を介して行う必要があります。ポート 443 を使用し、それ以外のポートに変更しないようにすることを推奨します。

ステップ 3 Outlook 予定表連携用に Microsoft Exchange ゲートウェイを選択した場合は、サーバ情報が正確であること、およびサーバが稼動していることを検証します。

ステータス	説明	操作
Exchange の到達可能性 (ping 可能) (Exchange Reachability (pingable))	成功した場合、Exchange サーバは到達可能 (ping 可能) です。	<ul style="list-style-type: none"> • ステップ 4 に進みます。
Exchange の到達可能性 (到達不可能) (Exchange Reachability (unreachable))	<p>Exchange サーバの到達可能性チェックに失敗しました。</p> <p>[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドは、Exchange サーバに対して ping を実行する場合に使用します。フィールド値が正しく入力されていないか、またはお客様のネットワークに何らかの問題 (ケーブルリングなど) があるため、サーバが到達不可になっていると考えられます。</p> <p>(注) Exchange プレゼンス サーバを初期設定する場合、UI で [プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドの値を件名 CN 値にする必要はありません。IP アドレスまたは解決可能なホスト名を入力できます。ただし、後の設定プロセスで、この値によって件名 CN 値が解決されます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ネットワークを介して Exchange サーバに到達できるように [プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドに適切な値 (FQDN または IP アドレス) が設定されていることを確認します。 [保存 (Save)] をクリックして変更を確定します。 ステップ 4 に進みます。

- ステップ 4** 次の説明に従って、Exchange サーバのステータスを確認し、Exchange SSL 証明書チェーンの正否を判別します。

ステータス	説明	操作
Exchange SSL 接続 / 証明書の確認成功	成功した場合は、Exchange サーバへの SSL 接続が確認済みとなります。	<p>a. [表示 (View)] をクリックして、証明書の詳細を表示します。</p> <p>b. [閉じる (Close)] をクリックします。</p>
Exchange SSL 接続 / 証明書の確認失敗 - 証明書がチェーンに見つからない	<p>Exchange へのセキュアな接続を確立するために Cisco Unified Presence から要求された 1 つまたは複数の証明書が欠落しています。</p> <p>証明書ビューアを使用すると、欠落している証明書の詳細を表示できます。</p> <p>欠落している証明書を Exchange サーバから手動でダウンロードし、Cisco Unified OS の管理 UI を使用してこれらの証明書をアップロードする必要があります。</p>	<p>a. 欠落している証明書を表示するには、証明書ビューアを使用して次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - [設定 (Configure)] をクリックして証明書ビューアを開きます。 - [証明書チェーンをそのまま使用 (Accept Certificate Chain)] をオンにします。 - [保存 (Save)] をクリックします。 - 証明書チェーンの詳細が表示されます。ステータスが [見つかりません (Missing)] になっている証明書を書き留めておきます。 - 証明書ビューアを閉じます。 <p>b. 証明書チェーンを完成させるには、欠落している証明書を Exchange サーバから手動でダウンロードし、Cisco Unified OS の管理 UI を使用してこれらの証明書をアップロードする必要があります。証明書チェーンを完成させるには、次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 欠落している証明書ファイルを Exchange サーバからダウンロードします。 - Cisco Unified Presence を管理する目的に使用しているコンピュータに欠落している証明書ファイルをコピーまたは FTP 転送します。 - [ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウンリストボックスから [Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] を選択し、信用証明書のユーザ名とパスワードを入力します。 - [セキュリティ (Security)] > [証明書管理 (Certificate Management)] を選択します。 - 必要な証明書を Presence Engine (PE; プレゼンス エンジン) 信頼証明書として Cisco Unified Presence にアップロードします。 - Cisco Unified Presence の管理ページの [プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateways)] ウィンドウに戻り、証明書ビューアを開き直して、証明書チェーン内のすべての証明書のステータスが [確認が成功しました (Verified)] になっていることを確認します。

ステータス	説明	操作
Exchange SSL 接続/証明書の確認失敗 - 件名 CN が一致しない	<p>[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateways)] フィールドの値は、必ず証明書チェーン内のリーフ証明書の件名 CN 値と一致している必要があります。</p> <p>この問題を解決するには、証明書ビューアを使用するか、または [プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateways)] フィールドに正しい値を入力します。</p>	<p>a. 証明書ビューアを使用して件名 CN の不一致を解決する場合は、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - [設定 (Configure)] をクリックして証明書ビューアを開きます。 - [証明書チェーンをそのまま使用 (Accept Certificate Chain)] をオンにします。 - [保存 (Save)] をクリックします。 - 証明書チェーンを保存すると、[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドの値が更新されたことが通知された後、[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] ページが更新されます。[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] ページの更新が完了したら、証明書ビューアを閉じます。 - [プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドの値が更新されていることを確認します。 - Exchange SSL 接続/証明書のステータス パラメータの値が [確認が成功しました (Verified)] になっていることを確認します。 <p>b. または、次の手順に従って、[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドエントリの正否を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - [プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドに正しい件名 CN 値を再入力します。 - [保存 (Save)] をクリックします。 <p>(注) [プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドは、Exchange サーバに対して ping を実行する場合に使用します。入力したホスト (FQDN または IP アドレス) は、IIS 証明書の件名 CN と完全に一致する必要があります。</p>

ステータス	説明	操作
Exchange SSL 接続 / 証明書 - 不正な証明書	証明書に不正な情報が含まれているため、その証明書が無効になっています。 通常、このエラーが発生するのは、証明書に不正な署名が含まれている場合です。この場合、証明書は必要な件名と一致しますが、公開キーと一致しません。この状況は、ピアで証明書が再生成されたにもかかわらず、Cisco Unified Presence サーバにまだ古い証明書が残っている場合に発生すると考えられます。また、証明書に未サポートのコンポーネント（サポートされていないアルゴリズムやキーのタイプなど）が含まれている場合にも、このエラーが発生することがあります。	<ul style="list-style-type: none"> ログをチェックして、このエラーの原因を特定します。 このエラーの原因が不正な署名の場合は、Cisco Unified OS の管理 UI を使用して、古い証明書を Cisco Unified Presence から削除し、新しい証明書をアップロードする必要があります。 このエラーの原因がサポートされていないアルゴリズムの場合は、Cisco Unified OS の管理 UI を使用して、サポートされているアルゴリズムを含む新しい証明書をアップロードする必要があります。
Exchange SSL 接続 / 証明書 - ネットワーク エラー	無応答タイムアウトなどのネットワーク上の問題が原因で確認が実行されない場合があります。	<ul style="list-style-type: none"> Exchange サーバへのネットワーク接続を検証し、適切な IP アドレスとポート番号で Exchange サーバに接続できることを確認します。
Exchange SSL 接続 / 証明書の確認失敗	何らかの不特定の原因により確認に失敗したか、または到達可能性を実行できなかったため確認に失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> デバッグ ログ ファイルを調べて詳細を確認してください。

ステップ 5 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- Cisco Unified Presence システム トラブルシュータで予定表連携の問題と解決策の詳細を確認できます。[診断 (Diagnostics)] > [システム トラブルシュータ (System Troubleshooter)] の順に選択します。
- システム ダッシュボードを使用すると、Cisco Unified Presence で予定表連携用ゲートウェイを追加したり、予定表連携統合に対応したユーザを表示したりすることもできます。[診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] の順に選択します。

関連項目

- 『*Integration Guide for Configuring Cisco Unified Presence with Microsoft Exchange Server*』
- 『*Cisco Unified Communications Operating System Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』

プレゼンス ゲートウェイの検索

ネットワークにプレゼンス ゲートウェイ サーバが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のゲートウェイを検索できます。

手順

-
- ステップ 1** [プレゼンス (Presence)] > [ゲートウェイ (Gateways)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

プレゼンス ゲートウェイの削除

手順

- ステップ 1** 該当するゲートウェイを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するゲートウェイを選択します。
- ステップ 3** ゲートウェイを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<p>a. 該当するレコードをオンにします。</p> <p>b. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<p>a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。</p> <p>b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。</p>

トラブルシューティングのヒント

ゲートウェイが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

関連項目

[「プレゼンス ゲートウェイの検索」 \(P.12-7\)](#)



CHAPTER 13

Cisco Unified Presence の管理ページでの クラスタ間ピアの設定

- 「クラスタ間ピアの設定」 (P.13-1)
- 「クラスタ間ピアのステータス」 (P.13-3)
- 「クラスタ間ピアの検索」 (P.13-4)
- 「クラスタ間ピアの削除」 (P.13-5)

クラスタ間ピアの設定

1 つまたは複数の外部 Cisco Unified Presence クラスタ（ピア）を関連付けることができます。これにより、他の Cisco Unified Presence クラスタ上のユーザ名と電話番号への要求のルーティングが可能になります。複数の Cisco Unified Presence クラスタ間でインスタントメッセージとプレゼンスステータスを送受信できます。

このウィンドウには、20 秒おきに最新のクラスタ間ステータス情報が反映されます。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
クラスタ間ピアを追加する	a. [プレゼンス (Presence)] > [クラスタ間設定 (Inter-clustering)] の順に選択します。 b. [新規追加 (Add New)] をクリックします。
クラスタ間ピアを更新する	a. 「 クラスタ間ピアの検索 」 (P.13-4) の説明に従ってレコードを検索します。 b. 必要に応じてレコードを編集します。

ステップ 2 表 13-1 の説明に従ってクラスタ間ピアの設定値を入力します。

表 13-1 クラスタ間ピアの設定値

フィールド	説明
ピア アドレス (Peer Address)	ピアの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
AXL ユーザ名 (AXL Username)	[AXL ユーザ名 (AXL Username)] (つまり、関連付けられたピアの AXL ログイン名) を入力します。
AXL パスワード (AXL Password)	関連付けられたピアの AXL パスワードを入力します。
AXL パスワードの確認 (Confirm AXL Password)	関連付けられたピアの AXL パスワードを再入力します。
プロトコル (Protocol)	<p>Cisco Unified Presence のクラスタ間 SIP トラフィックをルーティングする場合に Intercluster Sync Agent で優先的に使用される [プロトコルタイプ (Protocol Type)] を選択します。</p> <p> (注) 指定されたプロトコルがリモート Cisco Unified Presence クラスタで設定されていると、「プロトコル」が使用されます。リモートクラスタに「プロトコル」タイプの Cisco Unified Presence SIP プロキシリスナーが含まれていない場合は、UDP、TCP、TLS の順にプロトコルが選択されます。</p>
外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)	<p>リモート Cisco Unified Communications Manager/Cisco Unified Presence クラスタから同期化された各 DN に関連付けるデフォルト E164 外部電話番号マスクを入力します。</p> <p> (注) デフォルト E164 マスクは、リモートクラスタからラインアピアランスに割り当てられた E164 マスクで上書きされます。Cisco IP Phone Messenger (IPPM) では、ダイヤルバック機能用にリモートクラスタからの DN と E164 マスクが使用されます。</p>
強制同期 (Force Sync)	<p>[強制同期 (Force Sync)] をクリックして、Cisco Unified Presence がこのピアとデータの同期を取るように強制します。</p> <p>(注) このボタンは、クラスタ間ピアが正常に作成された場合に表示されます。</p>

ステップ 3 クラスタ間ピアのステータスを確認し、必要に応じて **ステップ 2** を繰り返します。

ステップ 4 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

関連項目

「クラスタ間ピアのステータス」 (P.13-3)

クラスタ間ピアのステータス

表 13-2 の設定は、クラスタ間ピア設定の成否を示します。

表 13-2 クラスタ間ピアのステータス

フィールド	説明
ピアの接続性 (Peer Connectivity)	成功した場合、そのピアは AXL 接続を介して到達可能です。失敗した場合、システムは AXL 経由でピアに接続できません。
ピアの互換性 (Peer Compatibility)	成功した場合は、そのピアに有効なユーザ ロケーション テーブルがあり、そのピアがクラスタ間設定に対応しています。失敗した場合は、そのピアにユーザ ロケーション テーブルがないため、そのピアとの互換性がありません。
ピア プロキシ ドメイン (Peer Proxy Domain)	成功した場合は、そのピアのプロキシ ドメインがローカル Cisco Unified Presence のプロキシ ドメインと一致しています。失敗した場合は、2 つのクラスタ (ローカルとリモート) のプロキシ ドメインが一致していません。
CUP のバージョン (CUP Version)	成功した場合は、そのピアのバージョンが表示されます。
CUCM パブリッシャのバージョン (CUCM Publisher Version)	成功した場合は、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのバージョンが表示されます。
一意の CUCM クラスタ (Unique CUCM Cluster)	<p>成功した場合は、2 つの Cisco Unified Communications Manager (ローカルとリモート) が同じクラスタに属していないことがテストで確認されました。</p> <p>失敗した場合は、2 つの Cisco Unified Communications Manager (ローカルとリモート) が同じクラスタに属していることがテストで確認されました。</p> <p> 注意 同じクラスタに属している Cisco Unified Communications Manager に 2 つの Cisco Unified Presence ピアを方向付けることは正しい設定ではありません。Cisco Unified Communications Manager クラスタの確認ができなため、リリース 6.x の Cisco Unified Presence ピアは自動的にこのテストに合格となることに注意してください。</p>
関連ユーザ (Associated Users)	成功した場合は、そのピアに関連付けられたユーザが表示されます。

フィールド	説明
重複するユーザ (Duplicate Users)	成功した場合は、そのピアに関連付けられた重複ユーザが表示されます。重複ユーザの数がゼロの場合は、[重複の表示 (View Duplicates)] ハイパーリンクが表示されます。このリンクから、重複ユーザ レポートを表示できます。
証明書のステータス (Certificate Status) (注) このステータス項目が表示されるのは、TLS をプロトコル タイプとして選択した場合だけです。	<p>成功した場合は、セキュアな接続が確立されています。</p> <p>失敗した場合 (1) : セキュリティ証明書の同期が外れています。[強制手動同期 (Force Manual Sync)] をクリックして、これらの証明書のロードを試行できます。この操作を実行してもセキュアな接続を確立できない場合は、Cisco Unified OS の管理でこれらの証明書を手動でロードできます。</p> <p>失敗した場合 (2) : このピア/クラスタが自動切り替えに対応していないため、システムでセキュリティ証明書の自動切り替えを実行できませんでした。Cisco Unified OS の管理でこれらの証明書を手動でロードできます。</p> <p>失敗した場合 (3) : セキュリティ証明書の切り替え中に内部エラーが発生したため、システムでセキュリティ証明書の自動切り替えを実行できませんでした。Cisco Unified OS の管理でこれらの証明書を手動でロードできます。</p>

クラスタ間ピアの検索

ネットワークに複数のクラスタ間ピアが存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件で特定のクラスタ間ピアを検索できます。

始める前に

Intercluster Sync Agent サービスが実行されていることを確認します。[クラスタ間ピアの検索と一覧表示 (InterCluster Peers Find and List)] ウィンドウが表示された時点で Intercluster Sync Agent サービスが実行されていない場合は、Cisco Unified Presence の複数のクラスタ間でプレゼンス情報を伝達するためのサービスが必要であることを知らせる警告メッセージがこのページの上部に表示されます。

手順

- ステップ 1** [プレゼンス (Presence)] > [クラスタ間設定 (Inter-clustering)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

クラスタ間ピアの削除

手順

ステップ 1 該当するクラスタ間ピアを検索します。

ステップ 2 クラスタ間ピアを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<ol style="list-style-type: none"> a. 該当するレコードをオンにします。 b. 次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<ol style="list-style-type: none"> a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。 b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

関連項目

[「クラスタ間ピアの検索」 \(P.13-4\)](#)



CHAPTER 14

Cisco Unified Presence の管理ページでの フェデレーション ドメインの設定

- 「フェデレーション ドメインの設定」 (P.14-1)
- 「フェデレーション ドメインの検索」 (P.14-2)
- 「フェデレーション ドメインの削除」 (P.14-3)

フェデレーション ドメインの設定

外部ドメインと統合するように Cisco Unified Presence を設定できます。これにより、エンタープライズドメイン内の Cisco Unified Presence ユーザと外部ドメイン内のユーザの統合が可能になります。Cisco Unified Presence で統合が許可されているドメイン (フェデレーション ドメイン) をデータベースに設定する必要があります。

始める前に

データベースに追加するフェデレーション ドメイン サーバと統合するように Cisco Unified Presence が設定されていることを確認します。詳細については、Cisco Unified Presence と統合するサードパーティ製品用の Cisco Unified Presence 統合ノートを参照してください。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
フェデレーション ドメインを追加する	<ol style="list-style-type: none">[プレゼンス (Presence)] > [ドメイン間フェデレーション (Inter-domain Federation)] の順に選択します。[新規追加 (Add New)] をクリックします。
フェデレーション ドメインを更新する	<ol style="list-style-type: none">「フェデレーション ドメインの検索」 (P.14-2) の説明に従ってレコードを検索します。必要に応じてレコードを編集します。

ステップ 2 表 14-1 の説明に従ってフェデレーション ドメインの設定値を入力します。

表 14-1 フェデレーション ドメインの設定値

フィールド	説明
ドメイン名 (Domain Name)	該当するドメインの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
説明 (Description)	該当するドメインの説明を入力します。
統合タイプ (Integration Type)	このフェデレーション ドメインに対応する統合のタイプを選択します。 次のオプションが用意されています。 <ul style="list-style-type: none"> ドメイン間 CUP から CUP ドメイン間 CUP から LCS/OCS

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
- ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- フェデレーション ドメイン エントリをデータベースに追加すると、そのフェデレーション ドメインのプレゼンス ゲートウェイ エントリと着信 ACL エントリが自動的に追加されます。これらの設定手順を手動で実行する必要はありません。
- システム ダッシュボードを使用すると、Cisco Unified Presence でフェデレーション ドメインを表示することもできます。[診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] の順に選択します。

フェデレーション ドメインの検索

フェデレーション ドメインが複数設定されている場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のフェデレーション ドメインを検索できます。

手順

- ステップ 1** [プレゼンス (Presence)] > [ドメイン間フェデレーション (Inter-domain Federation)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

「Web ブラウザ セッション」(P.1-7)

フェデレーション ドメインの削除

手順

- ステップ 1** 「フェデレーション ドメインの検索」(P.14-2) の手順に従ってフェデレーション ドメインを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するフェデレーション ドメインを選択します。
- ステップ 3** フェデレーション ドメインを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<ol style="list-style-type: none"> a. 該当するレコードをオンにします。 b. 次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<ol style="list-style-type: none"> a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。 b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- フェデレーション ドメインが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。
- フェデレーション ドメインを削除すると、関連付けられている着信 ACL も削除されます。プレゼンス ゲートウェイに関連付けられているフェデレーション ドメインが他に存在しない場合は、関連付けられているプレゼンス ゲートウェイも削除されます。

■ フェデレーション ドメインの削除



CHAPTER 15

Cisco Unified Presence の管理ページでの ユーザ エージェントの設定

- 「ユーザ エージェントの設定」 (P.15-1)
- 「ユーザ エージェントの検索」 (P.15-2)
- 「ユーザ エージェントの削除」 (P.15-3)
- 「ユーザ エージェントのコピー」 (P.15-4)

ユーザ エージェントの設定

[ユーザ エージェント設定 (User-Agent Configuration)] ウィンドウを使用して、リーチャビリティバージョンを設定します。つまり、Cisco Unified Personal Communicator の旧バージョンとの下位互換性を提供します。デフォルトでは、特別に設定されていないすべてのユーザ エージェントはリーチャビリティバージョン2を使用し、この値は RFC 4479 に準拠しています。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
ユーザ エージェントを追加する	a. [プレゼンス (Presence)] > [ユーザ エージェント設定 (User-Agent Configuration)] の順に選択します。 b. [新規追加 (Add New)] をクリックします。
ユーザ エージェントを更新する	a. 「ユーザ エージェントの検索」 (P.15-2) の説明に従ってレコードを検索します。 b. 必要に応じてレコードを編集します。

ステップ 2 表 15-1 の説明に従ってユーザ エージェントの設定値を入力します。

表 15-1 ユーザ エージェントの設定値

フィールド	説明
クライアント ユーザ エージェント バージョン (Client User-Agent Version)	クライアント ユーザ エージェント バージョンを指定します。これは自由な形式のテキスト フィールドであり、検証が行われません。 最大文字数 : 255
リーチャビリティ バージョン (Reachability Version)	クライアントがプレゼンス ドキュメントで使用するリーチャビリティ バージョンを次のとおりに指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 1 : draft-ietf-simple-rpid-07 2 : RFC 4479

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

ユーザ エージェントの検索

Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のユーザ エージェントを検索できます。フェデレーション ドメインが複数設定されている場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のフェデレーション ドメインを検索できます。

手順

ステップ 1 [プレゼンス (Presence)] > [ユーザ エージェント設定 (User-Agent Configuration)] の順に選択します。

ステップ 2 データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。

ステップ 3 レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。

- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。

ステップ 4 [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコード リストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

ユーザ エージェントの削除

手順

- ステップ 1** ユーザ エージェントを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するユーザ エージェントを選択します。
- ステップ 3** ユーザ エージェントを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<p>a. 該当するレコードをオンにします。</p> <p>b. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<p>a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。</p> <p>b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。</p>

トラブルシューティングのヒント

ユーザ エージェントが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

関連項目

[「ユーザ エージェントの検索」 \(P.15-2\)](#)

ユーザ エージェントのコピー

手順

- ステップ 1** ユーザ エージェントを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、コピーするユーザ エージェントを選択します。
- ステップ 3** データをコピーするには、次のいずれかの操作を実行します。
- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [コピー (Copy)] アイコンをクリックします。
 - b. ウィンドウの下部にある [コピー (Copy)] をクリックします。
- ステップ 4** 表 15-2 の説明に従ってユーザ エージェントの設定値を入力します。

表 15-2 ユーザ エージェントの設定値

フィールド	説明
クライアント ユーザ-エージェントバージョン (Client User-Agent Version)	クライアント ユーザ エージェント バージョンを指定します。これは自由な形式のテキスト フィールドであり、検証が行われません。 最大文字数 : 255
リーチャビリティ バージョン (Reachability Version)	クライアントがプレゼンス ドキュメントで使用するリーチャビリティ バージョンを次のとおりに指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 : draft-ietf-simple-simple-rpid-07 • 2 : RFC 4479

- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

関連項目

「ユーザ エージェントの検索」(P.15-2)



CHAPTER 16

Cisco Unified Presence の管理ページでの SIP プロキシ サーバの設定

- 「プロキシ サーバの設定」 (P.16-1)
- 「プロキシ サーバの設定値の設定」 (P.16-1)
- 「プロキシ サービスの再起動」 (P.16-2)

プロキシ サーバの設定

SIP プロキシ設定パラメータを設定できます。プロキシ サーバの設定に変更を加えたら、Cisco Unified Presence クラスタ内の SIP プロキシ サービスを一度停止してから再起動する必要があります。

次の変更では、SIP プロキシ サービスの再起動が必要です。

- システム サーバの追加、削除、または変更
- SIP プロキシ サーバ設定の変更
- アプリケーション リスナーの追加、削除、または変更
- TLS コンテキストおよび TLS ピア サブジェクトの追加、削除、または変更



警告

プロキシ サービスの再起動中は、Cisco Enterprise SIP プロキシ サービスで既存のトランザクションが停止されるため、新規の要求が受け入れられなくなります。

プロキシ サーバの設定値の設定

プロキシ サーバの設定値を使用して、SIP プロキシ サーバを設定します。

手順

- ステップ 1** [プレゼンス (Presence)] > [ルーティング (Routing)] > [設定 (Settings)] の順に設定します。
- ステップ 2** 表 16-1 の説明に従ってプロキシ サーバの設定値を選択します。

表 16-1 プロキシ サーバの設定値

フィールド	説明
メソッド/イベントルーティングのステータス (Method/Event Routing Status)	SIP プロキシ サーバでメソッド/イベントルーティング モジュールを有効にするか無効にするかを指定します。[メソッド/イベントルーティングのステータス (Method/Event Routing Status)] で [オン (On)] または [オフ (Off)] を選択します。
優先プロキシリスナー (Preferred Proxy Listener)	[優先プロキシリスナー (Preferred Proxy Listener)] と見なす SIP プロキシリスナーを指定します。このリストボックスには、[アプリケーションリスナー (Application Listeners)] ウィンドウで定義した SIP プロキシサーバのリスナーが含まれています。

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

プロキシ サービスの再起動

Cisco Unified Presence の管理ページで行う変更を有効にするのに、SIP プロキシ サービスの再起動が必要な場合があります。

始める前に

「プロキシサーバの設定」(P.16-1) を確認してください。

手順

- ステップ 1** [プレゼンス (Presence)] > [ルーティング (Routing)] > [設定 (Settings)] の順に設定します。
- ステップ 2** [すべてのプロキシ サービスのリスタート (Restart All Proxy Services)] をクリックします。
- ステップ 3** 確認ウィンドウが表示されたら、[OK] をクリックします。



CHAPTER 17

Cisco Unified Presence の管理ページでの スタティック ルートの設定

- 「スタティック ルートの設定」 (P.17-1)
- 「スタティック ルートの検索」 (P.17-4)
- 「スタティック ルートの削除」 (P.17-5)

スタティック ルートの設定

SIP プロキシ サーバ トラフィック用のスタティック ルートを設定します。ダイナミック ルートは、ルーティング プロトコルとルーティング更新メッセージに従って自動的に計算されるネットワーク経由のパスを表します。スタティック ルートは、明示的に設定するネットワーク経由の固定パスを表します。

スタティック ルートは、ダイナミック ルートよりも優先されます。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
スタティック ルートを追加する	<ol style="list-style-type: none">[プレゼンス (Presence)] > [ルーティング (Routing)] > [スタティック ルート (Static Routes)] の順に選択します。[新規追加 (Add New)] をクリックします。
サーバを更新する	<ol style="list-style-type: none">「スタティック ルートの検索」 (P.17-4) の説明に従ってレコードを検索します。必要に応じてレコードを編集します。

ステップ 2 表 17-1 の説明に従ってスタティック ルートの設定値を入力します。

表 17-1 スタティック ルートの設定値

フィールド	説明
宛先パターン (Destination Pattern)	<p>着信番号のパターンを 255 文字以内で指定します。</p> <p>(注) SIP プロキシでは、100 本のスタティック ルートにだけ同じルートパターンを割り当てることができます。この制限を超えると、Cisco Unified Presence のログにエラーが記録されます。</p> <p>ドット (.) は任意の 1 文字を表すワイルドカードとして使用し、アスタリスク (*) は任意の複数の文字を表すワイルドカードとして使用できます。</p> <p>ダッシュやハイフン (-) もパターン内の任意の場所で使用できます。</p> <p>ワイルドカードの使用方法</p> <p>電話機の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ドットはパターン内の任意の場所に使用できます。 アスタリスクは末尾だけに使用できます。 <p>IP アドレスおよびホスト名の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> アスタリスクはホスト名の一部として使用できます。 ドットはホスト名のリテラル値の役割を果たします。 <p>エスケープ文字とアスタリスクの連続 (*) はリテラル * と一致し、任意の場所で使用できます。</p>
説明 (Description)	特定のスタティック ルートの説明を 255 文字以内で指定します。
ネクスト ホップ (Next Hop)	<p>着信先 (ネクスト ホップ) のドメイン名または IP アドレスを指定し、完全修飾ドメイン名 (FQDN) またはドット付き IP アドレスのいずれかにすることができます。</p> <p>(注) Cisco Unified Presence では、DNS SRV ベースのコール ルーティングがサポートされています。DNS SRV をスタティック ルート用のネクスト ホップとして指定する場合は、このパラメータを該当する DNS SRV の名前に設定します。</p>
ネクスト ホップ ポート (Next Hop Port)	<p>着信先 (ネクスト ホップ) のポート番号を指定します。</p> <p>デフォルト : 5060</p> <p>(注) Cisco Unified Presence では、DNS SRV ベースのコール ルーティングがサポートされています。DNS SRV をスタティック ルート用のネクスト ホップとして指定する場合は、このパラメータを 0 に設定します。</p>
ルート タイプ (Route Type)	<p>ルート タイプを指定します ([ユーザ (User)] または [ドメイン (Domain)])。</p> <p>デフォルト設定 : ユーザ (User)</p>
プロトコル タイプ (Protocol Type)	<p>このルートのプロトコル タイプ (TCP、UDP、または TLS) を指定します。</p> <p>デフォルト設定 : TCP</p>

表 17-1 スタティック ルートの設定値 (続き)

フィールド	説明
プライオリティ (Priority)	このルートのプライオリティ レベルを指定します。値が小さいほど、プライオリティが高くなります。 値の範囲：1 ~ 65535 デフォルト設定：1
重み付け (Weight)	ルートの重み付けを指定します。このパラメータは、複数のルートのプライオリティが同じ場合に限り使用します。値が大きいほど、ルートのプライオリティが高くなります。 値の範囲：1 ~ 65535 例：次のプライオリティと重み付けが関連付けられた 3 本のルートがあるとします。 <ul style="list-style-type: none"> • 1、20 • 1、10 • 2、50 この例では、スタティック ルートが正確な順序で示されています。プライオリティ パラメータに基づくと、プライオリティ値が最も小さい（この例では 1）ルートが最優先ルートになります。2 本のルートに同じプライオリティが割り当てられているため、重み付けパラメータに基づいて重み付け値が最も大きいルートが最優先ルートになります（この例では 1、20）。
固有性の低いルートを許可 (Allow Less-Specific Route)	固有性の低いルートを許可することを示します。 デフォルト設定：オン
イン サービス (In Service)	ルートをアウト オブ サービスにするかどうかを指定します。 (注) このパラメータを使用すると、管理者は効率的にルートをアウト オブ サービスにすることができます（完全に削除してから再度追加する必要がありません）。
[ルートのブロック (Block Route)] チェックボックス	オンにすると、該当するルートがブロックされます。 デフォルト値：オフ

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

スタティック ルートの検索

ネットワークに複数のスタティック ルートが存在する場合がありますため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のスタティック ルートを検索できます。

手順

- ステップ 1** [プレゼンス (Presence)] > [ルーティング (Routing)] > [スタティック ルート (Static Routes)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#)に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコード リストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

スタティック ルートの削除

手順

- ステップ 1** スタティック ルートを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するスタティック ルートを選択します。
- ステップ 3** スタティック ルートを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<ol style="list-style-type: none"> a. 該当するレコードをオンにします。 b. 次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<ol style="list-style-type: none"> a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。 b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

スタティック ルートが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

関連項目

[「スタティック ルートの検索」 \(P.17-4\)](#)

■ スタティック ルートの削除



CHAPTER 18

Cisco Unified Presence の管理ページでのコンテンツベースの SIP メッセージルーティングの設定

- 「メソッドベースまたはイベントベースのルートの設定」 (P.18-1)
- 「メソッド/イベント ルートの検索」 (P.18-2)
- 「メソッド/イベント ルートの削除」 (P.18-3)

メソッドベースまたはイベントベースのルートの設定

メソッドベースまたはイベントベースのルーティングを使用して、コンテンツに応じて SIP メッセージをルーティングするように SIP プロキシ サーバを設定します。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
メソッドベースまたはイベントベースのルートの設定	<p>a. [プレゼンス (Presence)] > [ルーティング (Routing)] > [メソッド/イベント ルーティング (Method/Event Routing)] の順に選択します。</p> <p>b. [新規追加 (Add New)] をクリックします。</p>
メソッドベースまたはイベントベースのルートを更新	<p>a. 「メソッド/イベント ルートの検索」 (P.18-2) の説明に従ってレコードを検索します。</p> <p>b. 必要に応じてレコードを編集します。</p>

■ メソッド/イベント ルートの検索

ステップ 2 表 18-1 の説明に従って、メソッドベースまたはイベントベースのルートの設定値を入力します。

表 18-1 メソッド/イベント ルートの設定値

フィールド	説明
名前 (Name)	特定のメソッドベースまたはイベントベースのルートに関連付けられている名前を指定します。 最大文字数：128
説明 (Description)	特定のメソッド/イベント ルートの説明を指定します。 最大文字数：255
コンテンツ トークン (Content Token)	SIP メッセージのルーティングに使用するコンテンツ検索文字列を指定します。 PUBLISH や SUBSCRIBE などがその例です。 最大文字数：128
コンテンツ カテゴリ (Content Category)	メソッドベースまたはイベントベースのいずれかの [コンテンツ カテゴリ (Content Category)] を指定します。
接続先アドレス (Destination Address)	SIP メッセージが送信される着信先 (ネクスト ホップ) のドメイン名または IP アドレスを指定します。
接続先ポート (Destination Port)	着信先 (ネクスト ホップ) のポート番号を指定します。 デフォルト ポート：5060
プロトコル タイプ (Protocol Type)	SIP メッセージを転送する場合に使用するプロトコル タイプ (TCP、UDP、または TLS) を指定します。 デフォルト タイプ：UDP

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

メソッド/イベント ルートの検索

ネットワークに複数のメソッド/イベントベースのルートが存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のメソッド/イベントベースのルートを検索できます。

手順

- ステップ 1** [プレゼンス (Presence)] > [ルーティング (Routing)] > [メソッド/イベント ルーティング (Method/Event Routing)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。

- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。

ステップ 4 [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

メソッド/イベント ルートの削除

手順

ステップ 1 メソッド/イベント ルートを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除するメソッド/イベント ルートを選択します。

ステップ 3 メソッド/イベント ルートを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<ol style="list-style-type: none"> 該当するレコードをオンにします。 次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<ol style="list-style-type: none"> [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。 [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

メソッド/イベント ルートが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

関連項目

[「メソッド/イベント ルートの検索」 \(P.18-2\)](#)

■ メソッド/イベント ルートの削除



CHAPTER 19

Cisco Unified Presence の管理ページでの 番号拡張の設定

- 「番号拡張の設定」 (P.19-1)
- 「番号拡張パターンの検索」 (P.19-2)
- 「番号拡張パターンの削除」 (P.19-3)

番号拡張の設定

番号拡張設定では、内線番号を完全な E.164 電話番号に拡張するパターンを指定できます。番号拡張を使用すると、番号を除去することもできます。また、電話番号がグローバルダイヤルパターンと一致するように設定し、それに応じて SIP 要求をルーティングすることもできます。

番号拡張には優先度が不要なため、順序付けを行う必要はありません。代わりに、SIP プロキシでは、最上位のルールから順にルールが処理されます。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
番号拡張パターンを追加する	<ol style="list-style-type: none">[プレゼンス (Presence)] > [ルーティング (Routing)] > [番号拡張 (Number Expansion)] の順に選択します。[新規追加 (Add New)] をクリックします。
クラスタ間ピアを更新する	<ol style="list-style-type: none">「番号拡張パターンの検索」 (P.19-2) の説明に従ってレコードを検索します。必要に応じてレコードを編集します。

ステップ 2 表 19-1 の説明に従って番号拡張の設定値を入力します。

表 19-1 番号拡張パターン

フィールド	説明
名前 (Name)	該当するルートに一意の名前を指定します。
説明 (Description)	該当するルートの一般的な説明を指定します。

表 19-1 番号拡張パターン (続き)

フィールド	説明
入力パターン (Input Pattern)	内部ダイヤル拡張のパターンを指定します (例: 6...)。 注： <ul style="list-style-type: none"> 使用可能な文字は英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9)、ピリオド (.)、およびプラス記号 (+) です。空白文字を入れないでください。 ドット (.) 文字は、1 桁に対応したワイルドカードになります。パターンと変換には、「.」文字が同じ数だけ必要となります。これは、文字列の末尾にしか配置できません。
トランスレーションパターン (Translation Pattern)	入力パターンに一致した番号を適切な着信先に転送する番号拡張ルールを指定します (例: 1919476....)。 注： <ul style="list-style-type: none"> 使用可能な文字は英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9)、ピリオド (.)、およびプラス記号 (+) です。空白文字を入れないでください。 ドット (.) 文字は、1 桁に対応したワイルドカードになります。パターンと変換には、「.」文字が同じ数だけ必要となります。これは、文字列の末尾にしか配置できません。

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

番号拡張パターンの検索

ネットワークに番号拡張パターンが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の番号拡張パターンを検索できます。

手順

- ステップ 1** [プレゼンス (Presence)] > [ルーティング (Routing)] > [番号拡張 (Number Expansion)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#)に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

番号拡張パターンの削除

手順

ステップ 1 番号拡張パターンを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除する番号拡張パターンを選択します。

ステップ 3 番号拡張パターンを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<ol style="list-style-type: none"> a. 該当するレコードをオンにします。 b. 次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<ol style="list-style-type: none"> a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。 b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

関連項目

[「番号拡張パターンの検索」 \(P.19-2\)](#)



CHAPTER 20

Cisco Unified Presence の管理ページでの Cisco Unified Personal Communicator サーバおよびユーザの設定値の設定

Cisco Unified Presence は、Cisco Unified Personal Communicator の主要な機能をサポートし、ユーザの個人データ（ステータス、機能、個人的なルールや設定など）を保存できるように設定する必要があります。

また、Cisco Unified Presence では、Cisco Unified Personal Communicator の電話機制御やクリックダイヤルサービスの監視を有効にすることもできます。高度に安全な環境により、ユーザのパスワードからネットワーク接続情報や個人の連絡先リストまで、さまざまな個人情報の完全性を保証できます。

- [「Cisco Unified Presence での Cisco Unified Personal Communicator サーバの設定値の設定」](#) (P.20-1)
- [「Cisco Unified Presence での Cisco Unified Personal Communicator ユーザの設定値の設定方法」](#) (P.20-3)

Cisco Unified Presence での Cisco Unified Personal Communicator サーバの設定値の設定

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [設定 (Settings)] の順に選択します。

ステップ 2 表 20-1 の説明に従って、Cisco Unified Personal Communicator に適したグローバルな設定値を入力します。

表 20-1 Cisco Unified Personal Communicator の設定値

フィールド	説明
プロキシ リスナー (Proxy Listener)	リスト ボックスからプロキシ リスナーを選択します。 デフォルトのリスナー タイプ : Default Cisco SIP Proxy TCP Listener  (注) このリスナーは、Cisco Unified Personal Communicator のすべてのユーザに適用されます。
プライマリ TFTP サーバ (Primary TFTP Server)	プライマリ TFTP サーバのアドレスを完全修飾ドメイン名または IP アドレスのいずれかで指定します。 最大文字数 : 128
バックアップ TFTP サーバ (Backup TFTP Server)	バックアップ TFTP サーバのアドレスを完全修飾ドメイン名または IP アドレスのいずれかで指定します。 最大文字数 : 128
ディレクトリ サーバのタイプ (Directory Server Type)	Microsoft Active Directory を適切なディレクトリ サーバタイプとして指定します。

ステップ 3 使用環境に適した LDAP アトリビュート名を入力し、表 20-2 の説明に従って、特定の Cisco Unified Personal Communicator アトリビュート名にマッピングします。

表 20-2 デフォルトの LDAP アトリビュート マッピング

Cisco Unified Personal Communicator のユーザフィールド	Microsoft Active Directory のデフォルトの LDAP マッピング名	Netscape または Sun ONE のデフォルトの LDAP マッピング名
UserID	sAMAccountName	uid
FirstName	givenName	givenName
LastName	sn	sn
MiddleName	middleName	initials
Nickname	Nickname	Nickname
Photo		jpegPhoto
Title	title	title
DisplayName	displayName	displayName
NamePrefix	namePrefix	namePrefix
NameSuffix		
Gender	gender	gender
BusinessEMail	mail	mail
BusinessPhoneNumber	telephoneNumber	telephoneNumber
BusinessVoiceMail		voicemail
BusinessMobilePhone	mobile	mobile
BusinessPager	pager	pager
BusinessFax	facsimileTelephoneNumber	facsimileTelephoneNumber

表 20-2 デフォルトの LDAP アトリビュート マッピング (続き)

Cisco Unified Personal Communicator のユーザ フィールド	Microsoft Active Directory のデフォルトの LDAP マッピング名	Netscape または Sun ONE のデフォルトの LDAP マッピング名
BusinessOtherPhone	otherTelephone	
HomeEMail		
HomeMobilePhone		
HomeFax	pager	
URL	url	labeledURI

ステップ 4 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

選択したディレクトリ サーバタイプのアトリビュート マッピング フィールドをデフォルトに戻すには、[デフォルトに戻す (Restore Defaults)] をクリックします。

Cisco Unified Presence での Cisco Unified Personal Communicator ユーザの設定値の設定方法

- 「Cisco Unified Personal Communicator ユーザの設定」 (P.20-3)
- 「Cisco Unified Personal Communicator ユーザの検索」 (P.20-5)
- 「ユーザの削除」 (P.20-6)

Cisco Unified Personal Communicator ユーザの設定

Cisco Unified Personal Communicator ユーザに対してユーザ単位の設定値を設定できます。それぞれの Cisco Unified Personal Communicator ユーザを複数のアプリケーション プロファイルに割り当てることができます。これらのプロファイルには、次のものがあります。

- ボイスメール
- 会議
- CTI ゲートウェイ
- LDAP

これらの 4 つのカテゴリのプロファイルに [デフォルト (Default)] マークが付いている場合は、後から Cisco Unified Personal Communicator に対して有効になったすべてのユーザにこれらのデフォルト設定が割り当てられます。パフォーマンスとスケーラビリティに基づいて Cisco Unified Personal Communicator ユーザを区分できます。

始める前に

更新する Cisco Unified Personal Communicator ユーザを検索します。

手順

ステップ 1 表 20-3 の説明に従ってユーザ設定パラメータを入力します。

表 20-3 ユーザ設定パラメータ

フィールド	説明
ボイスメール プロファイル (Voicemail Profile)	使用可能な Cisco ボイスメール プロファイルのリスト ボックスで構成されます。このリストが空の場合は、Cisco Unified Personal Communicator のボイスメール プロファイルを設定する必要があります。
会議プロファイル (Conferencing Profile)	使用可能な Cisco 会議プロファイルのリスト ボックスで構成されます。このリストが空の場合は、Cisco Unified Personal Communicator の会議プロファイルを設定する必要があります。
CTI ゲートウェイ プロファイル (CTI Gateway Profile)	使用可能な Cisco CTI ゲートウェイ プロファイルのリスト ボックスで構成されます。このリストが空の場合は、Cisco Unified Personal Communicator の Cisco CTI ゲートウェイ プロファイルを設定する必要があります。
LDAP プロファイル (LDAP Profile)	使用可能な Cisco LDAP プロファイルのリスト ボックスで構成されます。このリストが空の場合は、Cisco Unified Personal Communicator の Cisco LDAP プロファイルを設定する必要があります。

ステップ 2 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

また、システム ダッシュボードを使用すると、Cisco Unified Presence で有効になっている Cisco Unified Personal Communicator ユーザを表示することもできます。[診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] の順に選択します。

関連項目

- 「Cisco Unified Personal Communicator ユーザの検索」 (P.20-5)
- 第 21 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール サーバ、ボイスメール プロファイル、およびメールストアの設定」
- 第 22 章「Cisco Unified Presence の管理ページでの会議サーバおよびプロファイルの設定」
- 第 23 章「Cisco Unified Presence の管理ページでの Cisco Unified Personal Communicator CTI ゲートウェイの設定値の設定」
- 第 24 章「Cisco Unified Presence の管理ページでの LDAP サーバおよびプロファイルの設定」

Cisco Unified Personal Communicator ユーザの検索

ネットワークにユーザが複数存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のユーザを検索できます。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [ユーザ設定 (User Settings)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコード リストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

ユーザの削除

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Personal Communicator ユーザを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するユーザを選択します。
- ステップ 3** ユーザを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<p>a. 該当するレコードをオンにします。</p> <p>b. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">• ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。• ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<p>a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。</p> <p>b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。</p>

トラブルシューティングのヒント

ユーザが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

関連項目

[「Cisco Unified Personal Communicator ユーザの検索」 \(P.20-5\)](#)



CHAPTER 21

Cisco Unified Presence の管理ページでの ボイスメール サーバ、ボイスメール プロファ イル、およびメールストアの設定

- 「Cisco Unified Personal Communicator と Cisco Unified Presence 間のセキュア ボイス メッセージングについて」 (P.21-1)
- 「Cisco Unified Presence でのボイスメール サーバの設定方法」 (P.21-2)
- 「Cisco Unified Presence でのメールストアの設定方法」 (P.21-5)
- 「Cisco Unified Presence でのボイスメール プロファイルの設定方法」 (P.21-8)

Cisco Unified Personal Communicator と Cisco Unified Presence 間のセキュア ボイス メッセージングに ついて

- 「Cisco Unified Personal Communicator でのセキュア ボイス メッセージング設定」 (P.21-1)
- 「Cisco Unified Presence でのセキュア ボイス メッセージング設定」 (P.21-2)

Cisco Unified Personal Communicator でのセキュア ボイス メッセー ジング設定

Cisco Unified Personal Communicator は、Cisco Unity ボイスメール サーバと Cisco Unity Connection サーバを使用したセキュアなボイス メッセージの再生に対応しています。リリース 7.0 より前の Cisco Unified Personal Communicator には、セキュア メッセージング機能が用意されていません。

関連項目

Cisco Unified Personal Communicator でのセキュア メッセージング、バージョン互換、およびこの機能の設定に関する前提条件の詳細については、『*Installation and Configuration Guide for Cisco Unified Personal Communicator*』を参照してください。

Cisco Unified Presence でのセキュア ボイス メッセージング設定

Cisco Unified Presence の管理ページでは、セキュア メッセージング設定はオプションです。Cisco Unified Personal Communicator と Cisco Unified Presence の間でセキュア ボイス メッセージングを実現するには、次の表の説明に従って、使用するボイスメール サーバタイプに応じたタスクを実行する必要があります。

セキュア メッセージングに使用するサーバタイプ	プロセス
Cisco Unity	<p>a. (必須) 1 つまたは複数の Cisco Unity サーバをプロビジョニングします。</p> <p>b. (必須) Cisco Unity サーバと加入者のメールボックスが配置されているメール サーバ間にアソシエーションを設定します。</p> <p>c. (必須) ボイスメール プロファイルを設定し、ユーザを追加して、該当する Cisco Unity サーバとメールストア サーバにプロファイルを関連付けます。</p> <p>(注) プライマリ メールストアを選択する必要があります。プライマリ ボイスメール サーバも必要となります。</p>
Cisco Unity Connection	<p>a. (オプション) 1 つまたは複数の Cisco Unity Connection サーバをプロビジョニングします。</p> <p>b. (必須) Cisco Unity Connection サーバと加入者のメールボックスが配置されているメール サーバ間にアソシエーションを設定します。</p> <p>c. (必須) ボイスメール プロファイルを設定し、ユーザを追加し、該当する Cisco Unity Connection サーバとメールストア サーバにプロファイルを関連付けます。</p> <p>(注) プライマリ メールストアを選択する必要があります。オプションで、プライマリ ボイスメール サーバを選択します。</p>

トラブルシューティングのヒント

ボイスメール (IMAP) アクセスには、ポート 7993 で TLS を使用します。

関連項目

- 「[Cisco Unified Presence でのメールストアの設定方法](#)」 (P.21-5)
- 「[Cisco Unified Presence でのボイスメール プロファイルの設定方法](#)」 (P.21-8)

Cisco Unified Presence でのボイスメール サーバの設定方法

- 「[ボイスメール サーバの設定](#)」 (P.21-3)
- 「[ボイスメール サーバの検索](#)」 (P.21-4)
- 「[ボイスメール サーバの削除](#)」 (P.21-4)

ボイスメール サーバの設定

始める前に

セキュア ボイス メッセージングとそれを実現するためのプロセスを設定する必要があるかどうかを判断します。Cisco Unity Connection でのセキュア ボイス メッセージングの場合、ボイスメール サーバ設定はオプションになります。「[Cisco Unified Personal Communicator と Cisco Unified Presence 間のセキュア ボイス メッセージングについて](#)」(P.21-1) を参照してください。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
ボイスメール ホストを追加する	<p>a. [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [ボイスメール サーバ (Voicemail Server)] の順に選択します。</p> <p>b. [新規追加 (Add New)] をクリックします。</p>
ボイスメール ホストを更新する	<p>a. 「ボイスメール サーバの検索」(P.21-4) の説明に従ってレコードを検索します。</p> <p>b. 必要に応じてレコードを編集します。</p>

ステップ 2 表 21-1 の説明に従ってボイスメール サーバの設定値を入力します。

表 21-1 ボイスメール サーバの設定パラメータ

フィールド	説明
サーバ タイプ (Server Type)	<p>使用するボイスメール サーバを指定します。次のボイスメール サーバのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unity • Cisco Unity Connection
名前 (Name)	<p>ボイスメール ホストの名前を指定します。</p> <p>最大文字数 : 128</p>
説明 (Description)	ボイスメール サーバの一般的な説明を指定します。
ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)	ボイスメール サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
Web サービス ポート (Web Service Port)	<p>ボイスメール サーバに対して設定されるポート番号を指定します。</p> <p>デフォルト : 443</p>
Web サービス プロトコル (Web Service Protocol)	<p>ボイスメール サーバに接続する場合に使用するプロトコルを指定します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HTTP • HTTPS <p>デフォルト : なし。Cisco Unity と Cisco Unity Connection では、[HTTPS] を選択します。</p>

- ステップ 3** データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。
- ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
 - ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

ボイスメール サーバの検索

ネットワークに複数のボイスメール サーバが存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のボイスメール サーバを検索できます。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [ボイスメール サーバ (Voicemail Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」\(P.1-7\)](#)

ボイスメール サーバの削除

手順

- ステップ 1** ボイスメール サーバを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するサーバを選択します。

ステップ 3 サーバを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<p>a. 該当するレコードをオンにします。</p> <p>b. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<p>a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。</p> <p>b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。</p>

トラブルシューティングのヒント

ボイスメール サーバが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

関連項目

[「ボイスメール サーバの検索」 \(P.21-4\)](#)

Cisco Unified Presence でのメールストアの設定方法

- [「メールストアの設定」 \(P.21-5\)](#)
- [「メールストアの検索」 \(P.21-7\)](#)
- [「メールストアの削除」 \(P.21-7\)](#)

メールストアの設定

後からボイスメール プロファイルに追加できるメールストア サーバを設定します。設定したメールストアをボイスメール プロファイルに属しているユーザーに関連付けることができます。

始める前に

- セキュア ボイス メッセージングとそれを実現するためのプロセスを設定する必要があるかどうかを判断します。Cisco Unity でボイスメール アクセスに対応するためにメールストア設定が必要となります。プライマリ ボイスメール サーバが Cisco Unity Connection の場合、メールストア サーバを設定する必要はありません。[「Cisco Unified Personal Communicator と Cisco Unified Presence 間のセキュア ボイス メッセージングについて」 \(P.21-1\)](#) を参照してください。
- メールストア サーバでボイスメール (IMAP) アクセスを有効にします。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
メールストアを追加する	<p>a. [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [メールストア (Mailstore)] の順に選択します。</p> <p>b. [新規追加 (Add New)] をクリックします。</p>
メールストアを更新する	<p>a. 「メールストアの検索」(P.21-7) の説明に従ってレコードを検索します。</p> <p>b. 必要に応じてレコードを編集します。</p>

ステップ 2 表 21-2 の説明に従って Cisco Unified Personal Communicator メールストアの設定値を入力します。

表 21-2 Cisco Unified Personal Communicator メールストアの設定パラメータ

フィールド	説明
名前 (Name)	メールストア サーバの名前を指定します。
説明 (Description)	メールストア サーバの一般的な説明を指定します。
ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)	メールストア サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート (Port)	<p>メールストア サーバに対して設定されるポート番号を指定します。</p> <p>デフォルト設定 : 143</p> <p>(注) Cisco Unity Connection でのセキュア ボイス メッセージングの場合は、TLS とポート 7993 を使用してください。</p>
プロトコル タイプ (Protocol Type)	<p>メールストア サーバに接続する場合に使用するプロトコルを指定します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCP • SSL • TLS • UDP <p>デフォルト設定 : TCP</p> <p>(注) Cisco Unity Connection でのセキュア ボイス メッセージングの場合は、TLS とポート 7993 を使用してください。</p>

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

メールストアの検索

ネットワークにメールストアが複数存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のメールストアを検索できます。特定のメールストア サーバを検索するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [メールストア (Mailstore)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコード リストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

メールストアの削除

手順

-
- ステップ 1** メールストアを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するメールストアを選択します。

ステップ 3 メールストアを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<p>a. 該当するレコードをオンにします。</p> <p>b. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<p>a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。</p> <p>b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。</p>

トラブルシューティングのヒント

メールストアが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

関連項目

[「メールストアの検索」 \(P.21-7\)](#)

Cisco Unified Presence でのボイスメール プロファイルの設定方法

- [「ボイスメール プロファイルの設定」 \(P.21-8\)](#)
- [「ボイスメール プロファイルの検索」 \(P.21-11\)](#)
- [「ボイスメール プロファイルの削除」 \(P.21-12\)](#)

ボイスメール プロファイルの設定

設定した各ボイスメール プロファイルを 1 つのプライマリ ボイスメール サーバと 2 つのバックアップサーバに関連付けることができます。必要に応じて、ボイスメール サーバごとにユーザを区分できます。

始める前に

セキュア ボイス メッセージングとそれを実現するためのプロセスを設定する必要があるかどうかを判断します。[「Cisco Unified Personal Communicator と Cisco Unified Presence 間のセキュア ボイス メッセージングについて」 \(P.21-1\)](#) を参照してください。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
ボイスメール プロファイルを追加する	<p>a. [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [ボイスメール プロファイル (Voicemail Profile)] の順に選択します。</p> <p>b. [新規追加 (Add New)] をクリックします。</p>
ボイスメール ホストを更新する	<p>a. 「ボイスメール プロファイルの検索」 (P.21-11) の説明に従ってレコードを検索します。</p> <p>b. 必要に応じてレコードを編集します。</p>

ステップ 2 表 21-3 の説明に従ってボイスメール プロファイルの設定値を入力します。

表 21-3 ボイスメール プロファイルの設定パラメータ

フィールド	説明
名前 (Name)	ボイスメール プロファイルの名前を指定します。 最大文字数 : 128
説明 (Description)	ボイスメール プロファイルの一般的な説明を指定します。 最大文字数 : 128
ボイス メッセージング パイロット (Voice Messaging Pilot)	このボイスメール プロファイルに関連付けられているボイス メッセージング パイロットを指定します。リスト ボックスから [ボイスメール なし (No Voice Mail)] を選択することもできます。
プライマリ ボイスメール サーバ (Primary Voicemail Server)	<p>プライマリ ボイスメール サーバを指定します。リスト ボックスにある定義済みのボイスメール サーバの中から選択できます。</p> <p> (注) プライマリ ボイスメール サーバが Cisco Unity の場合は、プライマリ ボイスメール サーバとプライマリ メールストアを設定する必要があります。プライマリ ボイスメール サーバが Cisco Unity Connection の場合、プライマリ ボイスメール サーバを設定する必要はありませんが、プライマリ メールストア サーバを選択する必要があります。</p>
バックアップ ボイスメール サーバ (Backup Voicemail Server)	バックアップ ボイスメール サーバを指定します。リスト ボックスにある定義済みのボイスメール サーバの中から選択できます。バックアップ ボイスメール サーバは 2 つ指定できます。

表 21-3 ボイスメール プロファイルの設定パラメータ (続き)

フィールド	説明
プライマリ メールストア (Primary Mailstore)	<p>プライマリ メールストア サーバを指定します。リスト ボックスにある定義済みのメールストア サーバの中から選択できます。</p> <p> (注) [プライマリ メールストア (Primary Mailstore)] データ フィールドと [バックアップ メールストア (Backup Mailstore)] データ フィールドが有効になるのは、Cisco Unity サーバがプライマリ ボイスメール サーバとして選択されている場合だけです。Cisco Unity Connection サーバがプライマリ ボイスメール サーバとして選択されている場合は、メールストア フィールドが非アクティブになります。</p>
バックアップ メールストア (Backup Mailstore)	<p>バックアップ メールストア サーバを指定します。リスト ボックスにある定義済みのメールストア サーバの中から選択できます。バックアップ メールストア サーバは 2 つ指定できます。</p> <p> (注) [プライマリ メールストア (Primary Mailstore)] データ フィールドと [バックアップ メールストア (Backup Mailstore)] データ フィールドが有効になるのは、Cisco Unity サーバがプライマリ ボイスメール サーバとして選択されている場合だけです。Cisco Unity Connection サーバがプライマリ ボイスメール サーバとして選択されている場合は、メールストア フィールドが非アクティブになります。</p>
これをシステムのデフォルト ボイスメール プロファイルに設定します (Make this the default Voicemail Profile for the system)	<p>このプロファイルをシステムのデフォルト プロファイルにする場合にオンにします。</p> <p> (注) システムのデフォルト プロファイルにすることを選択した場合は、Cisco Unified Communications Manager から Cisco Unified Presence に同期化されたユーザがすべてこのデフォルト プロファイルに自動的に追加されます。このデフォルト プロファイルに追加されるのは、デフォルト プロファイルの選択 (および Sync Agent のアクティブ化) が終了した後で同期化されたユーザだけです。すでに Cisco Unified Presence に存在するユーザのプロファイル設定は変更されません。このため、デフォルト プロファイルの選択と設定が終了するまで Sync Agent をアクティブ化しないことを推奨します。</p>

- ステップ 3** ユーザをボイスメール プロファイルに関連付けるには、[プロファイルにユーザを追加 (Add Users to Profile)] をクリックします。
- ステップ 4** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 6](#) に進みます。
- ステップ 5** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。

- ステップ 6** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 7** 表示されるレコードのリストから、次の操作を実行します。
- a. ボイスメール プロファイルに追加するユーザを選択します。
 - b. [すべてを選択 (Select All)] をクリックします。
- ステップ 8** [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックして、ボイスメール プロファイルにユーザを追加します。
- ステップ 9** [閉じる (Close)] をクリックして、[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウを終了します。
- ステップ 10** データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。
- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
 - b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

ボイスメール プロファイルの検索

ネットワークに複数のボイスメール プロファイルが存在する場合があります。Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のボイスメール プロファイルを検索できます。特定のボイスメール プロファイルを検索するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [ボイスメール プロファイル (Voicemail Profile)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#)に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコード リストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

ボイスメール プロファイルの削除

手順

- ステップ 1** ボイスメール プロファイルを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するボイスメール プロファイルを選択します。
- ステップ 3** ボイスメール プロファイルを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<p>a. 該当するレコードをオンにします。</p> <p>b. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">• ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。• ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<p>a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。</p> <p>b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。</p>

トラブルシューティングのヒント

ボイスメール プロファイルが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

関連項目

[「ボイスメール プロファイルの削除」 \(P.21-12\)](#)



CHAPTER 22

Cisco Unified Presence の管理ページでの 会議サーバおよびプロファイルの設定

- 「Cisco Unified Presence での会議サーバの設定方法」(P.22-1)
- 「Cisco Unified Presence での会議プロファイルの設定方法」(P.22-5)

Cisco Unified Presence での会議サーバの設定方法

- 「会議サーバの設定」(P.22-1)
- 「会議サーバの検索」(P.22-4)
- 「会議サーバの削除」(P.22-5)

会議サーバの設定

Cisco Unified Personal Communicator と統合するために、Cisco Unified Presence で 1 つまたは複数の会議サーバをプロビジョニングできます。次に、これらのサーバを会議プロファイルに追加して、Cisco MeetingPlace や Cisco WebEx などの会議サーバごとにユーザを区分できるようにします。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
会議サーバを追加する	a. [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [会議サーバ (Conferencing Server)] の順に選択します。 b. [新規追加 (Add New)] をクリックします。
会議サーバを更新する	a. 「 会議サーバの検索 」(P.22-4) の説明に従ってレコードを検索します。 b. 必要に応じてレコードを編集します。

ステップ 2 表 22-1 の説明に従って会議サーバの設定値を入力します。

表 22-1 会議サーバの設定パラメータ

フィールド	説明
名前 (Name)	会議サーバの名前を指定します。 最大文字数：128
説明 (Description)	会議サーバの一般的な説明を指定します。 最大文字数：128
ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)	会議サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート (Port)	会議サーバに対して設定されるポート番号を指定します。 デフォルト：80
プロトコル (Protocol)	会議サーバと接続する場合に使用するプロトコルを指定します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • HTTP • HTTPS デフォルト：HTTP
サーバタイプ (Server Type)	統合する会議サーバを指定します。次のいずれかのタイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • MeetingPlace Classic • MeetingPlace Express • WebEx デフォルト：MeetingPlace Classic
	 <p>(注) 既存の Cisco Unified Presence サーバをアップグレードすると、デフォルトでドロップダウン リストに [未定義 (Undefined)] と表示されることがあります。ドロップダウン リストから既知の会議サーバタイプのいずれかを選択してください。会議サーバを [未定義 (Undefined)] のままにしておくと、Cisco Unified Personal Communicator の会議パフォーマンスが低下することがあります。</p>

表 22-1 会議サーバの設定パラメータ (続き)

フィールド	説明
サイト ID (Site ID)	<p>Cisco Webex サイトに割り当てられている ID 番号を入力します。Cisco Webex 製品を展開すると、Cisco Webex からお客様のサイトの ID 番号が割り当てられます。サイトの ID 番号が割り当てられない場合は、Cisco Webex の管理者に問い合せてください。</p> <p>最大文字数 : 128</p>  <p>(注) [サイト ID (Site ID)] フィールドが表示されるのは、Cisco WebEx をサーバタイプとして選択した場合だけです。</p>
パートナー ID (Partner ID)	<p>Cisco Webex サイトに割り当てられている Partner ID (PID; パートナー ID) 値を入力します。Cisco Webex サイトで Cisco Webex Application Programming Interface (API; アプリケーションプログラミング インターフェイス) を有効にすると、Cisco Webex から PID が割り当てられます。PID が割り当てられない場合は、Cisco Webex の管理者に問い合せてください。</p> <p>最大文字数 : 128</p>  <p>(注) [パートナー ID (Partner ID)] フィールドが表示されるのは、Cisco WebEx をサーバタイプとして選択した場合だけです。</p>

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- Cisco Unified Presence のシステム トラブルシュータには、会議統合の問題とその解決策が詳細に示されています。[診断 (Diagnostics)] > [システム トラブルシュータ (System Troubleshooter)] の順に選択します。
- また、システム ダッシュボードを使用すると、Cisco Unified Personal Communicator との予定表連携統合の問題を確認することもできます。[診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] の順に選択します。

関連項目

『Deployment Guide for Cisco Unified Presence』

会議サーバの検索

ネットワークに複数の会議サーバが存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の会議サーバを検索できます。特定の会議サーバを検索するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [会議サーバ (Conferencing Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

会議サーバの削除

手順

- ステップ 1** 会議サーバを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するサーバを選択します。
- ステップ 3** サーバを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<p>a. 該当するレコードをオンにします。</p> <p>b. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<p>a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。</p> <p>b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。</p>

トラブルシューティングのヒント

会議サーバが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

関連項目

[「会議サーバの検索」 \(P.22-4\)](#)

Cisco Unified Presence での会議プロフィールの設定方法

- [「会議プロフィールの設定」 \(P.22-5\)](#)
- [「会議プロフィールの検索」 \(P.22-7\)](#)
- [「会議プロフィールの削除」 \(P.22-8\)](#)

会議プロフィールの設定

会議プロフィール設定では、サーバ、スタンバイ サーバ、プロフィールに関連付けられているユーザなど、1 つまたは複数の会議サーバに関連した設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のプロフィールを検索し、個々の設定値を変更できます。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
会議プロフィールを追加する	<p>a. [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [会議プロフィール (Conferencing Profile)] の順に選択します。</p> <p>b. [新規追加 (Add New)] をクリックします。</p>
会議プロフィールを更新する	<p>a. 「会議プロフィールの検索」 (P.22-7) の説明に従ってレコードを検索します。</p> <p>b. 必要に応じてレコードを編集します。</p>

ステップ 2 [表 22-2](#) の説明に従って会議プロフィールの設定値を入力します。

表 22-2 会議プロフィールの設定パラメータ

フィールド	説明
名前 (Name)	<p>会議プロフィールの名前を指定します。</p> <p>最大文字数：128</p>
説明 (Description)	<p>会議プロフィールの一般的な説明を指定します。</p> <p>最大文字数：128</p>
プライマリ会議サーバ (Primary Conferencing Server)	<p>プライマリ会議サーバを指定します。リスト ボックスにある定義済みの会議サーバの中から選択できます。</p>
バックアップ会議サーバ (Backup Conferencing Server)	<p>バックアップ会議サーバを指定します。リスト ボックスにある定義済みの会議サーバの中から選択できます。バックアップ会議サーバは 2 つ指定できます。</p>
これをシステムのデフォルト会議プロフィールに設定します (Make this the default Conferencing Profile for the system)	<p>このプロフィールをシステムのデフォルト プロファイルにする場合にオンにします。</p> <p> (注) システムのデフォルト プロファイルにすることを選択した場合は、Cisco Unified Communications Manager から Cisco Unified Presence に同期化されたユーザがすべてこのデフォルト プロファイルに自動的に追加されます。このデフォルト プロファイルに追加されるのは、デフォルト プロファイルの選択 (および Sync Agent のアクティブ化) が終了した後で同期化されたユーザだけです。すでに Cisco Unified Presence に存在するユーザのプロファイル設定は変更されません。このため、デフォルト プロファイルの選択と設定が終了するまで Sync Agent をアクティブ化しないことを推奨します。</p>

ステップ 3 ユーザを会議プロフィールに関連付けるには、[プロフィールにユーザを追加 (Add Users to Profile)] をクリックします。

ステップ 4 データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 6](#) に進みます。

- ステップ 5** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 6** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 7** 表示されるレコードのリストから、次の操作を実行します。
- a. 会議プロフィールに追加するユーザを選択します。
 - b. [すべてを選択 (Select All)] をクリックします。
- ステップ 8** [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックして、会議プロフィールにユーザを追加します。
- ステップ 9** [閉じる (Close)] をクリックして、[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウを終了します。
- ステップ 10** データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。
- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
 - b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

会議プロフィールの検索

ネットワークに複数の会議プロフィールが存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の会議プロフィールを検索できます。特定の会議プロフィールを検索するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [会議プロフィール (Conferencing Profile)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコード リストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

会議プロフィールの削除

手順

- ステップ 1** 会議プロフィールを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するプロフィールを選択します。
- ステップ 3** 会議プロフィールを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<p>a. 該当するレコードをオンにします。</p> <p>b. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<p>a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。</p> <p>b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。</p>

トラブルシューティングのヒント

会議プロフィールが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

関連項目

[「会議プロフィールの検索」 \(P.22-7\)](#)



CHAPTER 23

Cisco Unified Presence の管理ページでの Cisco Unified Personal Communicator CTI ゲートウェイの設定値の設定

- 「CTI ゲートウェイの設定方法」 (P.23-1)
- 「CTI ゲートウェイ プロファイルの設定方法」 (P.23-4)

CTI ゲートウェイの設定方法

- 「CTI ゲートウェイ サーバの設定」 (P.23-1)
- 「CTI ゲートウェイ サーバの検索」 (P.23-2)
- 「CTI ゲートウェイ サーバの削除」 (P.23-3)

CTI ゲートウェイ サーバの設定

1 つまたは複数の CTI ゲートウェイ サーバをプロビジョニングできます。次に、これらのサーバを CTI ゲートウェイ プロファイルに追加して、CTI ゲートウェイ サーバごとにユーザを区分できるようにします。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
CTI ゲートウェイを追加する	a. [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイ サーバ (CTI Gateway Server)] の順に選択します。 b. [新規追加 (Add New)] をクリックします。
CTI ゲートウェイを更新する	a. 「CTI ゲートウェイ サーバの検索」 (P.23-2) の説明に従ってレコードを検索します。 b. 必要に応じてレコードを編集します。

ステップ 2 表 23-1 の説明に従って CTI ゲートウェイの設定値を入力します。

表 23-1 CTI ゲートウェイ サーバの設定パラメータ

フィールド	説明
名前 (Name)	CTI ゲートウェイ サーバの名前を指定します。
説明 (Description)	CTI ゲートウェイ サーバの一般的な説明を指定します。
ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)	CTI ゲートウェイ サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート (Port)	CTI ゲートウェイ サーバに対して設定されるポート番号を指定します。 デフォルト : 2748
プロトコル タイプ (Protocol Type)	CTI ゲートウェイ サーバと接続する場合に使用するプロトコルを指定します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • TCP • TLS デフォルト : TCP

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

CTI ゲートウェイ サーバの検索

ネットワークに CTI ゲートウェイ サーバが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の CTI ゲートウェイ サーバを検索できます。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイ サーバ (CTI Gateway Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#)に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

CTI ゲートウェイ サーバの削除

手順

- ステップ 1** CTI ゲートウェイ サーバを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するサーバを選択します。
- ステップ 3** サーバを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<ol style="list-style-type: none"> a. 該当するレコードをオンにします。 b. 次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<ol style="list-style-type: none"> a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。 b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

CTI ゲートウェイ サーバが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

関連項目

[「CTI ゲートウェイ プロファイルの検索」 \(P.23-6\)](#)

CTI ゲートウェイ プロファイルの設定方法

- 「CTI ゲートウェイ プロファイルの設定」 (P.23-4)
- 「CTI ゲートウェイ プロファイルの検索」 (P.23-6)
- 「CTI ゲートウェイ プロファイルの削除」 (P.23-7)

CTI ゲートウェイ プロファイルの設定

Cisco Unified Presence では、Cisco Unified Personal Communicator 用の CTI ゲートウェイ プロファイルを設定し、1 人または複数のユーザをこのプロファイルに追加できます。1 つのプライマリ CTI ゲートウェイ サーバと 2 つのバックアップ サーバを各プロファイルに含めることができます。



(注)

Cisco Unified Personal Communicator 用の CTI ゲートウェイ プロファイルは、Cisco Unified Communications Manager に定義されたプレゼンス グループに基づいて自動的に生成されます。デバイス、ディレクトリ、番号、およびユーザを 1 つのプレゼンス グループに割り当てることができます。デフォルトでは、すべてのユーザが標準プレゼンス グループに割り当てられます。Cisco Unified Communications Manager のプレゼンス グループの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
CTI ゲートウェイ プロファイルを追加する	<p>a. [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイ プロファイル (CTI Gateway Profile)] の順に選択します。</p> <p>b. [新規追加 (Add New)] をクリックします。</p>
CTI ゲートウェイ プロファイルを更新する	<p>a. 「CTI ゲートウェイ プロファイルの検索」 (P.23-6) の説明に従ってレコードを検索します。</p> <p>b. 必要に応じてレコードを編集します。</p>

ステップ 2 表 23-2 の説明に従って CTI ゲートウェイ プロファイルの設定値を入力します。

表 23-2 CTI ゲートウェイ プロファイルの設定パラメータ

フィールド	説明
名前 (Name)	CTI ゲートウェイ プロファイルの名前を指定します。
説明 (Description)	CTI ゲートウェイ プロファイルの一般的な説明を指定します。
プライマリ CTI ゲートウェイ サーバ (Primary CTI Gateway Server)	プライマリ CTI ゲートウェイ サーバを指定します。リストボックスにある定義済みの CTI ゲートウェイ サーバの中から選択できます。

表 23-2 CTI ゲートウェイ プロファイルの設定パラメータ (続き)

フィールド	説明
バックアップ CTI ゲートウェイ サーバ (Backup CTI Gateway Server)	バックアップ CTI ゲートウェイ サーバを指定します。リスト ボックスにある定義済みの CTI ゲートウェイ サーバの中から選択できます。バックアップ CTI ゲートウェイ サーバは 2 つ指定できます。
これをシステムのデフォルト CTI ゲートウェイ プロファイルに設定します (Make this the default CTI Gateway Profile for the system)	 <p>(注) システムのデフォルト プロファイルにすることを選択した場合は、Cisco Unified Communications Manager から Cisco Unified Presence に同期化されたユーザがすべてこのデフォルト プロファイルに自動的に追加されます。このデフォルト プロファイルに追加されるのは、デフォルト プロファイルの選択 (および Sync Agent のアクティブ化) が終了した後で同期化されたユーザだけです。すでに Cisco Unified Presence に存在するユーザのプロファイル設定は変更されません。このため、デフォルト プロファイルの選択と設定が終了するまで Sync Agent をアクティブ化しないことを推奨します。</p>

- ステップ 3** ユーザを CTI ゲートウェイ プロファイルに関連付けるには、[プロファイルにユーザを追加 (Add Users to Profile)] をクリックします。
- ステップ 4** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、**ステップ 6** に進みます。
- ステップ 5** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 6** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 7** 表示されるレコードのリストから、次の操作を実行します。
- a. CTI ゲートウェイ プロファイルに追加するユーザを選択します。
 - b. [すべてを選択 (Select All)] をクリックします。
- ステップ 8** [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックして、CTI ゲートウェイ プロファイルにユーザを追加します。
- ステップ 9** [閉じる (Close)] をクリックして、[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウを終了します。
- ステップ 10** データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。
- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
 - b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

CTI ゲートウェイ プロファイルの検索

ネットワークに CTI ゲートウェイ プロファイルが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の CTI ゲートウェイ プロファイルを検索できます。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイ プロファイル (CTI Gateway Profile)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

CTI ゲートウェイ プロファイルの削除

手順

- ステップ 1** CTI ゲートウェイ プロファイルを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する CTI ゲートウェイ プロファイルを選択します。
- ステップ 3** CTI ゲートウェイ プロファイルを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<p>a. 該当するレコードをオンにします。</p> <p>b. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">• ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。• ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<p>a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。</p> <p>b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。</p>

トラブルシューティングのヒント

CTI ゲートウェイ プロファイルが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されません。

関連項目

[「CTI ゲートウェイ プロファイルの検索」 \(P.23-6\)](#)



CHAPTER 24

Cisco Unified Presence の管理ページでの LDAP サーバおよびプロファイルの設定

- 「Cisco Unified Presence での LDAP サーバの設定方法」(P.24-1)
- 「Cisco Unified Presence での LDAP プロファイルの設定方法」(P.24-4)

Cisco Unified Presence での LDAP サーバの設定方法

- 「LDAP サーバの設定」(P.24-1)
- 「LDAP プロファイルの検索」(P.24-6)
- 「LDAP サーバの削除」(P.24-3)

LDAP サーバの設定

LDAP インターフェイスは、Cisco Unified Personal Communicator ユーザのログイン時の LDAP 認証に使用されます。1 つまたは複数の LDAP サーバをプロビジョニングできます。次に、これらのサーバを LDAP プロファイルに追加して、LDAP サーバごとにユーザを区分できるようにします。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
LDAP サーバを追加する	a. [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [LDAP サーバ (LDAP Server)] の順に選択します。 b. [新規追加 (Add New)] をクリックします。
LDAP サーバを更新する	a. 「LDAP プロファイルの検索」(P.24-6) の説明に従ってレコードを検索します。 b. 必要に応じてレコードを編集します。

ステップ 2 表 24-1 の説明に従って LDAP の設定値を入力します。

表 24-1 LDAP サーバの設定パラメータ

フィールド	説明
名前 (Name)	LDAP サーバの名前を指定します。
説明 (Description)	LDAP サーバの一般的な説明を指定します。
ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)	LDAP サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート (Port)	LDAP サーバに対して設定されるポート番号を指定します。 デフォルトのポート番号 : 389
プロトコル タイプ (Protocol Type)	LDAP サーバと接続する場合に使用するプロトコルを指定します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • TCP • UDP • TLS デフォルト : TCP

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

LDAP サーバの検索

ネットワークに複数の LDAP サーバが存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の LDAP サーバを検索できます。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [LDAP サーバ (LDAP Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

LDAP サーバの削除

手順

ステップ 1 LDAP サーバを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除する LDAP サーバを選択します。

ステップ 3 サーバを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<ol style="list-style-type: none"> a. 該当するレコードをオンにします。 b. 次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<ol style="list-style-type: none"> a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。 b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

LDAP サーバが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

関連項目

[「LDAP プロファイルの検索」 \(P.24-6\)](#)

Cisco Unified Presence での LDAP プロファイルの設定方法

- 「LDAP プロファイルの設定」 (P.24-4)
- 「LDAP プロファイルの検索」 (P.24-6)
- 「LDAP プロファイルの削除」 (P.24-7)

LDAP プロファイルの設定

LDAP プロファイルをプロビジョニングできます。1 つのプライマリ LDAP サーバと 2 つのバックアップサーバを各プロファイルに含めることができます。また、1 人または複数のユーザをこのプロファイルに追加することもできます。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
LDAP プロファイルを追加する	<ol style="list-style-type: none"> [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [LDAP プロファイル (LDAP Profile)] の順に選択します。 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
LDAP プロファイルを更新する	<ol style="list-style-type: none"> 「LDAP プロファイルの検索」 (P.24-6) の説明に従ってレコードを検索します。 必要に応じてレコードを編集します。

ステップ 2 表 24-2 の説明に従って LDAP プロファイルの設定値を入力します。

表 24-2 LDAP プロファイルの設定パラメータ

フィールド	説明
LDAP プロファイル情報	
名前 (Name)	LDAP プロファイルの名前を指定します。 最大文字数：128
説明 (Description)	LDAP プロファイルの一般的な説明を指定します。 最大文字数：128
バインド識別名 (Bind Distinguished Name (DN))	管理者レベルのアカウント情報を <code>useraccount@domain.com</code> の形式で指定します。これは、認証済みバインドに対する Distinguished Name (DN; 識別名) を表します。 最大文字数：128
	 <p>(注) [匿名バインド (Anonymous Bind)] をオンにすると、このフィールドが無効になります。</p>

表 24-2 LDAP プロファイルの設定パラメータ (続き)

フィールド	説明
パスワード (Password)	LDAP 管理者のユーザ名に対するパスワードを指定します。 最大文字数 : 128  (注) [匿名バインド (Anonymous Bind)] をオンにすると、このフィールドが無効になります。
パスワードの確認 (Confirm Password)	LDAP 管理者のユーザ名に対するパスワードを確認します。 最大文字数 : 128
[匿名バインド (Anonymous Bind)] チェックボックス	[匿名バインド (Anonymous Bind)] チェックボックスをオンにすると、ユーザはこの LDAP サーバに読み取り専用アクセスで匿名ログインできます。ユーザの信用証明書を使用してこの LDAP サーバにログインする場合は、[匿名バインド (Anonymous Bind)] チェックボックスをオフにします。
検索コンテキスト (Search Context)	すべての LDAP ユーザが存在する場所をコンテナまたはディレクトリで指定します。 最大文字数 : 128
[再帰検索 (Recursive Search)] チェックボックス	検索ベースで始まるディレクトリの再帰検索を実行する場合は、[再帰検索 (Recursive Search)] チェックボックスをオンにします。
プライマリ LDAP サーバ (Primary LDAP Server)	プライマリ LDAP サーバを指定します。リストボックスにある定義済みの LDAP サーバの中から選択できます。
バックアップ LDAP サーバ (Backup LDAP Server)	バックアップ LDAP サーバを指定します。リストボックスにある定義済みの LDAP サーバの中から選択できます。バックアップ LDAP サーバは 2 つ指定できます。
これをシステムのデフォルト LDAP プロファイルに設定します (Make this the default LDAP Profile for the system)	このプロファイルをシステムのデフォルト プロファイルにする場合にオンにします。  (注) システムのデフォルト プロファイルにすることを選択した場合は、Cisco Unified Communications Manager から Cisco Unified Presence に同期化されたユーザがすべてこのデフォルト プロファイルに自動的に追加されます。このデフォルト プロファイルに追加されるのは、デフォルト プロファイルの選択 (および Sync Agent のアクティブ化) が終了した後で同期化されたユーザだけです。すでに Cisco Unified Presence に存在するユーザのプロファイル設定は変更されません。このため、デフォルト プロファイルの選択と設定が終了するまで Sync Agent をアクティブ化しないことを推奨します。

ステップ 3 ユーザを LDAP プロファイルに関連付けるには、[プロファイルにユーザを追加 (Add Users to Profile)] をクリックします。

ステップ 4 データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 6](#)に進みます。

ステップ 5 レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。

- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。

- 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 6** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 7** 表示されるレコードのリストから、次の操作を実行します。
- a. LDAP プロファイルに追加するユーザを選択します。
 - b. [すべてを選択 (Select All)] をクリックします。
- ステップ 8** [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックして、LDAP プロファイルにユーザを追加します。
- ステップ 9** [閉じる (Close)] をクリックして、[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウを終了します。
- ステップ 10** データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。
- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
 - b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

LDAP プロファイルの検索

ネットワークに複数の LDAP プロファイルが存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の LDAP プロファイルを検索できます。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [LDAP プロファイル (LDAP Profile)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

LDAP プロファイルの削除

手順

- ステップ 1** LDAP プロファイルを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する LDAP プロファイルを選択します。
- ステップ 3** LDAP プロファイルを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<p>a. 該当するレコードをオンにします。</p> <p>b. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<p>a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。</p> <p>b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。</p>

トラブルシューティングのヒント

LDAP プロファイルが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

関連項目

[「LDAP プロファイルの検索」 \(P.24-6\)](#)



CHAPTER 25

Cisco Unified Presence の管理ページでの IP Phone Messenger のステータス、設定値、および応答メッセージの設定

Cisco Unified Presence に組み込まれている Cisco IP Phone Messenger (IPPM) サービスは、プレゼンス対応の連絡先リストを、Cisco Unified IP Phone 上の Instant Messaging (IM; インスタントメッセージ) クライアントに提供します。Cisco Unified Presence にこの機能が統合されたことにより、電話機ユーザはコンピュータから離れた場所においても、他のユーザのプレゼンスステータスをすばやくチェックできます。リアルタイム コラボレーション機能と同様に、この機能を使用すると、ユーザは簡単なテキストメッセージを送受信できます。これらのメッセージの多くは、よく使用するフレーズと完全文のリストに事前に組み込まれています。ユーザは電話機のキーを押さなくても、これらのフレーズと文を選択できます。メッセージの受信者は、そのメッセージに直接応答するか、または [ダイヤル (Dial)] ソフトキーを押してコールバックできるため、電話番号を検索したりダイヤルしたりする必要がありません。

- 「Cisco Unified Presence での IPPM の管理方法」 (P.25-1)
- 「Cisco Unified Presence での IPPM の設定値の設定」 (P.25-3)
- 「Cisco Unified Presence での IP Phone 応答メッセージの設定方法」 (P.25-5)
- 「Cisco Unified Presence での会議通知の設定値の設定」 (P.25-7)

Cisco Unified Presence での IPPM の管理方法

- 「IPPM エンドユーザステータスの検索」 (P.25-1)
- 「IPPM エンドユーザのログアウト」 (P.25-2)
- 「ブロードキャストメッセージの送信」 (P.25-3)

IPPM エンドユーザステータスの検索

IPPM ステータスを使用すると、IPPM ユーザのログインステータスを表示できます。ネットワークに複数の IPPM ユーザが存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の IPPM ユーザを検索できます。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [IP Phone Messenger] > [ステータス (Status)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#)に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

IPPM エンドユーザのログアウト

1 人または複数のユーザを IPPM サービスから強制的にログアウトさせることができます。

手順

- ステップ 1** IPPM エンドユーザを検索します。
- ステップ 2** 次のいずれかの操作を実行します。
- a. ログアウトさせるエンドユーザを選択します。
 - b. [すべてを選択 (Select All)] をクリックします。
- ステップ 3** [ログアウト (Logout)] をクリックします。
- ステップ 4** ユーザをログアウトさせるかどうかを確認するプロンプトが表示されたら、次のいずれかの操作を実行します。
- a. ユーザをログアウトさせる場合は、[OK] をクリックします。
 - b. ユーザをログアウトさせずに終了する場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

関連項目

[「IPPM エンドユーザ ステータスの検索」 \(P.25-1\)](#)

ブロードキャスト メッセージの送信

1 人または複数の IPPM エンドユーザにブロードキャスト メッセージを送信できます。

手順

-
- ステップ 1** IPPM エンドユーザを検索します。
 - ステップ 2** 次のいずれかの操作を実行します。
 - a. ブロードキャスト メッセージの送信先とするエンドユーザを選択します。
 - b. [すべてを選択 (Select All)] をクリックします。
 - ステップ 3** [メッセージ (Message)] ボックスにブロードキャスト メッセージのテキストを入力します。
 - ステップ 4** [ブロードキャスト (Broadcast)] をクリックします。
 - ステップ 5** ブロードキャスト メッセージを送信するかどうかを確認するプロンプトが表示されたら、次のいずれかの操作を実行します。
 - a. ブロードキャスト メッセージを送信する場合は、[OK] をクリックします。
 - b. ブロードキャスト メッセージを送信せずに終了する場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。
-

関連項目

[「IPPM エンドユーザ ステータスの検索」\(P.25-1\)](#)

Cisco Unified Presence での IPPM の設定値の設定

IPPM 設定では、IPPM ユーザに適用する設定値を設定したり、IPPM アプリケーションをグローバルに有効または無効にしたりすることができます。

始める前に

IPPM アプリケーションを設定する場合は、IPPM アプリケーションのユーザ名とパスワードが、Cisco Unified Communications Manager で設定済みのアプリケーションのユーザ名とパスワードと一致している必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [IP Phone Messenger] > [設定 (Settings)] の順に選択します。
 - ステップ 2** [表 25-1](#) の説明に従って IPPM の設定値を入力します。

表 25-1 IPPM の設定値

フィールド	説明
IPPM アプリケーション ステータス (IPPM Application Status)	IPPM アプリケーションのオン/オフを切り替えます。
アプリケーション ユーザ名 (Application Username)	<p>デフォルトのアプリケーション ユーザ名を指定します。</p> <p> (注) ここで入力した値は、関連付けられた Cisco Unified Communications Manager クラスタでのアプリケーション ユーザ名と一致する必要があります。</p> <p>最大文字数 : 255</p>
アプリケーション パスワード (Application Password)	<p>デフォルトのアプリケーション パスワードを指定します。</p> <p> (注) ここで入力した値は、関連付けられた Cisco Unified Communications Manager クラスタでのアプリケーション パスワードと一致する必要があります。</p> <p>最大文字数 : 255</p>
最大インスタント メッセージ履歴サイズ (Max Instant Message History Size)	<p>Cisco Unified Presence にユーザごとに保存されるインスタントメッセージの最大数を指定します。</p> <p>範囲 : 1 ~ 1000 メッセージ</p> <p>デフォルト : 25 メッセージ</p>
サブスクリプションのタイムアウト (秒) (Subscription Timeout (seconds))	<p>該当するサブスクリプションのタイムアウト値、つまり該当するサブスクリプションの TTL (有効期間) の値を指定します。</p> <p>範囲 : 100 ~ 86400 秒</p> <p>デフォルト : 3600 秒</p>
パブリッシュのタイムアウト (秒) (Publish Timeout (seconds))	<p>該当するパブリッシュのタイムアウト値、つまり該当するパブリッシュの TTL (有効期間) の値を指定します。</p> <p>範囲 : 300 ~ 86400 秒</p> <p>デフォルト : 3600 秒</p>

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

また、システム ダッシュボードを使用すると、Cisco Unified Presence で有効になっている IPPM ユーザを表示することもできます。[診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] の順に選択します。

Cisco Unified Presence での IP Phone 応答メッセージの設定方法

- 「応答メッセージの設定」 (P.25-5)
- 「応答メッセージの検索」 (P.25-6)
- 「応答メッセージの削除」 (P.25-6)

応答メッセージの設定

事前に定義されている一連の応答メッセージを IPPM で表示するように設定できます。応答メッセージには、次のものがあります。

- 電話中、少々お待ちください。(On the phone, hold on)
- 電話中、後で電話ください。(On the phone, call later)
- 使用できません (Not available)
- はい (Yes)

これらの応答メッセージを使用すると、電話機ユーザは着信電話メッセージにすばやく応答できます。また、カスタム メッセージを事前に定義したり、電話機にメッセージが表示される順序の制御と変更を行ったりすることもできます。

始める前に

事前定義済みの応答メッセージは 10 件まで設定できます。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
応答メッセージを追加する	a. [アプリケーション (Application)] > [IP Phone Messenger] > [応答メッセージ (Response Messages)] の順に選択します。 b. [新規追加 (Add New)] をクリックします。
応答メッセージを更新する	[IPPM エンドユーザ ステータスの検索] (P.25-1) の説明に従ってレコードを検索します。

ステップ 2 メッセージのテキストを入力または変更します。

ステップ 3 表示順序を変更するメッセージの隣にある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

ステップ 4 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
- ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

応答メッセージの検索

ネットワークに IPPM 応答メッセージが複数存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の IPPM 応答メッセージを検索できます。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [IP Phone Messenger] > [応答メッセージ (Response Messages)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

応答メッセージの削除

手順

- ステップ 1** 応答メッセージを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する応答メッセージを選択します。

ステップ 3 応答メッセージを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<p>a. 該当するレコードをオンにします。</p> <p>b. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<p>a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。</p> <p>b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。</p>

関連項目

[「IPPM エンドユーザ ステータスの検索」 \(P.25-1\)](#)

Cisco Unified Presence での会議通知の設定値の設定

会議通知の設定値を使用して、会議通知機能を設定します。これにより、ユーザは IPPM に対応した Cisco Unified IP Phone で Microsoft Outlook 予定表から着信会議通知を受信できます。

会議通知には、会議の説明と開始時刻が記載されています。また、オプションで参加コールバック ボタンが含まれています。

始める前に

Cisco Unified Presence では、Cisco Unified MeetingPlace Express がサポートされていません。

手順

ステップ 1 [アプリケーション (Application)] > [会議通知 (Meeting Notification)] > [設定 (Settings)] の順に選択します。

ステップ 2 表 25-2 の説明に従って会議通知の設定値を入力します。

表 25-2 会議通知の設定値

フィールド	説明
MeetingPlace アドレス (MeetingPlace Address)	Cisco MeetingPlace サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
MeetingPlace ポート (MeetingPlace Port)	Cisco MeetingPlace のポート番号を入力します。 デフォルト : 80 (SSL 非対応) または 443 (SSL 対応)

表 25-2 会議通知の設定値 (続き)

フィールド	説明
信頼証明書件名 CN (Trust Certificate Subject CN)	Cisco MeetingPlace の件名 CN を入力します。
[SSL を使用 (Use SSL)] チェックボックス	<p>[SSL を使用 (Use SSL)] チェックボックスをオンにして、Cisco MeetingPlace との接続で Transport Layer Security (TLS; トランスポート レイヤ セキュリティ) を使用するように指定します。</p> <p>会議通知用のセキュリティ証明書の設定方法については、『<i>Deployment Guide for Cisco Unified Presence</i>』を参照してください。</p> <p>(注) SSL を有効にすると、[MeetingPlace 件名 CN (MeetingPlace Subject CN)] フィールドがアクティブになり、[MeetingPlace ポート (MeetingPlace Port)] フィールドがデフォルトで 443 に設定されます。SSL を無効にすると、[MeetingPlace 件名 CN (MeetingPlace Subject CN)] フィールドが非アクティブになり、[MeetingPlace ポート (MeetingPlace Port)] フィールドがデフォルトで 80 に設定されます。</p>

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。



CHAPTER 26

Cisco Unified Presence の管理ページでのプラグインの設定

- 「Cisco Unified Presence のプラグイン」 (P.26-1)
- 「Cisco Unified Presence へのプラグインのインストール」 (P.26-2)
- 「Cisco Unified Presence でのプラグイン URL の更新」 (P.26-2)

Cisco Unified Presence のプラグイン

表 26-1 では、Cisco Unified Presence で統合できるプラグインについて説明します。

表 26-1 Cisco Unified Presence のプラグイン

プラグイン名	説明
Cisco Unified Presence AXL SQL Toolkit	Cisco Unified Presence AXL SQL Toolkit は、SQL 文とその結果を送受信するための Java ベースのツールキットを含む zip ファイルです。このプラグインは Cisco Unified Communications Manager の AXL インターフェイスとの通信に使用されます。このプラグインには、クライアントシステムで実行するためのサンプル SQL ファイルと命令が含まれています。
Cisco Unified Presence Real-Time Monitoring Tool- Linux	Cisco Unified Presence Serviceability Real-Time Monitoring Tool (RTMT) は、Cisco Unified Presence クラスタ内のコンポーネントの動作をリアルタイムで監視するクライアントツールです。RTMT では、デバイス ステータス、システム パフォーマンス、デバイス検出、および CTI アプリケーションの監視に HTTP/HTTPS と TCP が使用されます。また、HTTP/HTTPS を使用してデバイスに直接接続し、システム上の問題のトラブルシューティングを実施します。 (注) Windows プラットフォームでダウンロードするには、[ダウンロード (Download)] ハイパーリンクを右クリックして、対象を保存するオプションを選択します。

関連項目

『Serviceability Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence』

Cisco Unified Presence へのプラグインのインストール

アプリケーション プラグインを使用すると、Cisco Unified Presence の機能が拡張され、さまざまなツールやユーティリティをダウンロードできるようになります。

始める前に

プラグインをインストールする前に、プラグインのインストール先となるサーバで実行されている、侵入検知やアンチウイルスなどのサービスをすべて無効にしてください。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [プラグイン (Plugins)] の順に選択します。
 - ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#)に進みます。
 - ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
 - ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
 - ステップ 5** [表 26-1](#) の説明に従って、インストールするプラグインの名前をクリックします。
 - ステップ 6** プラグインをダウンロードするには、[ダウンロード (Download)] ハイパーリンクをクリックします。
 - ステップ 7** インストール ウィザードの指示に従ってインストールを完了します。
-

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

Cisco Unified Presence でのプラグイン URL の更新

プラグインを Cisco Unified Presence にダウンロードすると、管理アプリケーションで [アプリケーション (Application)] メニューの作成に使用される URL を示すレコードがプラグイン テーブルに追加されます。Domain Name Server (DNS; ドメイン ネーム サーバ) は、インストール時に作成される URL のベースになります。DNS が変更されると、URL が更新されなくなります。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [プラグイン (Plugins)] の順に選択します。
 - ステップ 2** [「Cisco Unified Presence のプラグイン」 \(P.26-1\)](#) の [ステップ 1](#) ~ [ステップ 4](#) を実行します。
 - ステップ 3** 更新するプラグイン名に対応するハイパーリンクをクリックします。
 - ステップ 4** [カスタム URL (Custom URL)] フィールドに URL を入力します。
 - ステップ 5** [表 26-2](#) の説明に従って、必要な他の設定値を入力します。

表 26-2 プラグイン URL の設定値の更新

フィールド	説明
プラグイン名 (Plugin Name)	リスト ボックスから、URL の変更対象となるプラグイン名を選択します。
プラグイン タイプ (Plugin Type)	リスト ボックスから、URL の変更対象となるプラグイン タイプ (アプリケーションやインストールなど) を選択します。
URL	URL が自動的に表示されます。
カスタム URL (Custom URL)	カスタム URL に使用できるのは、英数字だけです。
プラグインをユーザ オプション ページに表示する (Show Plugin on User Option Pages)	オンにすると、[ユーザ オプション (User Option)] ウィンドウにプラグインが表示されます。

ステップ 6 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存(Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。



CHAPTER 27

Cisco Unified Presence の管理ページでのアプリケーション ユーザおよびエンドユーザの管理

- 「アプリケーション ユーザの管理方法」 (P.27-1)
- 「エンドユーザ情報のクエリーを実行する方法」 (P.27-7)

アプリケーション ユーザの管理方法

- 「アプリケーション ユーザの設定」 (P.27-1)
- 「アプリケーション ユーザの検索」 (P.27-4)
- 「ユーザ クレデンシャル」 (P.27-4)
- 「アプリケーション ユーザ パスワードの変更」 (P.27-5)
- 「ユーザ クレデンシャルの変更」 (P.27-5)

アプリケーション ユーザの設定

Cisco Unified Presence のアプリケーション ユーザに関する情報の検索、追加、変更、および保守を行うことができます。次に、ユーザ グループにアプリケーション ユーザを追加し、ユーザに特定の役割や権限を割り当てることができます。

手順

-
- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーション ユーザ (Application User)] の順に選択します。
 - ステップ 2** アプリケーション ユーザを検索します。
 - ステップ 3** [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 4 表 27-1 の説明に従ってアプリケーション ユーザの設定値を入力します。

表 27-1 アプリケーション ユーザの設定値

フィールド	説明
アプリケーション ユーザ情報	
ユーザ ID (User ID)	アプリケーション ユーザの識別名を入力します。使用できる特殊文字は、ダッシュ (-)、アンダースコア (_)、二重引用符 (")、および空白文字です。
パスワード (Password)	英数字または特殊文字を使用してアプリケーション ユーザのパスワードを入力します。割り当てられているクレデンシャル ポリシーに指定されている文字数以上を入力する必要があります。
パスワードの確認 (Confirm Password)	ユーザ パスワードを再入力します。
ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)	[ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)] は、Cisco Unified Communications Manager に接続しようとしている IP Phone に接続許可があるかどうかを確認するのに使用されます。ダイジェスト認証中に Cisco Unified Presence を UAS として動作させる場合は、このフィールドで指定した [ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)] がチャレンジに使用されます。英数字の文字列を入力します。
ダイジェスト信用証明書の確認 (Confirm Digest Credentials)	[ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)] の入力が入力されたことを確認するために、このフィールドに再度資格情報を入力します。
クレデンシャルの編集 (Edit Credential)	ユーザをデータベースに追加すると、[クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] ボタンが表示されます。 このボタンをクリックして、このユーザのクレデンシャル情報を管理します。
プレゼンス グループ (Presence Group)	リスト ボックスから、アプリケーション ユーザのプレゼンス グループを選択します。 インストール時には標準のプレゼンス グループが設定されます。Cisco Unified Presence の管理ページで設定したプレゼンス グループもリスト ボックスに表示されます。

表 27-1 アプリケーション ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
権限情報	
グループ (Groups)	<p>このリスト ボックスは、アプリケーション ユーザのレコードが保存された後に表示されます。このリスト ボックスには、アプリケーション ユーザが属するグループが表示されます。</p> <p>ユーザを 1 つ以上のユーザ グループに追加するには、[ユーザ グループに追加 (Add to User Group)] ボタンをクリックします。[ユーザ グループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが別のウィンドウとして表示されます。ユーザを追加するグループを特定し、それらのグループの隣のチェックボックスをオンにしてから、ウィンドウの下部にある [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。[ユーザ グループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが閉じると、[アプリケーション ユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウが開き、選択したグループが [グループ (Groups)] リスト ボックスに表示されます。</p> <p>グループからユーザを削除するには、[グループ (Groups)] リスト ボックスで該当するグループを強調表示し、[ユーザ グループから削除 (Remove from User Group)] ボタンをクリックします。</p> <p>グループを表示または更新するには、グループ名をダブルクリックするか、グループ名をクリックして強調表示してから [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。現在の設定が反映された [ユーザ グループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p>
権限 (Roles)	<p>このリスト ボックスは、アプリケーション ユーザを追加した後、[グループ (Groups)] リスト ボックスに値を読み込んだ後、およびユーザレコードを削除した後に表示されます。このリスト ボックスには、アプリケーション ユーザに割り当てられた権限が表示されます。</p> <p>権限を表示または更新するには、権限名をダブルクリックするか、権限名をクリックして強調表示してから [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。現在の設定が反映された [権限の設定 (Role Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p>

ステップ 5 このアプリケーション ユーザの [アプリケーション ユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウに戻るには、次の操作を実行します。

- a. [ユーザ特権 (User Privilege)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] リスト ボックスから [アプリケーション ユーザに戻る (Back to Application User)] を選択します。
- b. [移動 (Go)] をクリックします。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックして変更内容を保存し、ユーザを追加します。

関連項目

- 「アプリケーション ユーザの検索」 (P.27-4)
- 「ユーザ クレデンシャルの変更」 (P.27-5)
- 第 30 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのユーザ グループの設定」
- 第 28 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのユーザ権限の設定」

アプリケーション ユーザの検索

ネットワークにアプリケーション ユーザが複数存在する必要があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のアプリケーション ユーザを検索できます。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーション ユーザ (Application User)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#)に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

ユーザ クレデンシャル

関連付けられた認証ルール、関連付けられたクレデンシャル ポリシー、アプリケーション ユーザの直前のパスワード変更の時刻などのクレデンシャル情報を表示または変更できます。ユーザ クレデンシャルは、ユーザがデータベースに存在している場合のみ編集できます。

ユーザの [クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウで、割り当てられたクレデンシャル ポリシーと競合する設定を保存することはできません。ただし、ユーザに対するクレデンシャルの有効期限を別の設定 ([無期限にする (Does Not Expire)] など) にすることは可能です。[無期限 (Never Expires)] というポリシーの設定がオンになっていないと、ポリシーの設定がユーザの設定で上書きされます。

ユーザの [クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウで、他の設定と競合する設定は変更できません。たとえば、[ユーザは変更不可 (User Cannot Change)] チェックボックスがオンになっている場合は、[ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)] チェックボックスをオンにすることができません。

[クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウで報告されるイベント時間は、おおよその時間と考えてください。システムでは、次の認証クエリーまたはイベントの時点でこのフォームが更新されます。

アプリケーション ユーザ パスワードの変更

手順

-
- ステップ 1** パスワード変更の対象となるアプリケーション ユーザを検索します。
 - ステップ 2** 暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、[パスワード (Password)] フィールドに新規のパスワードを入力します。
 - ステップ 3** 暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、[パスワードの確認 (Confirm Password)] フィールドに新規のパスワードを再入力します。
 - ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-

関連項目

[「アプリケーション ユーザの検索」 \(P.27-4\)](#)

ユーザ クレデンシャルの変更

始める前に

Cisco Unified Presence データベースにアプリケーション ユーザを作成します。

手順

-
- ステップ 1** アプリケーション ユーザを検索します。
 - ステップ 2** [パスワード (Password)] フィールドの横にある [クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] をクリックして、パスワード情報を表示または変更します。
 - ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。
 - a. 該当するユーザ クレデンシャルのデータを表示します。
 - b. [表 27-2](#) の説明に従ってアプリケーション ユーザ クレデンシャルの設定値を入力します。

表 27-2 アプリケーション ユーザ クレデンシャルの設定値およびフィールド

フィールド	説明
管理者によるロック (Locked By Administrator)	<p>オンにすると、このアカウントがロックされ、該当するユーザへのアクセスが拒否されます。</p> <p>オフにすると、このアカウントがロック解除され、該当するユーザへのアクセスが許可されます。</p> <p>アカウントのロックアウト後にこのアカウント タイプに対して [管理者がロック解除を行う (Administrator Must Unlock)] がクレデンシャル ポリシーで指定されている場合に使用します。</p>
ユーザは変更不可 (User Cannot Change)	<p>オンにすると、該当するユーザはこのクレデンシャルを変更できなくなります。このオプションはグループ アカウントに使用します。</p> <p>[ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)] がオンになっている場合は、このチェックボックスをオンにすることができません。</p>
ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)	<p>オンにすると、該当するユーザは次回のログイン時にこのクレデンシャルを変更する必要があります。このオプションは、一時的なクレデンシャルを割り当てた後に使用してください。</p> <p>[ユーザは変更不可 (User Cannot Change)] がオンになっている場合は、このチェックボックスをオンにすることができません。</p>
無期限にする (Does Not Expire)	<p>オンにすると、システムからユーザへのこのクレデンシャルの変更要求が拒否されます。このオプションは、安全性の低いユーザやグループ アカウントに対して使用できます。</p> <p>オンにした場合、該当するユーザはこのクレデンシャルをいつでも変更できます。オフにした場合は、関連付けられているクレデンシャル ポリシーの有効期限設定が適用されます。</p> <p>ポリシー設定で [無期限にする (Does Not Expire)] が指定されている場合は、このチェックボックスをオフにすることができません。</p>
ハック数のリセット (Reset Hack Count)	<p>オンにすると、該当するユーザのハック カウントがリセットされ、[失敗したログイン試行によりロックされた時間 (Time Locked Due to Failed Logon Attempts)] フィールドがクリアされます。</p> <p>ハック カウントは、不正なクレデンシャルにより認証が失敗するたびに増えていきます。</p> <p>ポリシーで [ログイン失敗無制限 (No Limit for Failed Logons)] が指定されている場合は、ハック カウントが常に 0 になります。</p>
認証ルール (Authentication Rule)	このユーザ クレデンシャルに適用するクレデンシャル ポリシーを選択します。

表 27-2 アプリケーション ユーザ クレデンシャルの設定値およびフィールド (続き)

フィールド	説明
最終変更時間 (Time Last Changed)	このフィールドには、このユーザのクレデンシャルが最後に変更された日付と時刻が表示されます。
失敗したログイン試行 (Failed Logon Attempts)	最後のログイン成功以降、管理者がこのユーザ クレデンシャルのハック カウントをリセットした時点以降、または失敗したログイン試行の有効期限が切れてリセットされた時点以降にログイン試行に失敗した回数が表示されます。
失敗した最後のログイン試行時間 (Time of Last Field Logon Attempt)	このユーザ クレデンシャルで最後にログイン試行に失敗した日付と時刻が表示されます。
管理者によりロックされた時間 (Time Locked by Administrator)	管理者がこのユーザ アカウントをロックした日付と時刻が表示されます。管理者がクレデンシャルのロックを解除したら、このフィールドは空白になります。
失敗したログイン試行によりロックされた時間 (Time Locked Due to Failed Logon Attempts)	ログイン試行に失敗したためにシステムで最後にこのユーザ アカウントがロックされた日付と時刻が表示されます。ログイン試行の失敗回数が、適用されたクレデンシャル ポリシーで設定されているしきい値を超えると、ハック ロックアウトの時間が設定されます。

ステップ 4 設定を変更したら、[保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

表 27-2 の設定は、アプリケーション ユーザの [ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)] に適用されません。

関連項目

- 「アプリケーション ユーザの設定」 (P.27-1)
- 「アプリケーション ユーザの検索」 (P.27-4)

エンドユーザ情報のクエリーを実行する方法

- 「ライセンス済みエンドユーザとログイン済みエンドユーザに対する詳細クエリー」 (P.27-7)
- 「ライセンス済みエンドユーザまたはログイン済みエンドユーザの検索」 (P.27-8)

ライセンス済みエンドユーザとログイン済みエンドユーザに対する詳細クエリー

Cisco Unified Presence クラスタのライセンスが付与されているユーザとライセンスが付与されていないユーザを表示してクエリーを実行したり、次のクライアント アプリケーションのユーザに対して詳細クエリーを実行したりすることができます。

- [ライセンス済み Cisco Unified Presence (Licensed Cisco Unified Presence)] : Cisco Unified Presence のライセンス済みユーザがすべて表示されます。

- [ライセンス済み Cisco Unified Personal Communicator (Licensed Cisco Unified Personal Communicator)] : Cisco Unified Personal Communicator のライセンス済みユーザがすべて表示されます。
- [ログイン済み Cisco Unified Personal Communicator (Logged-In Cisco Unified Personal Communicator)] : Cisco Unified Personal Communicator のアクティブ ユーザまたはログイン済みユーザがすべて表示されます。
- [ログイン済みサードパーティ API (Logged-In Third-Party API)] : サードパーティ API のアクティブ ユーザまたはログイン済みユーザがすべて表示されます。
- [割り当てられた固定電話制御 (Assigned Desk Phone Control)] : 固定電話制御機能が割り当てられているユーザがすべて表示されます。

ライセンス済みエンドユーザまたはログイン済みエンドユーザの検索

ネットワークにさまざまなクライアント アプリケーションが存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のユーザを検索できます。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行して検索条件を設定します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

- 「[Web ブラウザ セッション](#)」 (P.1-7)
- 「[ライセンス済みエンドユーザとログイン済みエンドユーザに対する詳細クエリー](#)」 (P.27-7)



CHAPTER 28

Cisco Unified Presence の管理ページでのユーザ権限の設定

ユーザ権限を使用すると、完全な管理特権（アクセス権）を持つ Cisco Unified Presence 管理者は、エンドユーザやアプリケーションユーザに対してさまざまなレベルの特権を設定できます。完全な管理特権を持つ管理者が権限とユーザグループを設定します。通常は、完全なアクセス権を持つ管理ユーザが Cisco Unified Presence の管理ページとその他のアプリケーションに対する他の管理ユーザやエンドユーザの特権を設定します。

さまざまなレベルの特権がアプリケーションごとに存在します。Cisco Unified Presence の管理アプリケーションの場合、読み取り特権と更新特権の 2 つのレベルの特権があります。これらの特権レベルの違いは、次のとおりです。

- 更新特権を持つユーザは、そのユーザのユーザグループが更新特権を持つ [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] ウィンドウを表示および変更できます。
- 読み取り特権を持つユーザは、そのユーザのユーザグループが読み取り特権を持つ権限に属している [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] ウィンドウを表示できます。ただし、ウィンドウの読み取り特権を持つユーザは、読み取り特権だけを持つこれらの管理ウィンドウに変更を加えることはできません。読み取り特権を持つユーザの場合、Cisco Unified Presence の管理アプリケーションに、更新を行うためのボタンやアイコンが表示されません。

権限は、アプリケーション用のリソースのグループで構成されます。インストール時に、さまざまな管理機能に対してデフォルトの標準権限が作成されます。ただし、アプリケーション用リソースのカスタムグループで構成されたカスタム権限を作成することもできます。



(注)

一部の標準権限は、アプリケーションにもリソースにも関連付けられていません。これらの権限は、さまざまなアプリケーションのログイン認証に使用されます。

- [「Cisco Unified Presence でのユーザ権限の管理方法」 \(P.28-1\)](#)

Cisco Unified Presence でのユーザ権限の管理方法

- [「権限の設定」 \(P.28-2\)](#)
- [「権限の検索」 \(P.28-3\)](#)
- [「権限の削除」 \(P.28-4\)](#)

権限の設定

Cisco Unified Presence サーバ内で権限を管理（追加、変更、および削除）できます。各権限には、読み取り専用アクセス権限または更新アクセス権限があります。これにより、特定のページに書き込みアクセスできるユーザがより細かく判別されます。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理 (User Management)] > [権限 (Role)] の順に選択します。

ステップ 2 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
既存の権限をコピーする	<ol style="list-style-type: none"> 該当する権限を検索します。 コピーする権限の横にある [コピー (Copy)] をクリックします。 権限の名前を新たに入力し、表示されるポップアップ ウィンドウで [OK] をクリックします。 ステップ 3 に進みます。
新しい権限を追加する	<ol style="list-style-type: none"> [新規追加 (Add New)] をクリックします。 [アプリケーション (Application)] リスト ボックスからアプリケーションを選択します。 [次へ (Next)] をクリックします。
既存の権限を更新する	<ol style="list-style-type: none"> 該当する権限を検索します。 ステップ 3 に進みます。

ステップ 3 次の説明に従って、権限の設定値を入力します。

フィールド	説明
権限情報	
アプリケーション (Application)	リスト ボックスから、この権限を関連付けるアプリケーションを選択します。
名前 (Name)	権限の名前を入力します。名前は 50 文字以内にする必要があります。
説明 (Description)	権限の説明を入力します。説明は 50 文字以内にする必要があります。
リソース アクセス情報	
(選択したアプリケーションのリソース名のリスト)	<p>[リソース アクセス情報 (Resource Access Information)] ペインで、この権限を追加するリソースの横にあるチェックボックス (複数可) をオンにします。</p> <p>(注) 各リソースにチェックボックスが 1 つしかないアプリケーションもあります。Cisco Unified Presence の管理アプリケーションでは、読み取りと更新のチェックボックスがリソースごと割り当てられています。</p>

フィールド	説明
すべてのアクセスを許可 (Grant access to all)	このボタンをクリックすると、該当する権限に対してこのウィンドウに表示されるすべてのリソースの特権が許可されます。 (注) リソースのリストが複数のウィンドウにわたって表示される場合、このボタンは、現在のウィンドウに表示されるリソースに限り適用されます。他のウィンドウのリストにあるリソースのアクセス権を変更するには、それらのウィンドウを表示し、表示されたウィンドウでこのボタンを使用する必要があります。
すべてのアクセスを拒否 (Deny access to all)	このボタンをクリックすると、該当する権限に対してこのウィンドウに表示されるすべてのリソースの特権が削除されます。 (注) リソースのリストが複数のウィンドウにわたって表示される場合、このボタンは、現在のウィンドウに表示されるリソースに限り適用されます。他のウィンドウのリストにあるリソースのアクセス権を変更するには、それらのウィンドウを表示し、表示されたウィンドウでこのボタンを使用する必要があります。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックして権限を追加します。

トラブルシューティングのヒント

- 権限をコピーすると、その権限に関連付けられている特権もコピーされます。
- リストにあるリソースごとに読み取りアクセス権限と書き込みアクセス権限を割り当てることができます。読み取りアクセス権限を選択しないと、その権限に関連付けられているユーザグループは選択されたウィンドウ内のデータを変更することができません。

関連項目

[「権限の検索」 \(P.28-3\)](#)

権限の検索

ネットワークに権限が複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の権限を検索できます。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [権限 (Role)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

権限の削除

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [権限 (Role)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除する権限の名前をクリックします。
- ステップ 3** [削除 (Delete)] をクリックします。
- ステップ 4** [OK] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

標準権限は削除できません。



CHAPTER 29

Cisco Unified Presence での一括管理の使用

一括管理は、Cisco Unified Presence と Cisco Unified Communications Manager の両方で使用できます。この機能を使用すると、Cisco Unified Presence のさまざまな機能を設定できます。

Cisco Unified Presence Bulk Administration Tool

Cisco Unified Presence Bulk Administration Tool で設定できる機能は、次のとおりです。

- Cisco Unified Personal Communicator ユーザのユーザ プロファイルの設定
- Cisco Unified Presence ユーザへの固定電話制御機能の割り当て
- サブクラスタ内のノードへのユーザの割り当て

Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Tool

Cisco Unified CM の管理 Bulk Administration Tool で設定できる機能は、次のとおりです。

- Cisco Unified Presence ユーザと Cisco Unified Personal Communicator ユーザへのエンドユーザ ライセンスの割り当て
- ユーザへのライン アピアランスのマッピング Cisco Unified Presence サーバを Cisco Unified Communications Manager Release 6.0(1) に関連付けると、ライン アピアランスに基づいてプレゼンス情報が渡されます。

関連項目

『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Guide*』

- 「一括管理を使用してファイルをアップロード/ダウンロードする方法」 (P.29-1)
- 「一括管理を使用してエンドユーザ情報を更新する方法」 (P.29-4)
- 「一括管理を使用してエンドユーザ情報をエクスポートする方法」 (P.29-6)

一括管理を使用してファイルをアップロード/ダウンロードする方法

- 「ファイルの検索」 (P.29-2)
- 「ファイルのダウンロード」 (P.29-3)
- 「ファイルのアップロード」 (P.29-3)
- 「ファイルの削除」 (P.29-4)

ファイルの検索

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] の順に選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
ファイル名を基準にファイルを検索する	<p>a. ファイル検索の最初のリスト ボックスから [名前 (Name)] を選択します。</p> <p>b. 次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> – が次の文字列で始まる (begins with) – が次の文字列を含む (contains) – が次の文字列と等しい (is exactly) – が次の文字列で終わる (ends with) – が空である (is empty) <p>c. 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。</p> <p>d. さらにクエリーを定義して複数のフィルタを追加するには、[次を使用した拡張検索 (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、リスト ボックスから [AND] または [OR] を選択し、ステップ a ~ d を繰り返します。</p>
機能タイプを基準にファイルを検索する	<p>a. 2 番目の [ジョブの検索 (Find Job)] リスト ボックスから [タイプ (Type)] を選択します。</p> <p>b. [項目を選択するか、検索テキストを入力してください (Select item or Enter search text)] リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> – 挿入ファイル (Insert Files) – エクスポート ファイル (Export Files) – レポート ファイル (Report Files) – カスタム ファイル (Custom Files) – ログ ファイル (Log Files) – BAT Excel テンプレート (BAT Excel Template)
データベースに登録されているすべてのファイルを検索する	検索条件を入力せずに、 ステップ 3 に進みます。

- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- ステップ 2 で [名前 (Name)] を選択した場合は、ファイル名と機能タイプを基準に検出されたファイルが一覧表示されます。
- ステップ 2 で [タイプ (Type)] を選択した場合は、ファイル名と起動日時を基準に検出されたファイルが一覧表示されます。

ファイルのダウンロード

始める前に

「ファイルの検索」(P.29-2) の説明に従って、ダウンロードするファイルを検索します。

手順

-
- ステップ 1** ダウンロードするファイルに対応するチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 2** 次のいずれかの操作を実行します。
 - a. [選択項目のダウンロード (Download Selected)] をクリックします。
 - b. [すべてを選択 (Select All)] をクリックし、次に [選択項目のダウンロード (Download Selected)] をクリックします。
 - ステップ 3** [ファイルのダウンロード (File Download)] ポップアップ ウィンドウが表示されたら、[保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 4** [名前を付けて保存 (Save As)] ポップアップ ウィンドウで次の操作を実行します。
 - a. ファイルの保存先の場所を選択します。
 - b. [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 5** [ダウンロードの完了 (Download Complete)] ポップアップ ウィンドウが表示されたら、次の操作を実行します。
 - a. ダウンロードしたファイルをすぐに開く場合は、[ファイルを開く (Open)] をクリックします。
 - b. ダウンロードしたファイルを後で開く場合は、[閉じる (Close)] をクリックします。
-

トラブルシューティングのヒント

複数のファイルを同時に選択してダウンロードすると、それらのファイルが同じ ZIP ファイルにダウンロードされます。

ファイルのアップロード

始める前に

「ファイルの検索」(P.29-2) の説明に従って、アップロードするファイルを検索します。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] の順に選択します。
 - ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - ステップ 3** [ファイル (File)] テキスト ボックスで次の操作を実行します。
 - a. アップロードするファイルのフルパスを入力します。
 - b. [参照 (Browse)] をクリックしてファイルを検索します。
 - ステップ 4** [ターゲットの選択 (Select The Target)] リスト ボックスから、そのファイルの使用対象となるターゲットを選択します。

- ステップ 5** [トランザクション タイプの選択 (Select Transaction Type)] リスト ボックスから、そのファイルに定義されているトランザクション タイプを選択します。
- ステップ 6** 既存のファイルと同じ名前の上書きする場合は、[ファイルが存在する場合は上書きする (Overwrite File if it exists)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。

ファイルの削除

始める前に

「ファイルの検索」(P.29-2) の説明に従って、削除するファイルを検索します。

手順

- ステップ 1** [検索結果 (Search Results)] エリアで、削除するファイルに対応するチェックボックスをオンにします。
- ステップ 2** 次のいずれかの操作を実行します。
- a. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
 - b. [すべてを選択 (Select All)] をクリックし、次に [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- ステップ 3** [OK] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

削除対象として選択したファイルが何らかのジョブの実行に使用されている場合、これらのファイルは削除されません。

一括管理を使用してエンドユーザ情報を更新する方法

- 「エンドユーザ情報を更新するための前提条件」(P.29-4)
- 「Cisco Unified Presence での CUPC と固定電話のユーザ情報の更新」(P.29-5)
- 「Cisco Unified Presence のサブクラスタ内のユーザの更新」(P.29-5)

エンドユーザ情報を更新するための前提条件

Cisco Unified Presence のディレクトリ内のユーザをまとめて更新するには、ユーザ名、制御対象のデバイス名、およびディレクトリ番号を含む 1 つのデータ ファイルを Comma-Separated Value (CSV; カンマ区切り) 形式で作成する必要があります。次のいずれかの方法を使用して、CSV データ ファイルを作成できます。

- CSV 形式に変換される BAT スプレッドシート
- ユーザ データのエクスポート ファイルを生成するエクスポート ユーティリティ

エクスポート ユーティリティで生成されたファイルを更新する場合は、接尾辞 `_MgrLevel#` に基づいてファイルを降順で挿入します (# は 1 ~ 20 の数値です)。ファイルの末尾に接尾辞 `_user` を挿入し、マネージャのユーザ レコードが存在することを確認してから、[マネージャのユーザ ID (Manager User ID)] フィールドにあるマネージャのユーザ ID を使用します。

Cisco Unified Presence での CUPC と固定電話のユーザ情報の更新

Cisco Unified Presence の一括管理を使用すると、Cisco Unified Personal Communicator と固定電話制御サービスのユーザに関する情報を更新できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [CUPC/固定電話 (CUPC/DeskPhone)] > [更新 (Update)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドでこの一括トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] エリアにジョブの説明を入力します。
- ステップ 4** 次のいずれかの操作を実行します。
 - a. ユーザ レコードをすぐに挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] を選択します。
 - b. ユーザ レコードを後で挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] を選択します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックして、ユーザ レコードを挿入するジョブを作成します。

次の操作

[「ジョブのスケジューリング」\(P.31-3\)](#)

Cisco Unified Presence のサブクラスタ内のユーザの更新

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [サブクラスタ (Subcluster)] > [更新 (Update)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドでこの一括トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。
 - [ユーザの割り当て (Assign users)] をオンにして、CSV データ ファイル内のリストにあるユーザをサブクラスタまたはノードに割り当てます。
 - [ユーザの割り当て解除 (Unassign users)] をオンにして、CSV データ ファイル内のリストにあるユーザをサブクラスタまたはノードから割り当て解除します。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] エリアにジョブの説明を入力します。
- ステップ 5** 次のいずれかの操作を実行します。
 - a. ユーザ レコードをすぐに挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - b. ユーザ レコードを後で挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックして、ユーザ レコードを挿入するジョブを作成します。

次の操作

「ジョブのスケジューリング」 (P.31-3)

一括管理を使用してエンドユーザ情報をエクスポートする方法

- 「Cisco Unified Presence からの CUPC/ 固定電話のユーザ情報のエクスポート」 (P.29-6)
- 「Cisco Unified Presence からのサブクラスタ ユーザ情報のエクスポート方法」 (P.29-7)

Cisco Unified Presence からの CUPC/ 固定電話のユーザ情報のエクスポート

Cisco Unified Presence の一括管理を使用すると、Cisco Unified Personal Communicator と固定電話制御サービスのユーザ レコードをエクスポートできます。エクスポート ユーティリティにより、データベースの組織階層に従ってユーザがソートされます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [CUPC/ 固定電話 (CUPC/Deskphone)] > [エクスポート (Export)] の順に選択します。

ステップ 2 [ユーザの検索 (Find User)] リスト ボックスから次のいずれかのオプションを選択します。

- ユーザ ID (User ID)
- 名 (First Name)
- ミドルネーム (Middle Name)
- 姓 (Last Name)
- マネージャ (Manager)
- 部署名 (Department)

ステップ 3 2 番目のリスト ボックスで、次のオプションの中から選択します。

- が次の文字列で始まる (begins with)
- が次の文字列を含む (contains)
- が次の文字列と等しい (is exactly)
- が次の文字列で終わる (ends with)
- が空である (is empty)
- が空ではない (is not empty)

ステップ 4 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
名前やユーザ ID などの特定の値を検索します。	<p>a. 検索する値を [検索 (Find)] フィールド/リスト ボックスに入力します。</p> <p>b. さらにクエリーを定義して複数のフィルタを追加するには、[次を使用した拡張検索 (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、リスト ボックスから [AND] または [OR] を選択し、ステップ 2 ~ 4 を繰り返します。</p> <p>c. [検索 (Find)] をクリックします。</p>
複数の部署名からユーザを検索します。	<p>a. 複数の部署名を入力します。たとえば、部署名 12 と 34 からユーザを選択する場合は、[検索 (Find)] フィールド/リスト ボックスに 12, 34 と入力します。処理を 2 度行う必要はありません。</p> <p>b. さらにクエリーを定義して複数のフィルタを追加するには、[次を使用した拡張検索 (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、リスト ボックスから [AND] または [OR] を選択し、ステップ 2 ~ 4 を繰り返します。</p> <p>c. [検索 (Find)] をクリックします。</p>
データベースに登録されているすべてのファイルを検索する	[検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 6 [ファイル名 (File Name)] テキスト ボックスに、ユーザ エクスポート用のファイル名を入力します。

ステップ 7 [ジョブ情報 (Job Information)] エリアにジョブの説明を入力します。

ステップ 8 次のいずれかの操作を実行します。

- ユーザ レコードをすぐにエクスポートする場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- 後でエクスポートする場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 9 [送信 (Submit)] をクリックして、ユーザ レコードをエクスポートするジョブを作成します。

次の操作

[「ジョブのスケジューリング」\(P.31-3\)](#)

Cisco Unified Presence からのサブクラスタ ユーザ情報のエクスポート方法

Cisco Unified Presence の一括管理を使用すると、Cisco Unified Presence のサブクラスタ ユーザのレコードをエクスポートできます。エクスポート ユーティリティにより、データベースの組織階層に従ってユーザがソートされます。

- [「ユーザの検索」\(P.29-8\)](#)
- [「ユーザ レコードのエクスポート」\(P.29-9\)](#)

ユーザの検索

ネットワーク内にサブクラスタとノードに割り当てられたユーザが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のユーザを検索できます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [サブクラスタ (Subcluster)] > [エクスポート (Export)] の順に選択します。

ステップ 2 エクスポート条件を設定します。

検索対象のユーザ	操作
Cisco Unified Presence のサブクラスタにもノードにも割り当てられていないユーザ	<p>a. [未割り当てユーザ (Unassigned users)] チェックボックスをオンにします。</p> <p>b. ステップ 3 に進みます。</p>
Cisco Unified Presence のサブクラスタまたはノードに割り当てられているユーザ	<p>a. [割り当て済みユーザ (Assigned users)] をオンにします。</p> <p>b. 該当する場合は、次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - [ノードごとの割り当て済みユーザ (Assigned users by node)] リスト ボックスからユーザが割り当てられているノードを選択します。 - [サブクラスタごとの割り当て済みユーザ (Assigned users by subcluster)] リスト ボックスからユーザが割り当てられているサブクラスタを選択します。 <p>c. ステップ 3 に進みます。</p>

ステップ 3 データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。

ステップ 4 レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。

- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 6 [次へ (Next)] をクリックします。

次の操作

「[ユーザ レコードのエクスポート](#)」(P.29-9) の手順を実行してください。

関連項目

「[Web ブラウザ セッション](#)」(P.1-7)

ユーザ レコードのエクスポート

始める前に

「ユーザの検索」(P.29-8) の手順を実行してください。

手順

-
- ステップ 1** [ファイル名 (File Name)] テキスト ボックスに、ユーザ エクスポート用のファイル名を入力します。
- ステップ 2** [ファイル形式 (File Format)] リスト ボックスからファイル形式を選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] エリアにジョブの説明を入力します。
- ステップ 4** 次のいずれかの操作を実行します。
- a. ユーザ レコードをすぐにエクスポートする場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - b. 後でエクスポートする場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 5** [送信 (Submit)] をクリックして、ユーザ レコードをエクスポートするジョブを作成します。
-

次の操作

「ジョブのスケジューリング」(P.31-3)



CHAPTER 30

Cisco Unified Presence の管理ページでの ユーザ グループの設定

Cisco Unified Presence への完全なアクセス権を持つユーザは、権限、ユーザ グループ、および権限に対するアクセス権を設定できます。通常は、完全なアクセス権を持つユーザが Cisco Unified Presence の管理ページへの他のユーザのアクセス権を設定します。

ユーザ グループは、アプリケーション ユーザとエンド ユーザのリストで構成されます。ユーザは複数のユーザ グループに属することができます。ユーザ グループの追加後、ユーザをユーザ グループに追加できます。その後で、権限をユーザ グループに割り当てることができます。ユーザが複数のユーザ グループに属する場合、MLA アクセス権のエンタープライズ パラメータにより、ユーザの有効な特権が決まります。

- [「Cisco Unified Presence でのユーザ グループの管理方法」 \(P.30-1\)](#)

Cisco Unified Presence でのユーザ グループの管理方法

- [「ユーザ グループの設定」 \(P.30-1\)](#)
- [「ユーザ グループの検索」 \(P.30-3\)](#)
- [「ユーザ グループへのアプリケーション ユーザの追加」 \(P.30-3\)](#)
- [「ユーザ グループへの権限の割り当て」 \(P.30-4\)](#)
- [「ユーザ グループの削除」 \(P.30-5\)](#)
- [「ユーザ グループからのユーザの削除」 \(P.30-6\)](#)
- [「ユーザの権限、ユーザ グループ、およびアクセス権の表示」 \(P.30-6\)](#)

ユーザ グループの設定

Cisco Unified Presence サーバ内でユーザ グループを管理（追加、変更、および削除）できます。各ユーザ グループには、1 人または複数のエンドユーザやアプリケーション ユーザを含めることができます。その後で、これらのユーザ グループを 1 つまたは複数の権限に割り当てることができます。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ グループ (User Group)] の順に選択します。

ステップ 2 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
既存のユーザ グループをコピーする	<ol style="list-style-type: none"> 該当するユーザ グループを検索します。 コピーするユーザ グループの名前をクリックします。 [コピー (Copy)] をクリックします。 権限の名前を新たに入力し、表示されるポップアップ ウィンドウで [OK] をクリックします。 ステップ 3 に進みます。
新規のユーザ グループを追加する	<ol style="list-style-type: none"> [新規追加 (Add New)] をクリックします。 新規のユーザ グループの名前を入力します。 [OK] をクリックします。 ステップ 3 に進みます。
既存のユーザ グループを更新する	<ol style="list-style-type: none"> 該当するユーザ グループを検索します。 更新するユーザ グループの名前をクリックします。 ステップ 3 に進みます。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 このユーザ グループへのユーザの追加を実行します。

ステップ 5 このユーザ グループへの権限の割り当てを実行します。

トラブルシューティングのヒント

- ユーザ グループの名前は最大 50 の英数字で、スペース、ピリオド (.), ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を使用できます。ユーザ グループの名前が一意であることを確認してください。
- 標準のユーザ グループは削除できませんが、標準のユーザ グループのユーザ メンバシップを更新することは可能です。
- Admin-3rd Party API グループと Admin-CUMA グループには権限は割り当てられていません。これらのグループは、サードパーティ API または Cisco Unified Mobility Advantage の管理者がアプリケーション ユーザとしてログインするときに使用可能な特定のアプリケーション ユーザを作成する場合にだけ使用します。**

関連項目

- 「ユーザ グループの検索」(P.30-3)
- 「ユーザ グループへのアプリケーション ユーザの追加」(P.30-3)
- 「ユーザ グループへの権限の割り当て」(P.30-4)

ユーザ グループの検索

ネットワークに複数のユーザ グループが存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のユーザ グループを検索できます。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ グループ (User Group)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコード リストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

ユーザ グループへのアプリケーション ユーザの追加

始める前に

ユーザ グループを設定します。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ グループ (User Group)] の順に選択します。
- ステップ 2** ユーザの追加先となるユーザ グループを検索します。
- ステップ 3** 更新するユーザ グループの名前をクリックします。
- ステップ 4** アプリケーション ユーザを追加するには、[グループにアプリケーション ユーザを追加 (Add App Users to Group)] をクリックします。
- ステップ 5** [アプリケーション ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ポップアップ ウィンドウで次の操作を実行します。
- [アプリケーション ユーザの検索 (Find Application User)] リスト ボックスから、追加するアプリケーション ユーザを選択します。

- b. [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 6** 表示される検索結果のリストで次の操作を実行します。
- a. このユーザ グループに追加するアプリケーション ユーザをチェックします。
- b. リストが複数のウィンドウにわたっている場合、下部のリンクをクリックすると、さらに検索結果を表示できます。
- ステップ 7** [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックして、このユーザ グループに加えた変更を保存します。

トラブルシューティングのヒント

- ユーザ ID でアプリケーション ユーザを検索できます。また、フィールドを空白のままにすることもできます。この場合は、すべてのアプリケーション ユーザが表示されます。
- 検索結果のリストには、すでにそのユーザ グループに属しているアプリケーション ユーザは表示されません。
- アプリケーション ユーザを追加したら、そのユーザの [権限 (Permission)] 列で [i] アイコンをクリックすると、そのユーザの権限を表示できます。

次の操作

- 「[ユーザ グループの設定](#)」(P.30-1)
- 「[ユーザ グループの検索](#)」(P.30-3)
- 「[ユーザ グループへの権限の割り当て](#)」(P.30-4)

ユーザ グループへの権限の割り当て

完全なアクセス権を持つユーザは、ユーザ グループに権限を割り当てることができます。権限が割り当てられたユーザ グループは、その権限に含まれているリソースにアクセスできます。



(注)

ユーザ グループに権限を割り当てる場合、管理者はそのユーザ グループに Standard Unified CM Admin Users 権限を割り当てる必要があります。この権限により、ユーザは Cisco Unified Presence の管理ページにログインできます。

始める前に

- ユーザ グループにアプリケーション ユーザを追加します。
- Admin-3rd Party API グループと Admin-CUMA グループには権限は割り当てられていません。これらのグループは、サードパーティ API または Cisco Unified Mobility Advantage の管理者がアプリケーション ユーザとしてログインするときに使用可能な特定のアプリケーション ユーザを作成する場合にだけ使用します。**

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ グループ (User Group)] の順に選択します。
- ステップ 2** 権限を割り当てるユーザ グループを検索します。
- ステップ 3** 権限を割り当てるユーザ グループの名前をクリックします。

- ステップ 4** [関連リンク (Related Links)] リスト ボックスから次の操作を実行します。
- [ユーザ グループに権限を割り当て (Assign Role to User Group)] を選択します。
 - [移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 5** [グループに権限を割り当て (Assign Role to Group)] をクリックして、このユーザ グループに追加の権限を割り当てます。
- ステップ 6** 必要な場合は、権限検索の検索条件を使用して、権限リストの範囲を絞り込みます。
- ステップ 7** 次のいずれかの操作を実行します。
- このユーザ グループに割り当てる権限名の横にあるチェックボックスをオンにします。
 - このユーザ グループに権限を割り当てずに [権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ポップアップ ウィンドウを閉じる場合は、[閉じる (Close)] をクリックします。
- ステップ 8** [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

割り当てられている権限をこのユーザ グループから削除するには、[権限の割り当て (Role Assignment)] ペインにある権限を選択して [権限の割り当ての削除 (Delete Role Assignment)] をクリックします。このユーザ グループから割り当て解除する権限ごとに、この手順を繰り返します。

関連項目

- 「ユーザ グループの検索」(P.30-3)
- 「ユーザ グループへのアプリケーション ユーザの追加」(P.30-3)

ユーザ グループの削除

Cisco Unified Presence の管理ページからユーザ グループ全体を削除できます。

始める前に

ユーザ グループを削除すると、Cisco Unified Presence により、データベースからすべてのユーザ グループ データが削除されます。ユーザ グループに割り当てられている権限を確認するには、[ユーザ グループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウで [関連リンク (Related Links)] リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択して [移動 (Go)] をクリックします。システムで依存関係レコードが有効でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ グループ (User Group)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するユーザ グループを検索します。
- ステップ 3** 削除するユーザ グループの名前をクリックします。
- ステップ 4** グループ全体を削除する場合は、[削除 (Delete)] をクリックします。

- ステップ 5** ユーザ グループを削除すると元に戻すことができなくなるという内容の警告メッセージがダイアログボックスに表示された場合は、次の操作を実行します。
- 操作を続ける場合は、[OK] をクリックします。
 - 操作をキャンセルする場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

関連項目

- 「ユーザ グループの検索」(P.30-3)
- 「ユーザ グループからのユーザの削除」(P.30-6)

ユーザ グループからのユーザの削除

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ グループ (User Group)] の順に選択します。
- ステップ 2** ユーザを削除するユーザ グループを検索します。
- ステップ 3** 更新するユーザ グループの名前をクリックします。
- ステップ 4** このユーザ グループから削除するユーザの名前の横にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- ステップ 6** 削除するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、次の操作を実行します。
 - 操作を続ける場合は、[OK] をクリックします。
 - 操作をキャンセルする場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

関連項目

- 「ユーザ グループの検索」(P.30-3)

ユーザの権限、ユーザ グループ、およびアクセス権の表示

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ グループ (User Group)] の順に選択します。
- ステップ 2** 「ユーザ グループの検索」(P.30-3) の手順に従って、割り当てられた権限を表示するユーザが属しているユーザ グループを確認します。
- ステップ 3** ユーザに割り当てられた権限を表示するユーザ グループの名前をクリックします。
- ステップ 4** 特定のユーザの [権限 (Role)] 列で [i] アイコンをクリックします。
[ユーザ特権 (User Privilege)] ウィンドウが表示されます。選択したユーザに関して次の情報が表示されます。
 - そのユーザが属しているユーザ グループ。
 - そのユーザに割り当てられている権限。

- そのユーザがアクセスできるリソース。各リソースに関して次の情報が表示されます。
 - アプリケーション
 - リソース
 - 権限（読み取りと更新の一方または両方）

ステップ 5 ユーザの設定に戻るには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. [関連リンク (Related Links)] リスト ボックスの [ユーザの設定に戻る (Back to User)] を選択します。
 - b. [移動 (Go)] をクリックします。
-

トラブルシューティングのヒント

特定のユーザを選択してから、そのユーザの権限を表示することもできます。次の操作を実行します。

- [ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーション ユーザ (Application User)] の順に選択します (アプリケーション ユーザの場合)。
- [ユーザ管理 (User Management)] > [エンド ユーザ (End User)] の順に選択します (エンド ユーザの場合)。



CHAPTER 31

Cisco Unified Presence でのジョブをスケジューリングするための一括管理の使用

Cisco Unified Presence で一括トランザクションをスケジューリングして、これらのトランザクションの開始時刻を指定できます。

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューから送信されるすべてのジョブは、Bulk Provisioning Service (BPS) のキューに入れられます。ジョブに対して指定した開始時刻により、トランザクションの実行が開始されます。開始時刻が指定されていない場合、トランザクションは受信した順序で実行されます。

- 「Bulk Provisioning Service の管理方法」 (P.31-1)
- 「Cisco Unified Presence でのジョブのスケジューリング方法」 (P.31-3)

Bulk Provisioning Service の管理方法

- 「Bulk Provisioning Service のアクティブ化」 (P.31-1)
- 「BPS の起動、停止、または再起動」 (P.31-2)
- 「BPS の非アクティブ化」 (P.31-2)

Bulk Provisioning Service のアクティブ化

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Presence Serviceability のウィンドウで [Tools] > [Service Activation] の順に選択します。
- ステップ 2** [Service] リスト ボックスから、Cisco Unified Presence が実行されているサーバを選択します。
- ステップ 3** [Database and Admin Services] エリアで、Cisco Bulk Provisioning Service に対応するチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [Update] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- BPS は、アクティブ化されると自動的に起動します。

- ウィンドウが更新され、Bulk Provisioning Service に対応する [アクティブ化ステータス (Activation Status)] に [アクティブ化 (Activated)] と表示されます。
- サービスがすでにアクティブ化されている場合は、[アクティブ化ステータス (Activation Status)] に [アクティブ化 (Activated)] と表示されています。
- BPS は起動するごとに、Cisco Unified Presence データベースと同期化されます。

関連項目

「BPS の起動、停止、または再起動」(P.31-2)

BPS の起動、停止、または再起動

BPS は、Cisco Unified Presence Serviceability でアクティブ化されると自動的に起動します。BPS を停止または再起動できます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Presence Serviceability で [Tools] > [Control Center - Feature Services] の順に選択します。
- ステップ 2** [Servers] リスト ボックスから Cisco Unified Presence を選択します。
- ステップ 3** BPS に対応するチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** 次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
BPS を再起動する	[Restart] をクリックします。
BPS を停止する	[Stop] をクリックします。
停止した BPS を起動する	[Start] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- Cisco Bulk Provisioning Service が [データベースおよび管理者サービス (Database and Admin Services)] エリアの [サービス名 (Service Name)] 列のリストに表示されます。
- 「Bulk Provisioning Service のアクティブ化」(P.31-1) の手順に従って BPS をアクティブ化した場合は、ステータスの項目に [アクティブ化 (Activated)] と表示されます。

BPS の非アクティブ化

必要がなくなった場合に BPS を非アクティブ化して、このツールからログアウトできます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Presence Serviceability で [Tools] > [Service Activation] の順に選択します。
- ステップ 2** [Servers] リスト ボックスから Cisco Unified Presence を選択します。

ステップ 3 次の操作を実行します。

- a. Cisco Bulk Provisioning Service に対応するチェックボックスをオフにします。
- b. [Update] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

Cisco Bulk Provisioning Service が [データベースおよび管理者サービス (Database and Admin Services)] エリアの [サービス名 (Service Name)] 列のリストに表示されます。

Cisco Unified Presence でのジョブのスケジューリング方法

- 「ジョブのスケジューリング」(P.31-3)
- 「ジョブの検索」(P.31-5)

ジョブのスケジューリング

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] の順に選択します。
- ステップ 2** 「ジョブの検索」(P.31-5) の手順の手順に従ってスケジューリングするジョブを検索します。
- ステップ 3** 表 31-1 の説明に従って、ジョブのスケジューリングとアクティブ化の設定値を入力します。

表 31-1 ジョブの設定値

フィールド	説明
ジョブ ID (Job Id)	ジョブの送信時に作成されたジョブ ID が表示されます。
ジョブのステータス (Job Status)	次のいずれかのジョブ ステータスが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 保留 (Hold) • 処理中 (Pending) • 完了 (Completed) • 未完了 (Incomplete)
スケジュール日時 (Scheduled Date Time)	リスト ボックスから年、月、日を選択します。ジョブをスケジューリングする時刻を入力します。
送信日時 (Submit Date Time)	ジョブが送信された日時が表示されます。

表 31-1 ジョブの設定値 (続き)

フィールド	説明
順序 (Sequence)	リスト ボックスから、ジョブの実行順序を選択します。選択できる数値は 1 ~ 20 です。 (注) 複数のジョブで同じ日時がスケジュールリングされている場合は、順序の数値に従ってそれらのジョブが BPS のキューに入れます。スケジュールリングされた日時と順序が同じである場合は、送信された日時に従ってジョブがキューに入れます。
ジョブ説明 (Job Description)	ジョブの作成時に入力した説明が表示されます。
頻度 (Frequency)	次のオプションの中から、トランザクションの頻度を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 一度 (Once) • 月次 (Monthly) • 週次 (Weekly) • 日次 (Daily) • 毎時 (Hourly) たとえば、[日次 (Daily)] を選択すると、そのトランザクションは、[スケジュール日時 (Schedule Time and Date)] フィールドで入力した時刻に毎日実行されます。
ジョブの終了時刻 (Job End Time)	反復的な (頻度の高い) ジョブの終了時刻が表示されます。
最終変更者 (Last Modified By)	このジョブを最後に変更した管理者のユーザ ID が表示されます。

ステップ 4 次のいずれかの操作を実行します。

- a. スケジュールした時刻にジョブをアクティブ化する場合は、[ジョブのアクティブ化 (Activate Job)] をクリックします。
- b. 設定を保存してジョブを後でアクティブ化する場合は [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 5 アクティブ化したジョブのジョブ ID をクリックします。

ステップ 6 [ログ ファイル名 (Log File Name)] 列のリンクをクリックして、このトランザクションのログ ファイルを表示します。

ステップ 7 ジョブのリストに戻るには、次の操作を実行します。

- a. [関連リンク (Related Links)] メニューから [検索/リストに戻る (Back to Find/List)] を選択します。
- b. [移動 (Go)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

ジョブが保存されているが、まだアクティブ化されていない場合、そのジョブのステータスは [保留 (Hold)] と表示されます。これらのジョブは、アクティブ化されるまで BPS で処理されません。

ジョブの検索

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューから、BPS にすでに送信されているジョブを検索できます。次を基準に検出されたジョブが一覧表示されます。

- ジョブ ID
- スケジュール日時
- 送信日時
- 順序
- 説明
- ステータス
- 最後のユーザ

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] の順に選択します。
- ステップ 2** ジョブ検索の最初のリスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。
- ユーザ (User)
 - ステータス (Status)
 - ジョブ ID (Job ID)
 - 説明 (Description)
 - スケジュール日時 (Scheduled Date Time)
- ステップ 3** ジョブ検索の 2 番目のリスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。
- が次の文字列で始まる (begins with)
 - が次の文字列を含む (contains)
 - が次の文字列と等しい (is exactly)
 - が次の文字列で終わる (ends with)
 - が空である (is empty)
 - が空ではない (is not empty)
- ステップ 4** 3 番目のリスト ボックスから [表示 (Show)] を選択します。
- ステップ 5** 必要に応じて、次のいずれかの操作を実行します。
- a. 適切な検索テキストを指定します。
 - b. データベースに登録されているすべてのジョブを検索する場合は、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。
 - c. クエリーをさらに定義する場合は、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、ステップ 2 ~ a を繰り返します。
- ステップ 6** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 7** 処理中のジョブまたはスケジューリングやアクティブ化がまだ行われていないジョブのジョブ ID をクリックします。
-

関連項目

- 「Web ブラウザ セッション」 (P.1-7)
- 「ジョブのスケジューリング」 (P.31-3)

トラブルシューティングのヒント

- ジョブのスケジューリング時に [後で実行 (Run Later)] オプション ボタンを選択した場合は、[ステータス (Status)] に [保留 (Hold)] と表示されます。
- [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンを選択した場合は、[ステータス (Status)] に [処理中 (Pending)] と表示されます。
- ジョブが完了している場合は、[ステータス (Status)] に [完了 (Completed)] と表示されます。また、エラーが発生したために完了できないジョブの場合は、[未完了 (Incomplete)] と表示されます。



CHAPTER 32

Cisco Unified Presence の管理ページでのシステム情報の表示

- 「システム ダッシュボード」 (P.32-1)
- 「今回のリリースでの最新情報」 (P.32-1)
- 「システム ステータスの表示」 (P.32-1)

システム ダッシュボード

Cisco Unified Presence の管理ページでシステム ダッシュボードを使用すると、Cisco Unified Presence システムのステータスのスナップショットを取得できます。このダッシュボードには、次のシステム コンポーネントの要約データが表示されます。

- デバイス数
- ユーザ数
- ユーザ単位のデータ（ライセンス、連絡先、プライマリ内線など）

今回のリリースでの最新情報

Cisco Unified Presence の管理ページでシステム ダッシュボードを起動すると、最新リリースでの新機能に関する情報を含むツールチップ ウィンドウが表示されます。この情報にアクセスするには、ウィンドウの上部にある [最新情報 (What's New)] ダイアログ/音声アイコンにカーソルを合せます。このアイコンをクリックしてツールチップを固定し、機能リストをスクロールします。

システム ステータスの表示

手順

-
- ステップ 1** [診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] の順に選択します。

ステップ 2 表 32-1 に記載されているステータス情報を確認してください。

表 32-1 システム ステータス情報

パラメータ	説明
[システム (System)] 情報	<p>[システム (System)] 情報には、次の読み取り専用フィールドが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> システムのトラブルシューティング ステータス、Sync Agent、プレゼンス エンジン、および SIP プロキシ。ダイアログ/音声アイコンをクリックしてツールチップを固定し、トラブルシューティング情報をスクロールします。 Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバの IP アドレス。 パブリッシャ サーバとの同期が取られた日付。 エンドユーザ数。[表示 (View)] ハイパーリンクをクリックして、これらのエンドユーザを検索します。 ライセンス済み Cisco Unified Presence エンドユーザ数。[表示 (View)] ハイパーリンクをクリックして、これらのライセンス済みエンドユーザを検索します。
[トポロジ (Topology)] 情報	<p>[トポロジ (Topology)] 情報には、次の読み取り専用フィールドが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> システム トポロジのトラブルシューティング ステータス。ダイアログ/音声アイコンをクリックしてツールチップを固定し、トラブルシューティング情報をスクロールします。 システム トポロジ内の割り当て済みノード。[表示 (View)] ハイパーリンクをクリックして、これらの割り当て済みノードを検索します。 システム トポロジ内の未割り当てノード。[表示 (View)] ハイパーリンクをクリックして、これらの未割り当てノードを検索します。 システム トポロジ内の割り当て済みユーザ。[表示 (View)] ハイパーリンクをクリックして、これらの割り当て済みユーザを検索します。 システム トポロジ内の未割り当てユーザ。 システム トポロジ内のサブクラスタ。[表示 (View)] ハイパーリンクをクリックして、これらのサブクラスタを検索します。 システム トポロジ内のパブリッシャ ノード。[表示 (View)] ハイパーリンクをクリックして、このパブリッシャ ノードを検索します。

表 32-1 システム ステータス情報 (続き)

パラメータ	説明
[フェデレーテッド ドメイン (Federated Domains)] 情報	<p>フェデレーテッド ドメインが存在しない場合にドメインを追加するには、[追加 (Add)] をクリックします。[フェデレーテッド ドメイン (Federated Domains)] 情報には、次の読み取り専用フィールドが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ドメイン間フェデレーション ドメイン。[表示 (View)] ハイパーリンクをクリックして、このフェデレーション ドメインを検索します。
[クラスタ間設定 (Inter-Clustering)] 情報	<p>クラスタ間ピアが存在しない場合にクラスタ間ピアを追加するには、[追加 (Add)] をクリックします。[クラスタ間設定 (Inter-Clustering)] 情報には、次の読み取り専用フィールドが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Cisco Unified Presence クラスタのトラブルシューティング ステータス。ダイアログ/音声アイコンをクリックしてツールチップを固定し、トラブルシューティング情報をスクロールします。 クラスタ間ピアに関連付けられたエンドユーザ数。[表示 (View)] ハイパーリンクをクリックして、これらのクラスタ間ピアを検索します。 クラスタ間ピアに関連付けられたエンドユーザが重複している場合は、重複ユーザの数を示すリンクが表示されます。[X 重複検出 (Duplicates found)] ハイパーリンクをクリックします。 <p>(注) クラスタ間ピアに関連付けられたエンドユーザ数が表示されるのは、[クラスタ間ピア設定 (Intercluster Peer Configuration)] ウィンドウでクラスタ間ピアがすでに設定されている場合だけです。</p>

表 32-1 システム ステータス情報 (続き)

パラメータ	説明
[Cisco Unified Personal Communicator] 情報	<p>[Cisco Unified Personal Communicator] 情報には、次の読み取り専用フィールドが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Personal Communicator のトラブルシューティング ステータス。ダイアログ/音声アイコンをクリックしてツールチップを固定し、トラブルシューティング情報をスクロールします。 • ライセンス済み Cisco Unified Personal Communicator エンドユーザ数。[表示 (View)] ハイパーリンクをクリックして、これらのライセンス済みエンドユーザを検索します。 • アプリケーションに現在ログインしているライセンス済み Cisco Unified Personal Communicator ユーザ数。[表示 (View)] ハイパーリンクをクリックして、これらのエンドユーザを検索します。
[固定電話制御 (Desk Phone Control)] 情報	<p>[固定電話制御 (Desk Phone Control)] 情報には、次の読み取り専用フィールドが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 固定電話制御機能のトラブルシューティング ステータス。ダイアログ/音声アイコンをクリックしてツールチップを固定し、トラブルシューティング情報をスクロールします。 • 割り当て済み Microsoft Office Communicator エンドユーザ数。[表示 (View)] ハイパーリンクをクリックして、これらのエンドユーザを検索します。
[予定表統合 (Calendar Integration)] 情報	<p>[予定表統合 (Calendar Integration)] 情報には、次の読み取り専用フィールドが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 予定表連携に対応しているユーザ数。[表示 (View)] ハイパーリンクをクリックして、これらのエンドユーザを検索します。予定表連携用ゲートウェイが存在しない場合に Outlook に対して 1 つの予定表連携用ゲートウェイを有効にするには、[追加 (Add)] をクリックします。
[モビリティ統合 (Mobility Integration)]	<p>[モビリティ統合 (Mobility integration)] 情報には、次の読み取り専用フィールドが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Mobile Communicator に現在ログインしているユーザ数。[表示 (View)] ハイパーリンクをクリックして、これらのエンドユーザを検索します。

表 32-1 システム ステータス情報 (続き)

パラメータ	説明
[IP Phone Messenger]	[IP Phone Messenger] 情報には、次の読み取り専用フィールドが表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• IPPM 機能のトラブルシューティング ステータス。ダイアログ/音声アイコンをクリックしてツールチップを固定し、トラブルシューティング情報をスクロールします。
[サードパーティ API (3rd Party API)]	[サードパーティ API (3rd Party API)] 情報には、次の読み取り専用フィールドが表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• サードパーティ API に現在ログインしているユーザ数。[表示 (View)] ハイパーリンクをクリックして、これらのエンドユーザを検索します。

関連項目『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』



CHAPTER 33

Cisco Unified Presence の管理ページでの プレゼンス ビューアの使用

- 「プレゼンス ビューア」 (P.33-1)
- 「プレゼンス ビューアの使用手法」 (P.33-3)
- 「Cisco Unified Presence エンドユーザの検索」 (P.33-4)
- 「プレゼンス ビューアのトラブルシュータと解決策」 (P.33-5)

プレゼンス ビューア

プレゼンス ビューアは、Cisco Unified Presence でのユーザのプレゼンス ステータスを表示したり、プレゼンスに関連する問題を特定したりすることができる診断ツールです。たとえば、エンドユーザのユーザ ID を入力して、Cisco Unified Personal Communicator や Microsoft Office Communicator (MOC) などの各種アプリケーションでそのユーザのログイン ステータスを監視できます。

また、指定したユーザのプレゼンス ステータスが別のユーザ（ウォッチャ）に対してどう表示されるかを設定することもできます。



(注)

プレゼンス ステータス情報をユーザ間で共有する前に、プライバシーと可用性に関するルールを適用します。

プレゼンス ビューアには、ユーザに関する次の情報が表示されます。

パラメータ	説明
全体的なプレゼンス ステータス	<p>ユーザのプレゼンス ステータスを特定します。ステータスには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 応対可能 • 話中 • 不在 • サイレント • 応対不可 • 休暇 • 不明
個人情報	<p>ユーザに関する個人情報を特定します。個人情報には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザの写真。ユーザの写真は、プレゼンス エンジンの [サービス パラメータ (Service Parameters)] ウィンドウで設定した URL を介して取得されます。この URL は「http://www.cisco.com/dir/photo/std/%%uid%%.jpg」のようになります。「%%uid%%」は指定されたユーザの UserID に置き換えられます。 • 名前およびユーザ ID • 姓および名 • マネージャおよび部署 • 電話番号および携帯番号 • ビル名および所在地 • ローカル ユーザおよびリモート ユーザ <p>(注) ユーザが重複ユーザの場合、つまり該当するユーザのユーザ ID が Cisco Unified Presence の複数のクラスタ間で一意でない場合は、警告メッセージが表示されます。</p>
システム トポロジの割り当て情報	<p>該当するユーザの割り当て先となっている Cisco Unified Presence のノードとサブクラスタを特定します。ノードとサブクラスタの詳細に直接アクセスできるようにハイパーリンクが設定されています。</p>
ライセンス情報	<p>ユーザが Cisco Unified Presence と Cisco Unified Personal Communicator のライセンスを所有しているかどうかを特定します。</p>

パラメータ	説明
アプリケーション情報	ユーザが次のアプリケーションのライセンスを所有しているかどうか、このアプリケーションに割り当てられているかどうか、このアプリケーションにログインしているかどうかを特定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Personal Communicator • Mobility Integration : Cisco Unified Mobile Communicator • Desk Phone Control Client : Microsoft Office Communicator • Calendar Integration : Microsoft Exchange
連絡先リスト	指定したユーザの観点からユーザの連絡先とプレゼンス ステータスが表示されます。
ウォッチャ リスト	指定したユーザを連絡先リストに入れているユーザ（このユーザをウォッチャと呼びます）が一覧表示されます。
デバイス リスト	指定したユーザに関連付けられているデバイスがすべて表示され、一連のデバイスのプレゼンス ステータスと機能（オーディオ、ビデオ、または IM のサポートなど）が示されます。

関連項目

- [第 2 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのシステム トポロジの設定」](#)
- [第 5 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのライセンス管理」](#)
- [第 10 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのサービス パラメータの設定」](#)

プレゼンス ビューアの使用法

始める前に

プレゼンス ビューアに関する情報を確認してください。

手順

- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行します。
- [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] ウィンドウで [診断 (Diagnostics)] > [プレゼンス ビューア (Presence Viewer)] の順に選択します。
 - [ユーザ管理 (User Management)] > [エンド ユーザ (End User)] の順に選択します。
 - プレゼンス ステータスを監視するユーザのハイパーリンクをクリックします。
- ステップ 2** 別のユーザに対してユーザのプレゼンス ステータスがどのように表示されているかを確認するには、次の操作を実行します。
- [ユーザ ID (User ID)] フィールドにユーザのユーザ ID を入力します。
 - [プレゼンス ステータスを見るユーザ (View From Perspective)] フィールドに別のユーザのユーザ ID を入力します。
 - [送信 (Submit)] をクリックします。

- ステップ 3** 不合格または警告となった各テストの結果の表を検証します。
- ステップ 4** プレゼンス ビューアのトラブルシュータで次の操作を実行します。
- 不合格または警告となったテストごとに、解決策の列で [fix] リンクをクリックし、[Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] ウィンドウに移動します。このウィンドウには、設定トラブルシュータで検出された問題が表示されます。
 - 見つかった設定エラーを修正して、トラブルシュータを再度実行します。

関連項目

- 「プレゼンス ビューア」 (P.33-1)
- 「Cisco Unified Presence エンドユーザの検索」 (P.33-4)
- 「プレゼンス ビューアのトラブルシュータと解決策」 (P.33-5)

Cisco Unified Presence エンドユーザの検索

ネットワークに Cisco Unified Presence ユーザが複数存在する必要があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のユーザを検索できます。

手順

- ステップ 1** [診断 (Diagnostics)] > [プレゼンス ビューア (Presence Viewer)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ユーザ ID (User ID)] フィールドの隣にある [検索 (Search)] をクリックします。
- ステップ 3** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 5](#) に進みます。
- ステップ 4** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 3 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 5** [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 6 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
選択レコードを追加する	次の操作を実行します。 a. 表示するユーザの隣にあるチェックボックスをオンにします。 b. [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- プレゼンス ビューアの「検索」機能を使用した場合は、表示されるポップアップ ウィンドウで検索と一覧表示のクエリーを使用して 1 人または複数のユーザを選択できます。複数のユーザを選択すると、ウィンドウの右上隅に [次へ (Next)] ボタンと [前へ (Previous)] ボタンが表示されません。これらのボタンを使用して、選択したユーザ間を移動できます。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

プレゼンス ビューアのトラブルシュータと解決策

表 33-1 では、トラブルシュータのテストと解決策について説明します。

表 33-1 **トラブルシュータのテストと解決策**

テストの説明	問題の説明	解決策
プレゼンス ビューアのテスト		
CTI ゲートウェイ サービスがアクティブであることを確認します。	CTI ゲートウェイ サービスが現在非アクティブに切り替えられていることをシステムが示しています。	CTI ゲートウェイ サービスをアクティブにするには、[CTI ゲートウェイ設定 (CTI Gateway Settings)] ウィンドウを使用します。
Cisco Unified Presence ユーザが Cisco Unified Communications Manager に関連付けられている (同期化されている) ことを確認します。	指定されたユーザが Cisco Unified Presence データベースに存在しません。	そのユーザが Cisco Unified Communications Manager パブリッシャに存在し、Standard CCM End Users グループに追加されていることを確認します。
ユーザに Cisco Unified Presence のライセンスがあることを確認します。	指定されたユーザに Cisco Unified Presence のライセンスがありません。	そのユーザに Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの [機能の割り当て (Capabilities Assignment)] ページのライセンスがあることを確認します。

表 33-1 トラブルシュータのテストと解決策 (続き)

テストの説明	問題の説明	解決策
ユーザに固定電話制御機能が現在割り当てられているかどうかを確認します。	現在 MOC 割り当て済みになっているユーザが存在しないことをシステムが示しています。	ユーザに MOC 機能を割り当てるには、 [アプリケーション (Application)] > [固定電話制御 (Deskphone Control)] > [ユーザ割り当て (User Assignment)] の順に選択します。詳細については、 第 35 章「Cisco Unified Presence の管理ページでの固定電話制御の設定とトラブルシューティング」 を参照してください。
Cisco Unified Presence アプリケーションのユーザ名とパスワードが、現在設定されている Cisco Unified Communications Manager アプリケーションのユーザ名とパスワードに一致していることを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> CTI ゲートウェイ アプリケーションのユーザ ID の不一致が存在する CTI ゲートウェイ アプリケーションのパスワードの不一致が存在する 	<ul style="list-style-type: none"> Cisco Unified Communications Manager サーバで有効な CTI ゲートウェイ アプリケーションのユーザ名を設定して、Cisco Unified Presence サーバでの CTI ゲートウェイ アプリケーションのユーザ名と一致するようにします。 Cisco Unified Communications Manager サーバで有効な CTI ゲートウェイ アプリケーションのパスワードを設定して、Cisco Unified Presence サーバでの CTI ゲートウェイ アプリケーションのパスワードと一致するようにします。
CTI ゲートウェイ サービスがアクティブであることを確認します。	CTI ゲートウェイ サービスが現在実行されていません。	CTI ゲートウェイ サービスを起動するには、サービスアビリティ アプリケーションを使用して SIP プロキシ サービスを起動します。
LCS/OCS のアドレスが到達可能であることを確認します。	指定された LCS/OCS のアドレスは到達不可です。このアドレスに対して ping を正常に実行できませんでした。	指定された LCS/OCS のアドレスが有効であることを確認します。



CHAPTER 34

Cisco Unified Presence の管理ページでのシステム設定トラブルシュータの使用

システム設定トラブルシュータを使用して、初期設定後または設定変更時に Cisco Unified Presence の設定に関する問題を診断します。トラブルシュータにより、Cisco Unified Presence クラスタと Cisco Unified Communications Manager クラスタの両方で一連のテストが実行され、Cisco Unified Presence の設定が検証されます。

このトラブルシュータのテストが終了すると、各テストで次の 3 つのステータスのいずれかがレポートされます。

- [テスト合格 (Test passed)]
- [テスト失格 (Test failed)]
- [テスト警告 (設定に問題がある可能性を示しています) (Test Warning (indicates possible configuration issue))]

不合格または警告となったテストごとに、問題点の説明と考えられる解決方法が示されます。

- 「システム設定トラブルシュータの使用法」(P.34-1)
- 「システム設定のテストと解決策」(P.34-2)

システム設定トラブルシュータの使用法

始める前に

- [表 34-1](#) を参照して、トラブルシュータで実施されるテストを確認してください。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理] ウィンドウで [診断 (Diagnostics)] > [システム トラブルシュータ (System Troubleshooter)] の順に選択します。
- ステップ 2** 不合格または警告となった各テストの結果の表を検証します。
- ステップ 3** 不合格または警告となったテストごとに、解決策の列で [fix] リンクをクリックし、[Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] ウィンドウに移動します。このウィンドウには、設定トラブルシュータで検出された問題が表示されます。
- ステップ 4** 見つかった設定エラーを修正して、トラブルシュータを再度実行します。

トラブルシューティングのヒント

システム ダッシュボードを使用して、システム トラブルシューティング情報を表示することもできます。[診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] の順に選択します。

システム設定のテストと解決策

表 34-1 では、システム設定のテストと解決策について説明します。

表 34-1 トラブルシュータのテストと解決策

テストの説明	問題の説明	解決策
システム テスト		
データベースのサイズがノードに対応していることを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> ノードがインストールされていないか、到達不可である データベースのサイズが 90% ~ 97% であり、実際のサイズが X である データベースのサイズが 97% を上回っており、実際のサイズが X である 	Cisco Unified Presence のシステム トポロジにノードをインストールし、そのノードが到達可能かどうかを ping で確認します。詳細については、第 2 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのシステム トポロジの設定」を参照してください。
Sync Agent のテスト		
AXL 設定のエントリが存在することを確認します。	AXL 設定テーブルにエントリがありません。	有効な Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ アドレス、AXL ユーザ ID、および AXL パスワードを設定します。詳細については、第 3 章「Cisco Unified Presence の管理ページでの Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの変更」を参照してください。
AXL ユーザ ID が有効であることを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> AXL ユーザ ID 値が無効 AXL パスワード値が無効 パブリッシャ アドレス値が無効 	<ul style="list-style-type: none"> 有効な AXL ユーザ ID を設定します。 有効な AXL パスワードを設定します。 有効な Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ アドレスを設定します。 <p>詳細については、第 3 章「Cisco Unified Presence の管理ページでの Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの変更」を参照してください。</p>
パブリッシャのアドレスが到達可能であることを確認します。次に、ログインして基本的なクエリーを実行します。	指定の IP アドレスで Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードに接続できません。	パブリッシャ アドレス、AXL ユーザ ID、および AXL パスワードが有効であることを確認します。詳細については、第 3 章「Cisco Unified Presence の管理ページでの Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの変更」を参照してください。

表 34-1 トラブルシュータのテストと解決策 (続き)

テストの説明	問題の説明	解決策
Sync Agent が関連データ (デバイス、ユーザ、ライセンス情報など) を同期したことを確認します。	Sync Agent サービスが有効なデータを同期したかどうかを確認できません。	Sync Agent サービスがアクティブであることを確認します。Cisco Unified Serviceability に移動し、[Tools] > [Control Center - Network Service] の順に選択します。
Sync Agent サービスが実行されていることを確認します。	Sync Agent サービスは現在実行されていません。Cisco Unified Presence サービスが正しく動作するには、Sync Agent が必要です。	Sync Agent サービスを起動するには、Cisco Unified Serviceability に移動し、[Tools] > [Control Center - Network Service] の順に選択します。
プレゼンス エンジンのテスト		
Cisco Unified Communications Manager プレゼンス ゲートウェイのエントリが存在することを確認します。	Cisco Unified Communications Manager プレゼンス ゲートウェイのエントリがありません。	有効なプレゼンス ゲートウェイを設定するには、[プレゼンス (Presence)] > [ゲートウェイ (Gateways)] の順に選択します。詳細については、第 12 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのプレゼンス ゲートウェイの設定」を参照してください。
プレゼンス エンジン サービスが実行されていることを確認します。	プレゼンス エンジン サービスが現在実行されていません。	プレゼンス エンジン サービスを起動するには、Cisco Unified Serviceability に移動し、[Tools] > [Service Activation] の順に選択します。
プレゼンス エンジンの OAM エージェント サービスが実行されていることを確認します。	プレゼンス エンジンの OAM エージェント サービスが現在実行されていません。	プレゼンス エンジンの OAM エージェント サービスを起動するには、Cisco Unified Serviceability に移動し、[Tools] > [Control Center - Network Service] の順に選択します。
プレゼンス エンジンデータベース サービスが実行されていることを確認します。	プレゼンス エンジンデータベース サービスが現在実行されていません。	プレゼンス エンジン データベース サービスを起動するには、Cisco Unified Serviceability に移動し、[Tools] > [Control Center - Network Service] の順に選択します。
プレゼンス ゲートウェイが有効であることを確認します (到達可能であることをチェックします)。	無効なプレゼンス ゲートウェイが存在します。	有効なプレゼンス ゲートウェイを設定するには、[プレゼンス (Presence)] > [ゲートウェイ (Gateways)] の順に選択します。詳細については、第 12 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのプレゼンス ゲートウェイの設定」を参照してください。

表 34-1 トラブルシュータのテストと解決策 (続き)

テストの説明	問題の説明	解決策
Cisco Unified Communications Manager サーバに有効な SIP トランクが存在することを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager に有効な SIP トランクが存在しません。 • Cisco Unified Communications Manager 上で SIP トランクが失われている可能性があります。Cisco Unified Presence サーバごとに、対応する SIP トランクを設定する必要があります (DNS SRV が有効になっている場合を除く)。失われている可能性のあるエントリは x.x.x.x、x.x.x.x、... です。 	<ul style="list-style-type: none"> • 有効な SIP トランクを Cisco Unified Communications Manager に設定します。 • クラスタ内の Cisco Unified Communications Manager サーバごとに、Cisco Unified Presence で有効な SIP トランクを設定したことを確認します。DNS SRV を使用している場合、トラブルシュータは現在 DNS SRV エントリを解決できないので、このことが問題にならない可能性があります。
SIP パブリッシュ モデルが正しいことを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> • SIP パブリッシュ設定に、次のいずれかのエラーがあります。 <ul style="list-style-type: none"> – SIP パブリッシュが Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications Manager のどちらにも設定されていない – SIP パブリッシュが Cisco Unified Communications Manager には設定されているが、Cisco Unified Presence サーバには設定されていない – SIP パブリッシュが Cisco Unified Presence サーバには設定されているが、Cisco Unified Communications Manager には設定されていない • Cisco Unified Communications Manager に、現在ライン アピアランスが存在しません。 • Cisco Unified Communications Manager の SIP パブリッシュ トランクのポートが、Cisco Unified Presence サーバの Cisco SIP プロキシ リスナーに設定されているいずれのポートにも一致しません。 	<ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Presence 設定 (Cisco Unified Presence Settings)] ウィンドウで SIP パブリッシュを有効にします。詳細については、第 11 章「Cisco Unified Presence の管理ページでの設定値の設定」を参照してください。 • SIP パブリッシュが正常に動作するためには、Cisco Unified Communications Manager にライン アピアランスが存在する必要があります。 • Cisco Unified Communications Manager 上の SIP パブリッシュ トランク ポート ([デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)]) を変更して、Cisco SIP プロキシ用のポート値のいずれか ([システム (System)] > [アプリケーション リスナー (Application Listener)]) と一致するようにします。詳細については、第 4 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのアプリケーション リスナーの設定」を参照してください。
プロキシ サーバのテスト		
SIP プロキシ サービスのプロキシ ドメイン サービス パラメータ値が有効であることを確認します。	無効なプロキシ ドメイン サービス パラメータ値が存在します (値が空か、デフォルトに設定されています)。	有効なプロキシ ドメイン サービス パラメータ (SIP プロキシ サービス) を設定します。 (注) IP アドレスではなく、有効なドメイン名を入力します。

表 34-1 トラブルシュータのテストと解決策 (続き)

テストの説明	問題の説明	解決策
メソッド/イベント ルートが存在することを確認します。	メソッド/イベント ルートがありません。デフォルトのルートが削除されています。正常に機能するためには、Cisco Unified Presence にルートが必要です。	これらの要求をプレゼンス エンジンにルーティングするには、少なくとも 2 つのメソッド ルート (パブリッシュ、サブスクライブ) を設定する必要があります。詳細については、第 18 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのコンテンツベースの SIP メッセージルーティングの設定」を参照してください。
プロキシ着信 ACL が設定されていることを確認します。	プロキシ着信 ACL が未設定であることをシステムが示しています。	着信 ACL エントリを追加します。[システム (System)] > [セキュリティ (Security)] > [着信 ACL (Incoming ACL)] の順に選択して [新規追加 (Add New)] をクリックします。詳細については、「Cisco Unified Presence の管理ページでの着信 ACL の設定」を参照してください。
プロキシ発信 ACL が設定されていることを確認します。	プロキシ発信 ACL が未設定であることをシステムが示しています。	着信 ACL エントリを追加します。[システム (System)] > [セキュリティ (Security)] > [発信 ACL (Outgoing ACL)] の順に選択します。詳細については、「Cisco Unified Presence の管理ページでの発信 ACL の設定」を参照してください。
SIP プロキシサービスが実行されていることを確認します。	SIP プロキシ サービスが現在実行されていません。	SIP プロキシ サービスを起動するには、Cisco Unified Serviceability に移動し、[Tools] > [Control Center - Network Service] の順に選択します。
設定エージェントサービスが実行されていることを確認します。	設定エージェント サービスが現在実行されていません。	SIP プロキシ サービスを起動するには、Cisco Unified Serviceability に移動し、[Tools] > [Control Center - Network Service] の順に選択します。
IP Phone Messenger のテスト		
IPPM 設定のエントリが存在することを確認します。 (注) Cisco Unified Presence の管理ページで IPPM を有効にした場合に限り、トラブルシュータで IPPM のテストが実施されます。IPPM を有効にするには、[アプリケーション (Application)] > [IP Phone Messenger] > [設定 (Settings)] の順に選択します。	IPPM 設定テーブルに消失エントリは表示されません。	有効なアプリケーションのユーザ名とパスワードを設定するには、[アプリケーション (Application)] > [IP Phone Messenger] > [設定 (Settings)] の順に選択します。
IPPM アプリケーションのユーザ名が有効であることを確認します。	無効な IPPM アプリケーションのユーザ名が存在します。	有効なアプリケーションのユーザ名とパスワードを設定するには、[アプリケーション (Application)] > [IP Phone Messenger] > [設定 (Settings)] の順に選択します。

表 34-1 トラブルシュータのテストと解決策 (続き)

テストの説明	問題の説明	解決策
IPPM アプリケーションのパスワードが有効であることを確認します。	無効な IPPM アプリケーションのパスワードが存在します。	有効なアプリケーションのユーザ名とパスワードを設定するには、[アプリケーション (Application)] > [IP Phone Messenger] > [設定 (Settings)] の順に選択します。
Cisco Unified Presence の IPPM アプリケーションのユーザ名とパスワードが設定済みの Cisco Unified Communications Manager アプリケーションのユーザ名とパスワードに一致していることを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> IPPM アプリケーションのユーザ名の不一致が存在する IPPM アプリケーションのパスワードの不一致が存在する 	<ul style="list-style-type: none"> Cisco Unified Communications Manager サーバで有効な IPPM アプリケーションのユーザ名を設定して、Cisco Unified Presence サーバでの IPPM アプリケーションのユーザ名と一致するようにします。 Cisco Unified Communications Manager サーバで有効な IPPM アプリケーションのパスワードを設定して、Cisco Unified Presence サーバでの IPPM アプリケーションのパスワードと一致するようにします。
IPPM サービスがアクティブであることを確認します。	IPPM サービスが現在非アクティブに切り替えられていることをシステムが示しています。	IPPM サービスをアクティブにするには、IPPM 設定ウィンドウを使用します。
IPPM サービスがアクティブであることを確認します。	IPPM サービスが現在実行されていません。	IPPM サービスを起動するには、Cisco Unified Serviceability に移動し、[Tools] > [Control Center - Network Service] の順に選択します。SIP プロキシサービスを起動します。
固定電話制御のテスト		
固定電話制御アプリケーションがアクティブであることを確認します。	固定電話制御アプリケーションが現在非アクティブに切り替えられていることをシステムが示しています。	固定電話制御アプリケーションをアクティブにするには、[アプリケーション (Application)] > [固定電話制御 (Desk Phone Control)] > [設定 (Settings)] の順に選択します。
固定電話制御アプリケーション設定のエントリが存在することを確認します。	固定電話制御設定テーブルにエントリがないことをシステムが示しています。	固定電話制御設定のエントリを設定するには、[アプリケーション (Application)] > [固定電話制御 (Desk Phone Control)] > [設定 (Settings)] の順に選択します。

表 34-1 トラブルシュータのテストと解決策 (続き)

テストの説明	問題の説明	解決策
Cisco Unified Presence の固定電話制御アプリケーションのユーザ名とパスワードが設定済みの Cisco Unified Communications Manager アプリケーションのユーザ名とパスワードに一致していることを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> 固定電話制御アプリケーションのユーザ名の不一致が存在する 固定電話制御アプリケーションのパスワードの不一致が存在する 	<ul style="list-style-type: none"> Cisco Unified Communications Manager サーバで有効な固定電話制御アプリケーションのユーザ名を設定して、Cisco Unified Presence サーバでの固定電話制御アプリケーションのユーザ名と一致するようにします。 Cisco Unified Communications Manager サーバで有効な固定電話制御アプリケーションのパスワードを設定して、Cisco Unified Presence サーバでの固定電話制御アプリケーションのパスワードと一致するようにします。
固定電話制御サービスが実行されていることを確認します。	固定電話制御サービスが現在実行されていません。	固定電話制御サービスを起動するには、Cisco Unified Serviceability に移動し、[Tools] > [Control Center - Network Service] の順に選択します。SIP プロキシサービスを起動します。
ユーザに固定電話制御が現在割り当てられているかどうかを確認します。	固定電話制御に対応しているユーザが存在しません。	ユーザに固定電話制御機能を割り当てるには、[アプリケーション (Application)] > [固定電話制御 (Desk Phone Control)] > [ユーザ割り当て (User Assignment)] の順に選択します。詳細については、「 エンドユーザ情報のクエリーを実行する方法 」(P.27-7) を参照してください。
会議通知/予定表連携のテスト		
予定表連携用プレゼンス ゲートウェイが存在するかどうかを確認します。	予定表連携用プレゼンス ゲートウェイが複数存在します。	Cisco Unified Presence 内でプロビジョニングできる予定表連携用プレゼンスゲートウェイは 1 つだけです。
IP Phone Messenger アプリケーションが有効であることを確認します。	Cisco IP Phone Messenger アプリケーションは現在無効になっていると表示されています。電話機に会議通知が正しく表示されるようにするには、このアプリケーションが必要です。	IPPM 設定ウィンドウで Cisco IP Phone Messenger アプリケーションを有効にします。
SIP プロキシ サービスが実行されていることを確認します。	SIP プロキシ サービスが現在実行されていません。会議通知アプリケーションが正しく実行されるようにするには、このサービスが必要です。	SIP プロキシ サービスをアクティブにするには、Cisco Unified Serviceability に移動し、[Tools] > [Service Activation] の順に選択します。

表 34-1 トラブルシュータのテストと解決策（続き）

テストの説明	問題の説明	解決策
<p>MeetingPlace が適切に設定されていることを確認します（会議参加コールバック機能をサポートするため）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> このテストでトラブルシュータに内部エラーが発生しました。 MeetingPlace の設定が無効であることをシステムが示しています（MeetingPlace のアドレスをチェックしてください）。会議参加コールバック機能が適切に動作するには、MeetingPlace を正しく設定する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> トラブルシュータは内部エラーのためこのテストを実行できませんでした。システム管理者にすぐに連絡してください。 [会議通知の設定（Meeting Notification Settings）] ウィンドウで MeetingPlace を設定します。
<p>Exchange プレゼンス ゲートウェイが正しく設定されていることを確認します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> Exchange プレゼンス ゲートウェイのセキュリティ証明書設定が無効です。CUP と Exchange 間で TLS ハンドシェイクが正常に実行されませんでした。 [Exchange プレゼンス ゲートウェイ（Exchange Presence Gateway）] ページを使用して Exchange SSL 接続を確認します。OS の管理ページを使用して追加の証明書をアップロードする必要があります。 Exchange プレゼンス ゲートウェイのセキュリティ証明書設定が無効です。証明書チェーン内の証明書に無効な情報が含まれている可能性があります。 ネットワーク上の問題が原因で Exchange サーバに接続できません。 不明なエラーが発生しました。 このテストでトラブルシュータに内部エラーが発生しました。 	<ul style="list-style-type: none"> [Exchange プレゼンス ゲートウェイ（Exchange Presence Gateway）] ページを使用して Exchange SSL 接続を確認します。OS の管理 GUI を使用して追加の証明書をアップロードする必要があります。 [Exchange プレゼンス ゲートウェイ（Exchange Presence Gateway）] ページを使用して Exchange SSL 接続を確認します。[Exchange プレゼンス ゲートウェイ（Exchange Presence Gateway）] ページを使用して Exchange プレゼンス ゲートウェイの証明書を設定する必要があります。 [Exchange プレゼンス ゲートウェイ（Exchange Presence Gateway）] ページを使用して Exchange 証明書 の設定を確認します。 Exchange サーバへのネットワーク接続を確認します。 不明なエラーが発生しました。デバッグ ログで詳細をチェックします。 トラブルシュータは内部エラーのためこのテストを実行できませんでした。デバッグ ログで詳細をチェックします。
クラスタ間テスト		
<p>任意のクラスタ間ピアが存在することを確認します。</p>	<p>このテストでトラブルシュータに内部エラーが発生しました。</p>	<p>トラブルシュータは内部エラーのためこのテストを実行できませんでした。システム管理者にすぐに連絡してください。</p>
<p>Intercluster Sync Agent サービスが実行されていることを確認します。</p>	<p>Intercluster Sync Agent サービスが現在実行されていません。</p>	<p>Intercluster Sync Agent サービスを起動するには、Cisco Unified Serviceability に移動し、[Tools] > [Control Center - Network Service] の順に選択します</p>

表 34-1 トラブルシュータのテストと解決策 (続き)

テストの説明	問題の説明	解決策
クラスタ間ピアが有効であることを確認します (到達可能であることをチェックします)。	無効なクラスタ間ピアが存在します。	有効なクラスタ間ピアを設定するには、 [Cisco Unified Presence] > [クラスタ間設定 (Inter-Clustering)] の順に選択します。詳細については、 第 13 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのクラスタ間ピアの設定」 を参照してください。
到達可能な各クラスタ間ピアの AXL の接続性を確認します。	無効なクラスタ間ピアが存在します。システムが、リストされているピアに (AXL インターフェイス経由で) 接続できません。	各クラスタ間ピアのアドレスおよび関連付けられているクレデンシャルを確認します。このエラーは、AXL ユーザ名/パスワードに不一致があるか、AXL サービスがリモートピア上で実行されていないことを示している場合があります。
各クラスタ間ピアがクラスタ間接続をサポートしていることを確認します。	無効なクラスタ間ピアが存在します。リストされているピアがクラスタ間接続をサポートしていません。	各クラスタ間ピアがクラスタ間接続をサポートしていることを確認します。このエラーは、指定のピアとバージョンが一致していないことを示している場合があります。
クラスタ間ピアにローカル Cisco Unified Presence サーバと同じプロキシドメインがあることを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> 次のピアのプロキシドメインがローカルのプロキシドメインと一致していません。 TLS に対応したクラスタ間ピアが存在しないため、このテストが実行されませんでした。 	各クラスタ間ピアに適切なプロキシドメイン値が設定されていることを確認します。
各クラスタ間ピアにユーザが関連付けられている (同期を取っている) ことを確認します。	クラスタ間ピアが無効です。リストされているピアに、ユーザが関連付けられていません。	各クラスタ間ピアのアドレスと信用証明書を confirms。クラスタ間ピアに関連付けられている (同期を取っている) ユーザがない場合、設定に問題がある可能性があります。
複数の Cisco Unified Presence クラスターのライセンスを所有しているユーザが Cisco Unified Presence クラスターに含まれていないことを確認します。	1 人または複数のユーザが複数の Cisco Unified Presence クラスターのライセンスを所有しています。これが原因でプレゼンスとインスタントメッセージルーティングに不整合が発生しています。	それぞれの重複ユーザが属している実際のクラスターを特定します。Cisco Unified Presence クラスターに関連付けられている Cisco Unified Communications Manager クラスターのうち、Cisco Unified Presence のライセンスが正しく付与されていないユーザが含まれているものを confirms。 [次へ (More)] をクリックして、Cisco Unified Presence クラスター内の重複ユーザの数を表示します。
トポロジのテスト		
未割り当てユーザが存在しないことを confirms。	Cisco Unified Presence クラスターに未割り当てユーザが存在します。	未割り当てユーザが存在すると、プレゼンスが正常に動作しません。 詳細については、 第 2 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのシステムトポロジの設定」 を参照してください。

表 34-1 トラブルシュータのテストと解決策（続き）

テストの説明	問題の説明	解決策
使用可能なノードがすべて割り当てられていることを確認します。	Cisco Unified Presence クラスタに未割り当てノードが存在します。	1 つのサブクラスタにすべてのノードを割り当てることを推奨します。 詳細については、第 2 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのシステム トポロジの設定」を参照してください。
空のサブクラスタが存在しないことを確認します。	次のサブクラスタにノードが割り当てられていません。	1 つのサブクラスタにすべてのノードを割り当てることを推奨します。 詳細については、第 2 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのシステム トポロジの設定」を参照してください。
すべての割り当て済みノードにユーザが割り当てられていることを確認します。	次のノードにユーザが割り当てられていません。	すべてのノードにユーザを割り当てることを推奨します。 詳細については、第 2 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのシステム トポロジの設定」を参照してください。
Cisco Unified Personal Communicator のテスト		
Cisco Unified Personal Communicator ユーザに現在ライセンスが付与されているかどうかを確認します。	Cisco Unified Personal Communicator ユーザに現在ライセンスが付与されていません。	ユーザに Cisco Unified Communications Manager のライセンスを付与します。[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [機能割り当て (Capabilities Assignment)] の順に選択します。
プライマリ TFTP サーバが設定済みかつ到達可能であることを確認します。	TFTP サーバが設定されていません。Cisco Unified Personal Communicator が正常に動作するには、プライマリ TFTP サーバを設定する必要があります。	1 つまたは複数の有効な TFTP サーバが設定済みかつ到達可能であることを確認します。
Cisco Unified Personal Communicator ユーザがサブクラスタに割り当てられているかどうかを確認します。	次の Cisco Unified Personal Communicator ユーザが現在割り当てられていません。ユーザに関するプレゼンス ステータス レポートが正常に動作するには、これらのユーザをサブクラスタに割り当てる必要があります。	[トポロジのユーザ割り当て (Topology User Assignment)] ウィンドウを使用して Cisco Unified Personal Communicator ユーザを割り当てます。詳細については、第 2 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのシステム トポロジの設定」を参照してください。
Cisco Unified Personal Communicator アプリケーション プロファイルが設定されているかどうかを確認します。	次のアプリケーションにプロファイルが設定されていません。	各アプリケーションのプロファイル（ボイスメール プロファイルや会議プロファイルなど）を作成します。詳細については、第 22 章「Cisco Unified Presence の管理ページでの会議サーバおよびプロファイルの設定」を参照してください。

表 34-1 トラブルシュータのテストと解決策（続き）

テストの説明	問題の説明	解決策
Cisco Unified Personal Communicator メールストア サーバが設定済みかつ到達可能であるかどうかを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> メールストア サーバが現在設定されていません。 次のメールストア サーバが到達不可です。 	<ul style="list-style-type: none"> これ以降にボイスメール プロファイルで使用できるようにメールストア サーバを設定します。 各メールストア サーバのアドレスと到達可能性を確認します。 <p>詳細については、第 21 章「Cisco Unified Presence の管理ページでのボイスメール サーバ、ボイスメール プロファイル、およびメールストアの設定」を参照してください。</p>
Cisco Unified Personal Communicator アプリケーション プロファイルに未割り当てユーザが含まれているかどうかを確認します。	次のアプリケーション プロファイルに未割り当てユーザが含まれています。	各アプリケーションのプロファイル（ボイスメール プロファイルや会議プロファイルなど）にユーザを割り当てます。詳細については、第 22 章「 Cisco Unified Presence の管理ページでの会議サーバおよびプロファイルの設定 」を参照してください。
各 Cisco Unified Personal Communicator アプリケーション プロファイルのプライマリ サーバが到達可能かどうかを確認します。	次のアプリケーション プロファイルに到達不可のプライマリ サーバが現在含まれています。	各アプリケーション プロファイル（ボイスメール プロファイルや会議プロファイルなど）のプライマリ サーバを確認します。詳細については、第 22 章「 Cisco Unified Presence の管理ページでの会議サーバおよびプロファイルの設定 」を参照してください。



CHAPTER 35

Cisco Unified Presence の管理ページでの固定電話制御の設定とトラブルシューティング

- 「固定電話制御の設定」(P.35-1)
- 「ユーザへの固定電話制御機能の割り当て方法」(P.35-2)

固定電話制御の設定

固定電話制御アプリケーションによって、Cisco Unified Communications Manager とクリック ツー ダイヤル/電話制御タイプ サービスを提供するクライアント アプリケーションとの間の接続性が確保されます。接続する Cisco Unified Communications Manager サーバの数を 8 台までにするように固定電話制御アプリケーションを設定できます。

固定電話制御アプリケーションは、グローバルに有効または無効にすることができます。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [固定電話制御 (Deskphone Control)] > [設定 (Settings)] の順に選択します。
- ステップ 2** 表 35-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

表 35-1 固定電話制御の設定

フィールド	説明
アプリケーションのステータス (Application Status)	リスト ボックスから [オン (On)] または [オフ (Off)] を選択して、固定電話制御アプリケーションのオン/オフを切り替えます。
アプリケーション ユーザ名 (Application Username)	固定電話制御アプリケーションのユーザ名を指定します。 (注) このユーザ名は、Cisco Unified Communications Manager クラスタで設定したアプリケーション ユーザ名と一致する必要があります。
アプリケーション パスワード (Application Password)	固定電話制御アプリケーションのパスワードを指定します。 (注) このパスワードは、Cisco Unified Communications Manager で設定したアプリケーション パスワードと一致する必要があります。
ハートビート間隔 (秒) (Heartbeat Interval (seconds))	ハートビート間隔を秒単位で指定します。 範囲 : 5 ~ 20 秒 デフォルト : 8 秒

表 35-1 固定電話制御の設定 (続き)

フィールド	説明
セッション タイマー (秒) (Session Timer (seconds))	セッション タイマーの値を秒単位で指定します。 範囲 : 1810 ~ 2000 秒 デフォルト : 1810 秒
Microsoft サーバ タイプ (Microsoft Server Type)	使用している Microsoft サーバのタイプを指定します (MOC サーバ OCS や MOC サーバ LCS など)。 デフォルト : Office Communications Server (OCS) 2007
CUCM アドレス (CUCM Address) (サーバ 1 ~ 8)	接続先の Cisco Unified Communications Manager サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。 (注) 固定電話制御アプリケーションに接続する Cisco Unified Communication Manager サーバは、8 台まで設定できます。

ステップ 3 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
- ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

関連項目

『*Integration Guide for Configuring Cisco Unified Presence with Microsoft OCS for MOC Call Control*』

ユーザへの固定電話制御機能の割り当て方法

- 「ユーザへの固定電話制御機能の割り当て」 (P.35-2)
- 「ユーザからの固定電話制御機能の割り当て解除」 (P.35-3)

ユーザへの固定電話制御機能の割り当て

固定電話制御サービスを使用できる Cisco Unified Presence のユーザを特定できます。このサービスはライセンス付きサービスではないため、パフォーマンス上の理由でユーザを制限するための割り当てが必要となります。

固定電話制御機能は、ユーザ単位で有効または無効にすることができます。また、一括割り当てを使用すると、複数のユーザに対して固定電話制御機能を有効または無効にすることができます。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [固定電話制御 (Deskphone Control)] > [ユーザ割り当て (User Assignment)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#)に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。

- 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の操作を実行します。
- a. 検索条件に一致するユーザをチェックします。
 - b. [すべてを選択 (Select All)] をクリックします。
- ステップ 6** [選択したユーザの割り当て (Assign Selected Users)] をクリックします。
- ステップ 7** [固定電話制御の割り当て (Deskphone Control Assignment)] ポップアップ ウィンドウの [固定電話制御を有効にする (Enable Deskphone Control)] をオンにします。これにより、選択したユーザに対して固定電話制御サービスが有効になります。
- ステップ 8** 次のいずれかの操作を実行します。
- a. [保存 (Save)] をクリックします。
 - b. [閉じる (Close)] をクリックして、固定電話制御割り当てを未変更のままにします。

トラブルシューティングのヒント

一致するレコードが表示されたら、[ページあたりの行数 (Rows per Page)] リスト ボックスから別の値を選択して、各ウィンドウに表示される項目の数を変更できます。

関連項目

第 29 章「Cisco Unified Presence での一括管理の使用」

ユーザからの固定電話制御機能の割り当て解除

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [固定電話制御 (Deskphone Control)] > [ユーザ割り当て (User Assignment)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のメニューから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のメニューから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の操作を実行します。
- a. 検索条件に一致するユーザをチェックします。
 - b. [すべてを選択 (Select All)] をクリックします。
- ステップ 6** [選択したユーザの割り当て (Assign Selected Users)] をクリックします。
- ステップ 7** 選択したユーザに対して固定電話制御サービスを無効にするには、[固定電話制御を有効にする (Enable Deskphone Control)] をオフにします。

ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

一致するレコードが表示されたら、[ページあたりの行数 (Rows per Page)] リスト ボックスから別の値を選択して、各ウィンドウに表示される項目の数を変更できます。

固定電話制御機能のトラブルシューティング

- 「固定電話制御トラブルシュータ」(P.35-4)
- 「固定電話制御トラブルシュータのテストと解決策」(P.35-5)
- 「固定電話制御トラブルシュータの使用方法」(P.35-6)
- 「Cisco Unified Presence ユーザの検索」(P.35-7)

固定電話制御トラブルシュータ

固定電話制御トラブルシュータを使用して、初期設定後または設定変更時に Cisco Unified Presence と Microsoft Office クライアント アプリケーションとの統合に関する問題を診断します。このトラブルシュータは、Microsoft LCS/OCS サーバと Cisco Unified Presence の間、および Microsoft Office クライアントと Cisco Unified Presence の間のユーザに関連した問題と接続性に関連した問題を検証します。

このトラブルシュータのテストが終了すると、各テストで次の 3 つのステータスのいずれかがレポートされます。

- テスト合格
- テスト失格
- テスト警告 (設定に関する問題がある可能性を示します)

不合格または警告となったテストごとに、問題点の説明と考えられる解決方法が示されます。

関連項目

「固定電話制御トラブルシュータのテストと解決策」(P.35-5)

固定電話制御トラブルシュータのテストと解決策

表 35-2 では、固定電話制御トラブルシュータのテストと解決策について説明します。

表 35-2 トラブルシュータのテストと解決策

テストの説明	問題の説明	解決策
固定電話制御のテスト		
固定電話制御アプリケーションがアクティブであることを確認します。	固定電話制御サービスが現在非アクティブに切り替えられていることをシステムが示しています。	固定電話制御サービスをアクティブにするには、[アプリケーション (Application)] > [固定電話制御 (Deskphone Control)] > [設定 (Settings)] の順に選択します。詳細については、「 固定電話制御の設定 」(P.35-1) を参照してください。
Cisco Unified Presence ユーザが Cisco Unified Communications Manager に関連付けられている (同期化されている) ことを確認します。	指定されたユーザが Cisco Unified Presence データベースに存在しません。	そのユーザが Cisco Unified Communications Manager パブリッシャに存在し、Standard CCM End Users グループに追加されていることを確認します。
ユーザに Cisco Unified Presence のライセンスがあることを確認します。	指定されたユーザに Cisco Unified Presence のライセンスがありません。	ユーザに Cisco Unified Communications Manager のライセンスを付与します。[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [機能割り当て (Capabilities Assignment)] の順に選択します。
ユーザに固定電話制御機能が現在割り当てられているかどうかを確認します。	現在 MOC 割り当て済みになっているユーザが存在しないことをシステムが示しています。	ユーザに固定電話制御機能を割り当てるには、[アプリケーション (Application)] > [固定電話制御 (Deskphone Control)] > [ユーザ割り当て (User Assignment)] の順に選択します。詳細については、「 ユーザへの固定電話制御機能の割り当て 」(P.35-2) を参照してください。
優先プロキシリスナーの転送タイプが UDP に設定されていないことを確認します。	優先プロキシリスナーの転送タイプが現在 UDP に設定されています。この設定では、MOC 電話制御が正常に動作しません。	優先プロキシリスナーの転送タイプを TCP または TLS に変更します。UDP に設定すると、固定電話制御が正常に動作しません。
LCS/OCS のアドレスが (ローカル/DNS 設定で) 解決可能であることを確認します。	指定された LCS/OCS サーバのアドレスは解決不可です。	指定された LCS/OCS サーバのアドレスが有効であることを確認します。また、DNS 設定をチェックし、そのアドレスが解決可能であることを確認します。つまり、有効なホスト名または完全修飾ドメイン名であることを確認します。

表 35-2 トラブルシュータのテストと解決策（続き）

テストの説明	問題の説明	解決策
LCS/OCS のアドレスが到達可能であることを確認します。	指定された LCS/OCS のアドレスは到達不可です。このアドレスに対して ping を正常に実行できませんでした。	指定された LCS/OCS のアドレスが有効であることを確認します。
LCS/OCS のアドレスに、対応する着信 Access Control List (ACL; アクセスコントロールリスト) エントリが含まれていることを確認します。	指定された LCS/OCS サーバのアドレスから対応する着信 ACL エントリが欠落しています。	指定された LCS/OCS サーバのアドレスに着信 ACL エントリが含まれていることを確認します。

固定電話制御トラブルシュータの使用方法

始める前に

- 表 35-2 を参照して、MOC トラブルシュータで実施されるテストを確認してください。

手順

-
- ステップ 1** [診断 (Diagnostics)] > [固定電話制御トラブルシュータ (Deskphone Control Troubleshooter)] の順に選択します。
- ステップ 2** 次の操作を実行します。
- [ユーザ (User)] フィールドにユーザ ID を入力します。
 - [LCS/OCS アドレス (LCS/OCS Address)] フィールドに LCS/OCS サーバのアドレスを入力します。
 - [送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 3** 不合格または警告となった各テストの結果の表を検証します。
- ステップ 4** 不合格または警告となったテストごとに、解決策の列で [fix] リンクをクリックし、[Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] ウィンドウに移動します。このウィンドウには、設定トラブルシュータで検出された問題が表示されます。
- ステップ 5** 見つかった設定エラーを修正して、トラブルシュータを再度実行します。
-

関連項目

- 「固定電話制御トラブルシュータ」(P.35-4)
- 「Cisco Unified Presence ユーザの検索」(P.35-7)

Cisco Unified Presence ユーザの検索

ネットワークに Cisco Unified Presence ユーザが複数存在する場合がありますため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のユーザを検索できます。

手順

- ステップ 1** [診断 (Diagnostics)] > [固定電話制御トラブルシュータ (Deskphone Control Troubleshooter)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ユーザ ID (User ID)] フィールドの隣にある [検索 (Search)] をクリックします。
- ステップ 3** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 5](#)に進みます。
- ステップ 4** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 5** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 6** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコードリストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)



INDEX

A

ACL

着信

エントリの検索 [6-3, 19-2](#)

エントリの削除 [19-3](#)

設定 [6-2, 19-1](#)

説明 [19-1](#)

プライバシー

エントリの検索 [7-3](#)

エントリの削除 [7-4](#)

設定 [7-2](#)

説明 [7-1](#)

AXL

設定 [3-1](#)

設定値 [3-1](#)

B

BPS

アクティブ化 [31-1](#)

起動 / 停止 / 再起動 [31-2](#)

非アクティブ化 [31-2](#)

Bulk Provisioning Service

「BPS」を参照

C

Cisco MeetingPlace

サーバ

概要 [22-1](#)

検索 [22-4](#)

削除 [22-5](#)

設定 [22-1](#)

プロファイル

検索 [22-7](#)

削除 [22-8](#)

設定 [22-5](#)

Cisco Unified Presence

サーバの設定 [2-1](#)

Cisco Unified Presence Server

ユーザ [29-4](#)

ユーザのエクスポート [29-7](#)

ユーザの更新 [29-5](#)

Cisco Unified Presence の管理ページ

参考情報 [1-10](#)

ナビゲーション [1-2, 1-5](#)

ブラウザで表示 [1-4](#)

ログイン [1-4](#)

ログオフ [1-5](#)

Cisco Unity

ホストの設定 [21-3](#)

Cisco Unity サーバ

概要 [21-1](#)

検索 [21-4](#)

削除 [21-4](#)

Cisco Unity プロファイル

概要 [21-5](#)

検索 [21-7, 21-11, 29-8](#)

削除 [21-7, 21-12](#)

設定 [21-5, 21-8](#)

CTI

ゲートウェイ サーバ

概要 [23-1](#)

検索 [23-2](#)

削除 [23-3](#)

設定 [23-1](#)

ゲートウェイ プロファイル

概要 [23-4](#)

検索 [23-6](#)

削除 [23-7](#)

設定 [23-4](#)

H

HTTPS

HTTP over Secure Sockets Layer [1-8](#)

IE と

Cisco Unified Presence の管理ページでの使用 [1-9](#)

I

IE と HTTPS

Cisco Unified Presence の管理ページでの使用 [1-9](#)

Internet Explorer と HTTPS

Cisco Unified Presence の管理ページでの使用 [1-9](#)

IP Phone Messenger

「IPPM」を参照

IPPM

エンドユーザのログアウト [25-2](#)

応答メッセージ

概要 [25-5](#)

検索 [25-6](#)

設定 [25-5](#)

ステータス

概要 [25-1](#)

検索 [25-1](#)

設定

設定 [25-3, 25-7](#)

設定値 (表) [25-4, 25-7](#)

IP アドレス [2-1](#)

L

LDAP

サーバ

概要 [24-1](#)

検索 [24-2](#)

削除 [24-3](#)

設定 [24-1](#)

プロファイル

概要 [24-4](#)

検索 [24-6](#)

削除 [24-7, 25-6, 35-3](#)

設定 [24-4](#)

T

TLS

コンテキスト

検索 [8-3](#)

削除 [8-4](#)

設定 [8-1](#)

設定の概要 [8-1](#)

ピア サブジェクト

概要 [9-1](#)

検索 [9-2](#)

削除 [2-5, 2-10, 9-3](#)

設定 [9-1](#)

設定値 (表) [2-4](#)

U

Unified Personal Communicator

LDAP アトリビュート マッピング (表) [20-2](#)

設定

概要 [20-1](#)

設定 [20-1](#)

設定値 (表) [20-2](#)

ユーザ設定 [20-3](#)

ユーザの検索 [20-5](#)

ユーザの削除 [20-6](#)
 ユーザの設定 [20-3](#)

設定 [10-1](#)
 削除、ファイル [29-4](#)

あ

アクセシビリティ
 ボタンとアイコンへのアクセス [1-6](#)
 アクセス コントロール リスト
 「ACL」を参照
 アップロード、ファイル
 概要 [29-1](#)
 手順 [29-3](#)
 アプリケーション ユーザ
 検索 [27-4](#)
 設定 [27-1](#)
 追加 [27-1](#)
 パスワードの変更 [27-5](#)

け

権限
 概要 [28-1](#)
 検索 [28-3](#)
 削除 [28-4](#)
 設定 [28-2](#)
 ユーザ グループおよびアクセス権の表示 [30-6](#)
 ユーザ グループへの割り当て [30-4](#)
 検索、ジョブ [31-5](#)

さ

サーバ
 設定 [2-1](#)
 サービスのアクティブ化
 BPS [31-1](#)
 サービス パラメータ
 サービス パラメータの設定 [10-1](#)
 サービス パラメータの表示 [10-2](#)

し

ジョブ
 BPS のアクティブ化 [31-1](#)
 BPS の起動 / 停止 / 再起動 [31-2](#)
 BPS の非アクティブ化 [31-2](#)
 検索 [31-5](#)
 スケジューリング [31-1, 31-3](#)
 ログ ファイルの表示 [31-4](#)

す

スケジューリング、ジョブ [31-1, 31-3](#)
 スタティック ルート
 概要 [17-1](#)
 検索 [17-4](#)
 削除 [17-5](#)
 設定 [17-1](#)
 ステータス
 同期
 パラメータ (表) [32-2](#)
 表示 [5-7, 32-1](#)

た

ダウンロード、ファイル
 概要 [29-1](#)
 手順 [29-3](#)

と

同期ステータス
 パラメータ (表) [32-2](#)
 表示 [5-7, 32-1](#)
 ドメイン ネーム サーバ (DNS) [2-1](#)

トランスポート レイヤ セキュリティ

「TLS」を参照

な

ナビゲーション

Cisco Unified Presence の管理ページ **1-2, 1-5**

は

パラメータ

サービス パラメータの設定 **10-1**

サービス パラメータの表示 **10-2**

設定 **10-1**

ふ

ファイル

アップロード **29-3**

検索 **29-2**

削除 **29-4**

ダウンロード **29-3**

フェデレーション ドメイン

エントリの検索 **14-2**

エントリの削除 **14-3**

設定 **14-1**

ブラウザでの操作

Cisco Unified Presence **1-4**

セキュリティ

Hypertext Transfer Protocol **1-8**

プラグイン

URL の更新 **26-2**

設定 **26-1**

プレゼンス エンジン

転送リスナー

概要 **4-1, 32-1**

検索 **4-3**

削除 **4-4**

設定 **4-1**

設定値 (表) **13-4**

プレゼンス ゲートウェイ **12-1**

プレゼンス ゲートウェイ

検索 **12-7**

削除 **12-8, 15-3**

設定 **12-1, 15-1**

プロキシ サーバ

設定 **16-1**

プロキシ サービス

再起動 **16-2**

め

メソッド / イベント ルート

概要 **18-1**

検索 **18-2**

削除 **18-3**

設定 **18-1**

ゆ

ユーザ

アプリケーション

検索 **27-4**

設定 **27-1**

追加 **27-1**

パスワードの変更 **27-5**

エクスポート **29-7**

更新 **29-4, 29-5**

レコードのエクスポート **29-9**

ユーザ グループ

概要 **30-1**

権限の割り当て **30-4**

検索 **30-3**

削除 **30-5**

設定 **30-1**

ユーザの権限、ユーザ グループ、およびアクセス権の表示 **30-6**

ユーザの削除	30-6
ユーザの追加	30-3
ユーザ設定	20-3
ユーザ レコードのエクスポート	29-9

ら

ライセンス	
ライセンス ファイル	
アップロード	5-1, 5-7
内容	5-2
ライセンス ファイルのサンプル	5-2
ライセンス ファイルの取得	5-3
ライセンス ユニット レポート	
生成	5-5

ろ

ログイン	
Cisco Unified Presence の管理ページ	1-4
ログオフ	
Cisco Unified Presence の管理ページ	1-5
ログ ファイル	
ジョブのログ ファイルの表示	31-4

